

創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解

—文化に固有な舞踊運動の体感を通して—

21500553

平成21年度～23年度科学研究費補助金

(基盤研究 (C))

研究成果報告書

研究代表者 柴 真理子

お茶の水女子大学大学院教授

2012年3月 (平成24年3月)

創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解

—文化に固有な舞踊運動の体感を通して—

창조적 신체표현활동에 의한 태도변용과 이문화이해

-문화에 갖든 고유한 무용운동의 체감을 통하여-

平成 21 年度～23 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (一般) (研究課題番号 21500553)

目 次

I. 研究概要	2
1, はしがき	
2, 研究組織	
3, 研究経費	
4, 各年度の取り組み 研究の概要と総括	
II. 各年度の実験内容 (プロトコル及び記録用紙)	8
1. 2009 年度実験 舞踊運動の体感に関する日韓比較～日本人学生を対象に～	
2. 2009 年度実験 舞踊運動の体感に関する日韓比較～韓国人ダンサーを対象に～	
3. 2010 年度実験 創造的身体表現の体感と異文化理解 (日本語版) 창조적 신체표현의 체감과 이문화이해 (韓国語版)	
4. 2011 年度実験 創造的身体表現の体感と異文化理解II (日本語版) 창조적 신체표현의 체감과 이문화이해 (韓国語版)	
III. 研究成果	29
1. 舞踊行動の体感に関する日韓比較 무용행동의 체감에 관한 일한 비교 Japan-South Korea comparative experiments about the bodily sensation of dance behavior 柴真理子・南貞鍋・猪崎弥生・李世珍・小堀結香・高田装子・中川由香子 表現文化研究 第10巻第2号 2010年度 神戸大学表現文化研究会 pp. 235-245. 2011. 3.	
2. 日韓の舞踊専攻生によるデュエット時の動きと体感の変容 한일 무용전공생에 의한 듀엣의 움직임과 체감의 변용 柴真理子・坪倉紀代子 第63回舞踊学会大会研究発表抄録集 p. 20 (日本語版・韓国語版)	
IV. 資料	63
1. 創造的身体表現の体感と異文化理解(2010)に関する資料	
2. 創造的身体表現の体感と異文化理解II(2011)に関する資料	

I. 研究の概要

1. はしがき

本研究の目的は、日本及び韓国という東アジア文化圏に位置づけられ、共通性は高いものの、異なる点も含む文化圏を対象に、それぞれの文化が有する固有な動きを基盤に、各文化の担い手である舞踊家が作成した創造的身体表現（舞踊運動）を、両国の学生等が単独で、あるいは、同じ国の人と、または、他国の人と共に踊る際の体感の評価を通じて、同じ場に身体を置いての創造的身体表現活動が個々人の態度変容に及ぼす影響と異文化間の相互理解に果たす役割について考察することであった。

本研究は日韓の国際協力実験であるため、韓国の舞踊研究者及び被験者の協力が必須であった。研究協力者の韓国芸術総合学校舞踊学部の南貞鍋（NAM, Jeongh）教授とは、研究開始以前から研究交流を継続し、研究開始後の2010年には、同舞踊学部とお茶の水女子大学文教育学部との学部間協定締結という関係にあり、また、同教授の教え子である李世珍がお茶の水女子大学大学院に留学中（2011年3月に博士号を取得）で、その指導教員が柴であることから、NAM教授との連絡調整はスムーズに進んでおり、日韓の国際協力実験を遂行するにふさわしい環境にあった。

このような緊密な関係の下に、3年計画の研究を進めることになったが、2年目の2010年11月23日には延坪島砲撃事件が、また3年目の2011年3月11日には東日本大震災があり、計画を予定通り、進めることができなかった。しかし、今回の研究は、2国の研究者と被験者である学生が同じ場に集い、そこで共に創り踊ることがベースであり、これを抜きにしては研究が成立しないため、NAM教授、及び両国の学生の協力を得て、実験の時期をずらしたり、被験者の数を減らすことによって対応した。

2. 研究組織

研究代表者	柴 真理子	お茶の水女子大学大学院教授
研究協力者	南 貞鍋	韓国芸術総合学校教授
	猪崎 弥生	お茶の水女子大学大学院教授
	坪倉紀代子	十文字学園女子大学教授

3. 交付決定額（配分額）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 22 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
平成 23 年度	900,000	270,000	1,170,000
総 計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

4. 研究概要と総括

1) 研究の学術的背景

異文化における舞踊の研究においては、これまで民族舞踊や舞踊作品そのものを対象とした現象面や形態面からのアプローチが主であり、自国と他国の舞踊運動を共に踊ることによりもたらされる踊り手や観察者の内面に着目した異文化理解の観点からの学術的研究は行われていない。

また、舞踊運動の内的経験に伴う体感による感情価に関する心理学的・舞踊教育学的研究は、国内外において柴を代表とする舞踊学研究グループを中心に進められているのみである（参考文献1,2）。その理由として、体感が人間の共通感覚の核であり³、舞踊の重要構成要素であるにもかかわらず、これまでの舞踊学は、踊り手（身体表現の主体）の審美的側面等を含む「外なる舞踊」の研究が主であったことに加え、踊り手の舞踊運動及びその観察者の体感の認知・態度変容に係る客観的分析手法が確立されていなかったため、研究課題にすることが困難であったためと推察される。

このように、本研究に関連する先行研究はきわめて少ないが、筆者が中国とノルウェーで行った体感評価実験⁴から、国際化の時代に、同じ場に身体をおいての創造的身体表現の活動が、身体を通しての異文化理解の一翼を担うという仮説が導出されている。本仮説の実証は、現代のグローバル化・情報化の著しい進展において、自己理解・受容や他者理解の困難性など、人間が本来的に自然に持つ感情や他者への共感性からの疎外が指摘される中で、舞踊運動がもたらす原初的な感性コミュニケーションと体感の関係性を心理学的・人間工学的に明らかにすることへの貢献が期待されるとともに、言語外の異文化コミュニケーションの在り方を探求する上で、意義のある先駆的な試みであると言える。

柴は、舞踊運動を行う者自身の中にどのような感情が生起し、感受するのかという側面、すなわち「体感」という視点から身体運動と感情の関係に関する研究を継続している。

これまでの研究では、日本人舞踊家と学生を対象にした実験を通して、舞踊運動を踊る際の体感とは、舞踊運動そのものが有する基本感情のみならず、踊り手自身のその時々身体の状態や感情、気分への気づきをもたらすこと、また、二人で踊る場合、相手が変わると同じ舞踊運動を踊っても体感が異なることなどを心理的な印象評価分析や物理的な3次元動作分析から学際的に明らかにしてきた。

また、現代社会の国際化を念頭に、中国とノルウェーにおいて異なる文化圏に属する人々を対象に、日本人が作成した舞踊運動の「みえ」による印象評価実験と、実際に踊っての体感評価実験を実施し、その結果、感情の種類（楽しい、悲しい、やさしい、怒り、厳かな等）によって、文化圏の異なりに関係なく同じ印象・体感を得るものと、文化圏の異なりにより印象・体感が異なるものがあることを明らかにした⁴。

これらの研究に基づき、異なる文化や性による体感の比較から原初的な感性コミュニケーションの成立に必須である身体表現に係る認知構造の特性を導出することの可能性が示唆された。

文化圏により言語は異なり、その言語理解はバーバル（理性的）・コミュニケーションのために必須であることは自明である。一方、ノンバーバル（感性的）の側面では、同じ舞踊

運動（身体表現）を見る、あるいは、踊る行為において、その印象や体感が異文化圏で認知的に異なることを実証した研究は一部で行われているが、そこから文化圏の異なる人々との間において、どのような身体表現活動を行うことがより豊かなコミュニケーションに繋がるのかという問題については未だ、学術的・客観的な説明が行われていない。

本研究は、これまでの一連の研究の延長線上で生じてきた課題に、国際的な視野に立って取り組むものであった。

2) 研究目的

本研究の目的は、1. はしがき に書いたように、「日本及び韓国という東アジア文化圏に位置づけられ、共通性は高いものの、異なる点も含む文化圏を対象に、それぞれの文化が有する固有な動きを基盤に、各文化の担い手である舞踊家が作成した創造的身体表現（舞踊運動）を、両国の学生等が単独で、あるいは、同じ国の人と、または、他国の人と共に踊る際の体感の評価を通じて、同じ場に身体を置いての創造的身体表現活動が個々人の態度変容に及ぼす影響と異文化間の相互理解に果たす役割について考察すること」であった。

ここでは、交付期間内に、以下を実施することを目的としていた

①韓国の舞踊における基本感情を表す舞踊運動の作成

柴ら日本の舞踊学研究グループが作成した舞踊における基本感情を表す6つの舞踊運動を基に、韓国の舞踊研究者が、韓国文化圏に固有な動きを基盤に同様の6つの舞踊運動を作成する。韓国の舞踊家にそれらの舞踊運動を踊ることを求め、ビデオに収録する。

②日本及び韓国の学生による舞踊運動の体感の評価

①で作成した12の舞踊運動について、両国の学生等が単独で、あるいは、同じ国の人と又は他国の人と共に踊る際の印象と体感に係る評価を行う。舞踊者の意図と学生等の受容する体感に係るノンバーバル・コミュニケーションの差異についても評価を行う。

③4つの仮説の検証：

<仮説1> 身体運動による感情表現には、それぞれの文化圏に固有な動きが息づいている。

<仮説2> 踊り手の属する文化圏が異なれば、同じ舞踊運動を踊っても、体感に相違がみられる。

<仮説3> 同じ文化圏に属する踊り手によるデュエットと、異なる文化圏に属する踊り手によるデュエットでは、その舞踊運動の体感に相違が見られる。

<仮説4> 異なる文化圏に属する踊り手がデュエットを繰り返し体験することにより、お互いの体感が類似してくる。

3) 学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

韓国と日本という2つの異なる文化圏を対象に、その文化の担い手がそれぞれの文化圏に固有な動きを基盤に、舞踊における6つの基本感情5（楽しい・悲しい・やさしい・怒り・厳かな・穏やかな）を表す6つの舞踊運動を作成し、それらの舞踊運動の運動特性と表現特性を対象として物理的・心理的に外面・内面から科学的・客観的に分析することは、国内はもとより世界的にも初めての試みである。また、人間本来の自然的感情を表現する舞踊運動

を、同じ文化に属する人と踊る、また、異なる文化に属する人と踊ることによる踊り手の態度変容と、舞踊家の意図と同文化圏または異文化圏に属する学生等の認知内容の差異の評価分析も、独創性が高い。

これまでの一連の研究から、本研究において、異なる文化圏に属する人と、自文化の舞踊運動を、または、他文化の舞踊運動を繰り返し踊る過程で、身体を通して自文化の舞踊運動の特徴を他者に伝え、他文化の舞踊運動の特徴を身体を通して感受するようになり、そのことはお互いの文化の感情表現の在り方を受容（了解）することでもあるという結果が予想される。

この予想結果は、本実験の実験内容そのものが、現代社会に欠け、また国際社会で必要とされるお互いの気持ちをわかりあう感性コミュニケーション（原初的コミュニケーション）6の力を磨くという意義を持つと考える。

〔文献〕

1. 柴真理子：舞踊運動の体感の変化のプロセスとその意味，バイオメカニズム学会誌vol. 29 No. 3 pp. 124-128. 2005.
2. 原田順子・柴真理子・猪崎弥生・塚本順子：踊る技術の向上と体感獲得の過程—舞踊経験の浅い学生の感情価に基づいて— 体育科教育学研究21(2) pp. 31-44. 2005.
3. 中村雄二郎 『共通感覚論』 岩波現代文庫. 2000
4. Kiyoshi Maiya, Mariko Shiba “Bodily Sensation in Dance ;its Formation and Cultural Difference” Proceedings of The First International Workshop on Kansei, pp. 110-113. 2006.
5. 柴真理子・坪倉紀代子・猪崎弥生・原田順子・塚本順子：体感からとらえた舞踊運動の基本感情とその用語，神戸大学発達科学部研究紀要 第12 巻第2 号，pp. 113-126. 2005.
6. 鯨岡峻 『原初的コミュニケーションの諸相』 ミネルヴァ書房. 1997.

4) 各年度の取組み

上述のような研究背景、研究目的、学術的特色・意義を有する本研究は、延坪島砲撃事件、及び東日本大震災があり、予定通り、研究を進めることができなかったが、各年度の取組みは以下の通りであった。

【平成22年度科学研究費補助金実績報告書】

本研究の目的は、各文化の担い手である舞踊家が作成した創造的身体表現（舞踊運動）を、両国の学生等が単独で、あるいは、同じ国の人と、または、他国の人と共に踊る際の体感の評価を通じて、同じ場に身体を置いての創造的身体表現活動が個々人の態度変容に及ぼす影響と異文化間の相互理解に果たす役割について考察することである。

初年度である本年は、①韓国芸術総合大学南貞鍋教授に依頼し、舞踊における基本感情を表す6つの舞踊運動（楽しい・悲しい・怒り・やさしい・穏やかな・厳かな）の創作とそれを収録したDVDの制作。②予定では、これら6つの舞踊運動について柴らが作成済みであり、それを本研究でも使う予定であったが、作成済みの舞踊運動はすべての人が踊ることのでき

るように作成されたものであるため、南教授作成のレベルと合わせるために、お茶の水女子大学教授である猪崎・柴が、新たに6つの舞踊運動の創作とDVDを制作。③お茶大舞踊教育専攻生を被験者として①と②の12の舞踊運動について、みえと体感による感情価に関する実験、及び、民族に固有な歩行をみるための歩行計測を実施。④韓国芸術総合大学舞踊学部卒業のダンサーを被験者に③と同様の実験を実施した（場所：お茶の水女子大学）。21年度の当初の計画では、6つの基本感情を表す舞踊運動の策定と舞踊運動の分析を計画していたが、南教授の協力を得て、研究の中核であるみえと体感実験を実施できた。しかし、その時期が2月であったため、研究発表を年度内にはできなかった。初年度に、日韓両国、それぞれの舞踊専攻生、ダンサーを被験者に6つの舞踊運動のみえと体感に関する実験を実施できたことが、韓国人研究者・被験者と本研究の意義を共有する機会となり、また次年度以降具体的に取り組むべき新たな課題を得ることができた。

【平成22年度科学研究費補助金実績報告書】

平成21年度に日韓の舞踊専攻生を被験者に実施した舞踊運動のみえと体感による感情価に関する実験結果に基づき、平成22年度は本研究の中核を成す実験調査を、日韓の舞踊研究者・舞踊専攻生が一堂に会して12月に国立韓国芸術総合学校（ソウル）で実施した。被験者はお茶の水女子大学舞踊教育学コースと韓国芸術総合学校舞踊院創作科に在籍する学生5名ずつであり、被験者は予め決められた同国人同士と、異国人との二人組で、①課題の動きを二人で踊る、②各自、課題の動きを発展させて一まとまりの動きを創る、③二人組になり各自が創った動きを教えあい、二人で踊る④二人での即興（テーマ『対話』）という4つの課題を行った。被験者には、各課題の実践後に、活動中の体感の振り返りを自由に記述することを求めた。その結果、日韓両被験者の記述から、異国人とのデュエットでは、初めは文化が異なり言葉も通じない相手にとまどい、相手の様子をうかがい、動きを合わせることに終始しているが、実験が進むにつれて、相手の呼吸を感じ、呼吸を合わせるできるようになり、敢えて目を合わせなくても安心感があり、信頼感、一体感、意思疎通ができるようになっていき、同国人とのデュエットでは、異国人とのデュエットを経験したことで、同国人と踊る時には言葉で伝えられるということがかえって身体で感じる閾値を低くしていることに気づき、その気づきによって、最後の同国人との即興では感覚がより鋭敏になって踊れるようになっていく傾向があることがわかった。

【平成23年度科学研究費補助金実績報告書】

平成22年に韓国芸術総合学校で、日韓の舞踊学専攻学生10名を被験者に実施した体感による認知実験の結果に基づき、平成23年度は、二つの被験者群（①既知の異国人とのデュエット②未知の異国人とのデュエット）を設定し、二人組での舞踊活動時の体感実験を行う予定であったが、東日本大震災により、実験の時期が大幅にずれこみ、2カ国の学生が10名一同に介しての実験は不可能となった。そこで、韓国人学生2名（1名は平成22年度の実験に参加、1名は今回初参加）を日本に迎えての実験へと変更し、以下の課題での実験を実施した。

【実験課題】①実験材料（日本人作成の『楽しい』）の動きを覚えて二人で踊る ②ピアノ曲演奏での二人での即興 ③テーマ「分かち合う喜び」での二人での即興 ④ピアノ曲での即興から作品へ ⑤お茶の水女子大学舞踊教育学コースの卒業公演での体感

その結果、平成22年度は、実験者が設定した実験材料の動きを課題とした実験であったのに対し、今年度は課題がピアノ曲と言葉で示したテーマであったため、動きは一から被験者に委ねられることとなり、その結果、コンタクトの動きに終始する傾向となり、実験者が考えていたのとは異なる展開（コンタクトしていることによる安心感から離れにくい）となり、二人で踊ることにより得られる体感が狭い範囲にとどまったと考察された。従って、平成23年度の実験は、当初の目的とは違って、「コンタクトインプロビゼーションによってもたらされる体感」の事例を示すこととなった。

5) 総括

はしがきに書いたように、本研究期間中に延坪島砲撃事件と東日本大震災があり、研究計画を大幅に変更することとなったが、そのような状況の中でも、両国の学生が一同に介しての実験が実施できたことはありがたいことであった。2国の研究者と被験者である学生が同じ場に集い、そこで共に創り踊ることをベースとする本研究は、遠隔の地に住む生身の人間が時間・空間を共有する環境づくりが容易なことではなかったが、実際に時間・空間を共有して、刻々と変化する状況での舞踊活動は、実験の場としてのみならず、この研究に関わるすべての人々にとって舞踊を通しての異国人とのかかわり、またそのことの意味を感受し考える貴重な経験となった。

このような貴重な経験からえられた研究成果の中からそのエッセンスをここに記し、総括としたい。

「創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解」について、既知の同国人との踊りでは最初から身体的引き込み現象が起こり、間主観的な世界が成立しているのに対し、未知の異国人と踊りでは初めは文化が異なり言葉も通じない相手にとまどい、相手の様子をうかがい、動きを合わせることに終始している。しかし、実験が進むにつれて、相手の呼吸を感じ、安心感、信頼感、一体感が生まれ、意思疎通ができるようになる、即ち、同じ異国人との活動を積み重ねることにより、次第に身体的引き込み現象が生じ、間主観的な世界が成立してくる。

そして、被験者は異国人に呼吸で動きを教え、呼吸で共に踊ることによって、ノンバーバル・コミュニケーションである舞踊の特質を再認識し、そのことが同国人同士のデュエットにも新鮮さをもたらしている。実験が進むにつれて文化の異なる者同士の距離が縮まり、呼吸をはじめ様々な体感を共有し、わずか一日の舞踊活動の中で、初めにあった同国人で踊ることに対する体感と異国人と踊ることに対する体感の相違は次第になくなり、共にわかりあう間主観的世界が成立してきている。

ここに、創造的表現活動による異文化間の相互理解の一つの様相をみることができよう。

II. 各年度の実験内容

1. 2009 年度実験 舞踊運動の体感に関する日韓比較～日本人学生を対象に～

1) プロトコル

【日 時】2010 年 2 月 12 日

【場 所】お茶の水女子大学ダンス室

【被験者】お茶の水女子大学舞踊教育学コース学生 12名
(学部生 7名、大学院生 5名)

【実験材料】A.日本人作成の舞踊運動1～舞踊運動6 6つの舞踊運動

B.韓国人作成の舞踊運動1～舞踊運動6 6つの舞踊運動

【実験目的】

日本人教授が作成の6つの舞踊運動(A)と韓国人教授が作成の6つの舞踊運動(B)、合計12の舞踊運動のみえによる感情価と体感による感情価を調査する。

【実験手順】

時間	内 容	備 考
10分	W-up	ビデオカメラ・モニターの準備
	実験の説明	記録用紙 Japan と鉛筆を配布
15分	【みえによる感情価】全員で舞踊運動 J1～J6 を一つずつ順番にビデオでみ、それぞれの舞踊運動の感じをチェックリストにある感情語から 5 語以内を選択する。+自由記述	ビデオは 1 回みせる。
	【体感による感情価】 ①全員で舞踊運動 J1 をビデオでみて覚えるまで練習する。	ビデオは 5 回みせる。
	②覚えたら、実験者の合図で全員が一斉に舞踊運動 J1 を踊り、直に体感をチェックリストにある感情語から 3 つ選択。+自由記述	
	③J2～J6 の舞踊運動について①②の繰り返し。	
	【被験者の踊りの収録—体感による感情価の確認】 ひとりずつ順番に舞踊運動 J1 をビデオに収録。撮影後に体感を確認する。もし、修正する場合は、赤ペンで修正する。	
	J2～J6 の舞踊運動について収録—確認の繰返	記録用紙 Japan の回収
休憩		
25分	【みえによる感情価】全員で舞踊運動 K1～K6 を一つずつ順番にビデオでみ、それぞれの舞踊運動の感じをチェックリストにある感情語から 5 語以内を選択する。+自由記述	記録用紙 Korea の配布 ビデオは 1 回みせる。
	【体感による感情価】 ①全員で舞踊運動 K1 をビデオでみて覚えるまで練習する。	ビデオは 5 回みせる。
	②覚えたら全員が一斉に舞踊運動 J1 を踊り、すぐにその体感をチェックリストにある感情語から 3 つ選択。+自由記述	
	③K2～K6 の舞踊運動について①②の繰り返し。	
	【被験者の踊りの収録—体感による感情価の確認】 ひとりずつ順番に舞踊運動 K1 をビデオに収録。撮影後に体感を確認する。もし、修正する場合は、赤ペンで修正する。	
	K2～K6 の舞踊運動について収録—確認の繰返	記録用紙 Korea の回収

2) 記録用紙 (一部)

感情語の Check List

1, 楽しい	2, 苦しい	3, 静謐な (静かな)
4, やさしい	5, 寂しい	6, 冷たい
7, 穏やかな	8, 神聖な	9, 怖い
10, 怒り	11, 嬉しい	12, 優美な
13, 悲しい	14, あたたかい	15, 幸せな
16, 厳かな	17, のびやかな	18, 喜び

【舞踊運動のみえによる感情価】 (Japan, Korea)

ビデオで舞踊運動をみて、その舞踊運動がどのような感じがしたか、その感じを Check List にある用語の中から 5 語以内で選択して下さい。また Check List にない感じについては自由に記述して下さい。

舞踊運動		感情語 (選択は 5 語以内)
J 1	番号	
	自由記述	

【舞踊運動の体感】 (Japan, Korea)

ビデオで舞踊運動をみて、その運動を覚えるまで練習します。その後、その舞踊運動を 1 回踊り、その舞踊運動を踊ってどのような感じがしたか、その体感を Check List にある用語の中から 5 語以内で選択し、それぞれの語について体感の強さを 4 段階でこたえて下さい。また Check List にない感じについては自由に記述して、体感の強さを 4 段階 (数字) でこたえて下さい。



* 体感の強さは右記の通り

- | |
|--------------|
| 1. や や (楽しい) |
| 2. (楽しい) |
| 3. かなり (楽しい) |
| 4. 非常に (楽しい) |

感情語

	1 2 3 4
	1 2 3 4
	1 2 3 4
	1 2 3 4
	1 2 3 4

(その他の感じ)

2. 2009 年度実験 舞踊運動の体感に関する日韓比較～韓国人ダンサーを対象に～

1) プロトコル

【日 時】平成 22 年 2 月 15 日（月）13 時～19 時

【場 所】お茶の水女子大学ダンス室

【被験者】韓国芸術総合大学舞踊学院卒業生 ダンサー 5 名

【実験材料】A. 日本人作成の舞踊運動 1～舞踊運動 6 6つの舞踊運動

B. 韓国人作成の舞踊運動 1～舞踊運動 6 6つの舞踊運動

【実験目的】日本人教授が作成の 6 つの舞踊運動（A）と韓国人教授が作成の 6 つの舞踊運動（B）、合計 12 の舞踊運動のみえによる感情価と体感による感情価を調査する。

【実験手順】

時 間	内 容	備 考
13:30	W-up	ビデオカメラ・モニターの準備
	実験の説明	記録用紙 Korea と鉛筆を配布
	【みえによる感情価】全員で舞踊運動 J1～J6 を一つずつ順番にビデオでみ、それぞれの舞踊運動の感じをチェックリストにある感情語から 5 語以内を選択する。	ビデオは 1 回みせる。
	【体感による感情価】 ①全員で舞踊運動 J1 をビデオでみて覚えるまで練習する。	ビデオは 5 回みせる。
	②覚えたら、実験者の合図で全員が一斉に舞踊運動 J1 を踊り、すぐにその体感をチェックリストにある感情語から 3 つ選択。	
	③J2～J6 の舞踊運動について①②の繰り返し。	
14:50	【被験者の踊りの収録】 ひとりずつ順番に舞踊運動 J1 をビデオに収録。	
	J2～J6 の舞踊運動について収録	記録用紙 Japan の回収
休 憩		
15:05	【みえによる感情価】全員で舞踊運動 K1～K6 を一つずつ順番にビデオでみ、それぞれの舞踊運動の感じをチェックリストにある感情語から 5 語以内を選択する。	記録用紙 Korea の配布 ビデオは 1 回みせる。
15:20		
15:20	【体感による感情価】 ①全員で舞踊運動 K1 をビデオでみて覚えるまで練習する。 ②覚えたら全員が一斉に舞踊運動 K1 を踊り、すぐにその体感をチェックリストにある感情語から 3 つ選択。	ビデオは 5 回みせる。
16:20		
16:30	【被験者の踊りの収録】 ひとりずつ順番に舞踊運動 K1 をビデオに収録。	
17:30	K2～K6 の舞踊運動について収録—確認の繰り返し	記録用紙 Korea の回収
休 憩	実験補助者は歩行計測の準備	
18:00	【歩行計測】一つずつ順番に歩数計を装着して、「普通の歩行」と	
18:30		

3. 2010 年度実験 創造的身体表現の体感と異文化理解

1) プロトコル

【日 時】2010 年 12 月 19 日 11 時～19 時、

【場 所】韓国芸術総合学校ダンス室

【被験者】お茶の水女子大学舞踊教育学コース学生 5 名（学部生 2 名、大学院生 3 名）

本田優帆 佐野由衣帆 小堀結香 中川由佳子 高田装子

韓国芸術総合学校 5 名（学部生 5 名）

Ko Sanga, Hong Jihyun, Jun Jiyaе .Lim Daun, Jun Suhee

【補助】 Jung Yoonjong, Yang Hongsoe

【通 訳】李世珍

【実験材料】日本人作成の舞踊運動『怒り』『悲しい』『楽しい』

韓国人作成の舞踊運動『怒り』

実験材料の表記

作	怒り	悲しい	楽しい
日本人	『J-怒り』7 秒	『J-悲しい』14 秒	『J-楽しい』11 秒
韓国人	『K-怒り』18 秒		『K-楽しい』41 秒

【被験者のグルーピング】

A グループ 『怒り』 J1, J2, K1, K2 B グループ 『悲しい』 J3, J4, K3, K4

C グループ 『楽しい』 J5, K5, J1, K2

【実験手順】

時 間	内 容	備 考
20 分	実験の準備	ビデオカメラ・モニターの準備
	実験の説明	記録用紙と鉛筆を配布
W-up K-楽しい 舞踊 1 15 分	①全員で『K-楽しい(41 秒)』をビデオでみて覚える。 ②同国人同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を 3 回繰り返して踊る。 ③異国同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を 3 回繰り返して踊る。 踊り終わっての体感を自由記述。	『K-楽しい』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。 ⇒体感を自由記述
J-怒り 舞踊 2 15 分	【動きの発展～ソロ～】 10 人 ①全員で『J-怒り(7 秒)』をビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて 20～30 秒程度の動きにまとめる。 ②一人ずつ順番にビデオに収録。 踊った人は踊り終わっての体感（イメージや感じ）を自由記述。	『J-怒り』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。 ・ 一人ずつビデオに収録 ・ 本人⇒体感を自由記述
15 分	【デュエット】 A グループ 同国人によるデュエット J1-J2, K1-K2 ①二人組でお互いの動きを教えあう。ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。 ②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K1) が自分の動きで動きだす、J2 (K2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(おおよそ 1 分程度)。 ③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を自由記述	*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述 ⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述

15分	<p>異国のひととのデュエット J1-K1, J2-K2</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 <u>ビデオに収録</u> 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその<u>体感を自由記述</u>。</p> <p>② 二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K2) が自分の動きで動きだす、k1 (J2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(およそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を<u>自由に記述</u></p>	<p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述</p> <p>⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述 (記録用紙の回収)</p>
休憩		
30分	<p>【動きの発展～ソロ～】 10人</p> <p>① 全員で『K-怒り(18秒)』をビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて30秒から40秒程度の動きにまとめる。</p> <p>② 一人ずつ順番に<u>ビデオに収録</u>。 踊った人は踊り終わっての体感(イメージや感じ)を<u>自由記述</u>。</p>	<p>『K-怒り』を全員が覚えられるまでビデオをみせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ずつビデオに収録 本人⇒体感を自由記述
20分	<p>【デュエット】 Aグループ</p> <p>異国のひととのデュエット J1-K1, J2-K2</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 <u>ビデオに収録</u> 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその<u>体感を自由記述</u>。</p> <p>②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K1) が自分の動きで動きだす、J2 (K2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(およそ1分30秒程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を<u>自由に記述</u></p> <p>同国人によるデュエット J1-J2, K1-K2</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 <u>ビデオに収録</u> 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその<u>体感を自由記述</u>。</p> <p>③ 二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K2) が自分の動きで動きだす、k1 (J2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(およそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を<u>自由に記述</u></p>	<p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述</p> <p>⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述 (記録用紙の回収)</p> <p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述</p> <p>二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p>
休憩		
30分	<p>【動きの発展～ソロ～】 10人</p> <p>① 全員で『J-悲しい(14秒)』をビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて30～40秒程度の動きにまとめる。</p> <p>② 一人ずつ順番に<u>ビデオに収録</u>。 踊った人は踊り終わっての体感を<u>自由記述</u>。</p>	<p>『J-悲しい』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ずつビデオに収録 本人⇒体感を自由記述
	<p>【デュエット】 Bグループ</p>	

<p>20分</p>	<p>同国人によるデュエット J3-J4, K3-K4</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。</p> <p>②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K1) が自分の動きで動きだす、J2 (K2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(おおよそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p> <hr/> <p>異国のひととのデュエット J3-K3, J4-K4</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。</p> <p>②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J1 (K2) が自分の動きで動きだす、k1 (J2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(おおよそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p>	<p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述 ⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p> <hr/> <p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述 ⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p>
<p>休憩</p>		
<p>J-楽しい 舞踊5</p> <p>20分</p>	<p>【動きの発展～ソロ～】 10人</p> <p>① 全員で『J-楽しい(11秒)』をビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて20～30秒程度の動きにまとめる。</p> <p>② 一人ずつ順番にビデオに収録。 踊った人は踊り終わっての体感(イメージや感じ)を自由記述。</p>	<p>『J-楽しい』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ずつビデオに収録 本人⇒体感を自由記述
<p>15分</p>	<p>【デュエット】 Cグループ</p> <p>異国のひととのデュエット J5-K5, J1-K2</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。</p> <p>②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J5 (J1) が自分の動きで動きだす、K5 (K2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(おおよそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p> <hr/> <p>同国人によるデュエット J5-J1, K5-K2</p> <p>①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。</p> <p>②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 J5 (K5) が自分の動きで動きだす、J1 (K2) はその動きにつられて動き出し、お互いを感じあって動きを発展させながら踊る。(おおよそ1分程度)。</p> <p>③リーダーを交替して②と同じことをする。 踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p>	<p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述 ⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述</p> <hr/> <p>*教えあうところからビデオに収録 ⇒お互いの動きに対する体感を自由に記述 ⇒二人で感じあいながら踊っての感想を自由に記述 (記録用紙の回収)</p>

2) 記録用紙(一部) 質問項目の一部

(1) 舞踊運動1を二人で踊って

①同じ国の人と踊るのと、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがありましたか。

() 違いがあった () 違いはなかった

②二人で感じあって踊っての感想(感覚・感情・イメージも含めて)を書いてください。(1)で「体感に違いがあった」と答えた人は、二人の関係がどのように違うのか、またその他、何がどのように違うのか具体的に書いてください。

(2) 動きの発展

①「自分の動きの発展」を踊っての感じ(感覚・感情・イメージ等)を書いてください。

②同国人によるデュエットについて

・「相手の動きの発展」を踊ってどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたこと等、自由に書いてください。

・二人で感じあいながら踊ることができましたか。また、二人で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

③異国の人とデュエットについて

・「相手の動きの発展」を踊ってどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたこと等、自由に書いてください。

・二人で感じあいながら踊ることができましたか。また、二人で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

④同じ国の人と踊るのと、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがありましたか。

違いがあった場合は、その違いについて書いてください。

() 違いがあった () 違いはなかった

(3) 実験全体の感想を自由に書いてください

2010 年度実験「創造的身体表現の体感と異文化理解」プロトコル韓国語版

4. 2011 年度実験 創造的身体表現の体感と異文化理解Ⅱ

1) プロトコル

【日 時】2011 年 10 月 27 日（木）～31 日（月）

南教授と学生 2 名が来日（南先生 10 月 27 日～30 日・学生 2 名 10 月 27 日～11 月 1 日）

10 月 27 日（木）お茶大で科研全体の打合せ及び、卒公の打ち合わせ（通訳なし）

10 月 28 日（金）卒業公演（インタビュー 通訳は李さん）

10 月 29 日（土）お茶大で終日科研実験 即興 2 種（通訳は李）

10 月 30 日（日）科研実験 即興から作品へ（通訳は李）

10 月 31 日（月）科研実験 グループでの即興（通訳は李）

【場 所】お茶の水女子大学ダンス室及び、北沢タウンホール

【被験者】お茶の水女子大学舞踊教育学コース学生 2 名 小堀結香 河合杏奈

韓国芸術総合学校 2 名 HONG/JEEHYUN JEONG/YUNJEONG

【ピアノ演奏】山下暁子

【通 訳】 李世珍

【実験補助】高田装子、中村あかね、原みなみ、福岡小百合、佐野由衣帆、本田優帆

【実験目的】

平成 22 年度に実施した韓国芸術総合学校での実験結果を踏まえて、①既知の異国人とのデュエット②未知の異国人とのデュエット③同国人同士のデュエットを実施、その時の体感を調査し、ダンサーは、同国人、また、異国の人と踊るプロセスでデュエットの相手から何を感じ取り、また自分自身についてどのように感じているかを明らかにし、そこから共に踊ることによる異文化理解について考察する。

【実験課題】

- 1、実験材料（日本人作成の『楽しい』）の動きを覚えて二人で踊る
- 2、ピアノ曲演奏での二人での即興
- 3、テーマ「分かち合う喜び」での二人での即興
- 4、ピアノ曲での即興から作品へ

【実験手順】

10 月 29 日（土）10 時～18 時（13 時～14 時昼休み）

時 間	内 容	備 考
30分	実験の準備 実験の説明	ビデオカメラ・モニター・ICレコーダー等の準備
20分	Warming-Up	
課題1 20分	11:00～ ①全員で『K-楽しい(41秒)』をビデオでみて覚える。 ②同国人同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を3回繰り返して踊る。 J1-J2, K1-K2 ③異国同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を3回繰り返して踊る。 J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 踊り終わっての体感を 自由記述 。	『K-楽しい』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。 記録用紙と鉛筆を配布 ⇒体感を自由記述
課題2 10分	【即興—ピアノ演奏で】 演奏：山下暁子 ピアノ演奏を聴く（3回） 音楽からイメージしたことを各自、自由に記述。	曲目： <input type="text"/> *演奏を録音すること

60分	同国人による即興 J1-J2, K1-K2 ビデオに収録 即興を踊っての感想を 自由に記述 異国のひととのデュエット J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 ビデオに収録 即興を踊っての感想を 自由に記述	演奏者の体感記述
20分	即興について討論 演奏者：ダンサー4名で討論	
休憩	13:00~14:00	
課題3 15分 10分 50分 20分 20分	14:00~ ・Warming-Up 14:15~ 【即興—テーマ『分かち合う喜び』で】 テーマからイメージしたことを各自、 自由に記述 。 異国のひととのデュエット J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 1. J1-K1 が踊る。 2. J2-K2 が踊る。 小休憩 3. J1-K2 が踊る。 4. J2-K1 が踊る。 小休憩 同国人による即興 J1-J2, K1-K2 1. J1-J2 が踊る。 2. K1-K2 が踊る。 ビデオに収録 即興を踊っての感想を 自由に記述	即興の長さ2分まで（1分半の時に紙で合図） 「はじめ」の合図で踊り始める。
20分	即興について討論 ダンサー4名で討論	
課題4 20分	16:30~ ①同国人同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を3回繰り返して踊る。 J1-J2, K1-K2 ②異国同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を3回繰り返して踊る。 J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 踊り終わっての体感を 自由記述 。	
60分	17:00~18:00 Cool down 後片付け	

HW：30日は、音楽からの即興をベースに1時間という限られた時間の中で作品に固めていく。そこで、本日の音楽からの即興について、どのようなテーマ（イメージ）でどのような方向で固めていくか考えてくる。

10月30日（日）9時30分～13時30分

時間	内容	備考
30分	実験の準備	ビデオカメラ・モニターの準備
20分	Warming-Up	
課題1 60分 15分	10:00~ ペア J1-K1, J2-K2 29日の音楽からの即興をベースに二人でテーマを決め、作品づくりを1時間の中で行う。 できたら、ビデオで撮影→体感を記述 踊り終わっての体感を 自由記述 。	記録用紙と鉛筆を配布 ⇒体感を自由記述

課題2	11:20~ ペア J1- K2, J2-K1	
60分	29日の音楽からの即興をベースに二人でテーマを決め、作品づくりを1時間の中で行う。	
15分	できたら、ビデオで撮影→体感を記述	
20分	12:40~ 即興について討論 ダンサー4名で討論	
30分	13:00~13:30 Cool down 後片付け	

10月31日(月) 9時30分~12時30分

時間	内容	備考
30分	実験の準備 Warming-Up	ビデオカメラ・モニターの準備
課題1	9:30~ ペア K1-K2	
30分	29日の音楽からの即興をベースに二人でテーマを決め、作品づくりを1時間の中で行う。	記録用紙と鉛筆を配布 ⇒体感を自由記述
10分	できたら、ビデオで撮影→体感を記述 踊り終わっての体感を 自由記述 。	
課題2	10:40~12:10 グループでの即興 韓国人1名に日本人5名 (2グループ) 音楽からの即興 5名で一斉に踊る→韓国人学生が日本人学生一人づつと順番に踊る。 ビデオで撮影→体感を記述	曲目：テリー・ライリー
90分		
20分	12:10~12:30 Cool down 後片付け	

2) 記録用紙(一部) 質問項目の一部

★10月29日実験分

課題1 質問項目は、2010年度実験と同じ。

課題2 ピアノ演奏での即興

1. ピアノ演奏を聴き、曲のイメージ、曲からイメージしたことを何でも書いてください。
2. 同国人のペア

二人で即興で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

3. 外国人のペア

二人で即興で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

課題3 テーマ『分かち合う喜び』での即興

1. テーマからイメージしたことを何でも書いてください。

2. 外国人のペア

二人で即興で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

3. 同国人のペア

二人で即興で踊りながらどのように感じましたか。感じたこと、イメージしたことなど、自由に書いてください。

課題4 最初に2人で踊った動きを踊る

1. 同じ国の人と踊ると、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがありましたか。
() 違いがあった () 違いはなかった
2. 二人で感じあって踊っての感想(感覚・感情・イメージも含めて)を書いてください。1.で「体感に違いがあった」と答えた人は、二人の関係がどのように違うのか、またその他、何がどのように違うのか具体的に書いてください。

★★実験全体の感想を自由に書いてください。

★10月30日実験分 **即興から作品へ**

異国人のペア

二人での創作過程の感想とそれを踊っての体感を、自由に書いてください。

★10月31日実験分 **グループでの即興**

1. グループで、即興で踊っての体感を自由に書いてください。
(グループで踊っている時と、一人ずつ順番に踊っている時の両方について。)
2. 他グループの即興の感想を自由に書いてください。

★10月28日課題 **卒業公演に出演しての感想(韓国人学生2名)**

1. 自分の大学の公演で踊っている時と、日本人の大学生の公演で踊っている時の体感には何か違いがありましたか。それはどのような違いですか。
2. リハーサル、ゲネプロ、本番と、あなたが踊っている時の体感はどのように変わりましたか。
3. その他、お茶大の卒業公演に参加しての感想を書いて下さい。

2011年度実験「創造的身体表現の体感と異文化理解Ⅱ」プロトコル韓国語版

창조적 신체표현의 체감과 이문화이해

柴眞理子(시바 마리코) · 南貞鎬(남 정호) · 坪倉紀代子(쯔보쿠라 키요코)

【일시】 2011년 10월 27일 (목) ~ 31일 (월)

남정호교수님과 학생 2명이 입국 (남선생님 10월 27일~30일 ·

학생 2명 10월 27일~11월 1일 : 과학연구실험에 졸업공연이 구성되어 있음)

10월 27일 (목) 오차대에서 연구실험 전체미팅 및 졸업공연 미팅(통역없음)

10월 28일 (금) 졸업공연 (인터뷰통역:이세진)

10월 29일 (토) 오차대에서 연구실험 즉흥 2종류 (통역:이세진)

10월 30일 (일) 연구실험 즉흥에서 작품으로 (통역:이세진)

10월 31일 (월) 연구실험 그룹즉흥 (통역:이세진)

【장소】 오차노미즈여자대학무용실 및 기타자와 타운홀

【실험협력자(피험자)】 오차노미즈여자대학 무용교육학코스 학생 2명

小堀結香 河合杏奈

한국예술종합학교 무용원 2명

Hong Jihyun (HONG/JEEHYUN) JEONG/YUNJEONG

【피아노 연주】 山下暎子

【통역】 이세진

【실험보조】 高田装子、中村あかね、原みなみ、福岡小百合、佐野由衣帆、本田優帆

【실험목적】

2010 년도에 실시한 한국예술종합학교에서의 실험 결과를 근거로 하여 ①이미 알고있는 이국인과의 듀엣②모르는 이국인과의 듀엣③동국인끼리의 듀엣을 실시, 각각의 체감을 조사함과 동시에 무용수는 동국인, 그리고 이국인과 함께 춤추는 과정에서 상대방에게서 무엇을 느끼고 또 자기 자신에 대해서 어떻게 느끼고 있는지를 밝힘으로써, 함께 춤추는 것을 통한 이문화이해에 대해서 고찰한다.

【실험과제】

- 1, 실험재료 (일본인 작성의 『즐겁다』) 의 움직임의 외운다음 두명이서 춤춘다.
- 2, 피아노곡연주로 두명이서 즉흥
- 3, 테마 「 」 로 두명이서 즉흥
- 4, 피아노곡으로 즉흥에서 작품으로

【실험순서】

10 월 29 일 (토) 10시~18시 (13시~14시 점심시간)

시간	내 용	비 고
30분	실험준비 실험설명	비디오 카메라 · 모니터 · IC 레코더 등의 준비
20분	Warming-Up	
과제 1 20분	11:00~ ① 전원이 『K-즐겁다(41 초)』 를 비디오로 보고 외운다. ② 동국인끼리 페어가 되어 둘이서 『K-즐겁다』 를 3 번 반복하여 춤춘다. J1-J2, K1-K2 ③ 이국인끼리 페어가 되어 둘이서 『K-즐겁다』 를 3 번 반복하여 춤춘다. J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 춤추면 체감을 자유기술 .	『K-즐겁다』 를 전원이 외울때까지 비디오를 본다 기록용지와 연필배부 ⇒체감을 자유기술
과제 2 10분	【즉흥—피아노연주】 연주 : 山下暎子 피아노연주를 듣는다 (3 번) 음악의 듣고 이미지한것을 각자 자유기술.	
60분	동국인에 의한 즉흥 J1-J2, K1-K2 비디오에 수록 즉흥을 춤추면의 감상을 자유기술 이국인과의 듀엣 J1-K1, J2-K2, J1-K2, J2-K1 비디오에 수록 즉흥을 춤추면의 감상을 자유기술	⇒ 연주자의 체감기술
20분	즉흥에 대한 토론 연주자 : 무용수 4 명이서 토론	
휴 식	13:00~14:00	

15분	가능하면 비디오로 촬영→체감을 기술 춤추위의 체감을 자유기술	⇒체감을 자유기술
과제 2 60분 15분	11:20~ 페어 J1- K2, J2-K1 29 일의 음악으로 인한 즉흥을 베이스로 하여 둘이서 테마를 정해서 1 시간내에 작품을 만든다. 가능하면 비디오로 촬영→체감을 기술	
20분	12:40~ 즉흥에 대한 토론 무용수 4 명에서 토론	
30분	13:00~13:30 Cool down 뒷정리	

10 월 31 일 (월) 9 시 30 분 ~ 12 시 30 분

시 간	내 용	비 고
30분	실험준비 Warming-Up	비디오 카메라·모니터의 준비
과제 1 30분 10분	9:30~ 페어 K1 -K2 29 일의 음악으로 인한 즉흥을 베이스로 하여 둘이서 테마를 정해서 1 시간내에 작품을 만든다. 가능하면 비디오로 촬영→체감을 기술 춤추위의 체감을 자유기술	<i>* 일본인 J1-J2 의 페어는 다른일정에 실시</i> 기록용지와 연필배부 ⇒체감을 자유기술
과제 2 90분	10:40~12:10 그룹즉흥 한국인 1 명에 일본인 5 명 (2 그룹) 음악으로 인한즉흥 5 명에서 일제히 춤춘다.→한국인 학생이 일본인 학생 한명씩과 순서대로 춤춘다. 비디오로 촬영→체감을 기술	
20분	12:10~12:30 Cool down 뒷정리	

2011 年度実験「創造的的身体表現の体感と異文化理解Ⅱ」質問紙 韓国語版

과제 1

무용동작의 체감

번호 () 이름()

실험은 우선 혼자서 춤춥니다. 그 후 동국인(같은 나라 사람)과 페어로, 그리고 이국인(다른 나라 사람)과 페어로 춤춥니다. 그래서 동국인과 춤출 때와 이국인과 춤출 때의 체감에 차이가 있는지 없는지를 조사하는 것입니다.

1. 무용운동 1

(1) 동국인과 춤출때와 이국인과 춤출때의 체감에 차이가 있었습니까?

() 차이가 있었다. ⇒ (2) 으로 () 차이가 없었다. ⇒ (3) 으로

(2) 둘이서 춤추면서 느낀 감상(감각·감정·이미지도 포함시켜)을 써 주십시오. (1)에서 「체감에 차이가 있었다」라고 답한 사람은 두사람의 관계가 어떻게 달랐는지,그 외, 무엇이 어떻게 달랐는지 구체적으로 써 주십시오.

(3) 둘이서 춤추면서 느낀 감상(감각·감정·이미지도 포함시켜) 을 써 주십시오.

과제 2

피아노연주로의 즉흥

번호 () 이름()

1. 피아노 연주를 듣고 연주곡의 이미지와 연주곡에서 이미지한 것을 빠짐없이 써 주십시오.

2. 동국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

3. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

4. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

과제 3

테마『 _____ 』로의 즉흥

번호 () 이름()

1. 테마에서 이미지한 것을 빠짐없이 써 주십시오.

2. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

3. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

4. 동국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서 즉흥을 춤추면서 무엇을 어떻게 느꼈습니까? 느낀 점,이미지한 것 등을 자유롭게 써 주십시오.

과제 4 처음에 들어서 춤춘 움직임을 춤춘다.

번호 () 이름()

1. 무용운동 1

(1) 동국인과 춤출 때와 이국인과 춤출 때의 체감에 차이가 있었습니까?

() 차이가 있었다. () 차이가 없었다.

(2) 들어서 춤추면서 느낀 감상(감각·감정·이미지도 포함시켜)을 써 주십시오. (1)에서 「체감에 차이가 있었다」라고 답한 사람은 두사람의 관계가 어떻게 달랐는지,그 외, 무엇이 어떻게 달랐는지 구체적으로 써 주십시오.

★★실험전체의 감상을 자유롭게 써 주십시오.

10 월 30 일 과제 **즉흥에서 작품으로**

번호 () 이름()

1. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서의 창작과정의 감상과 그것을 춤출때의 체감을 자유롭게 써 주십시오.

2. 이국인과의 페어 (J 1 · J 2 · K 1 · K 2)

둘이서의 창작과정의 감상과 그것을 춤출때의 체감을 자유롭게 써 주십시오.

10 월 31 일 과제 **그룹즉흥**

번호 () 이름()

1. 그룹으로 즉흥을 춤춘 체감을 자유롭게 써 주십시오.

(그룹으로 춤출 때와 한사람씩 순서대로 춤출때 양쪽모두에 대해서)

2. 다른 그룹의 즉흥의 감상을 자유롭게 서 주십시오.

10 월 28 일과제 **졸업공연에 출연한 감상**

이름()

1. 자신이 재학하고 있는 대학의 공연에서 춤출때와 일본인 대학생의 공연에서 춤출때의 체감에는 다른 점이 있었습니까? 어떠한 차이입니까?

2. 리허설, 총리허설,공연에서 춤출때의 체감은 달랐습니까? 어떻게 변화되었습니까?

3. 그 외 오차대 졸업공연에 참가한 감상을 써 주십시오.

Ⅲ. 研究成果

1. 舞踊行動の体感に関する日韓比較¹

무용행동의 체감에 관한 일한 비교

Japan-South Korea comparative experiments about the bodily sensation of dance behavior

柴眞理子・南貞鍋・猪崎弥生・李世珍・小堀結香・高田装子・中川由香子

Mariko Shiba, Nam Jeong-Ho, Yayoi Izaki, Sejin Lee, Yuka Kobori, Syoko Takada,
Yukako Nakagawa

●キーワード：日韓比較、舞踊行動、体感、異文化

Keywords: Japan-South Korea comparison , dance behavior, bodily sensation, cultural difference

1) はじめに

柴は、「創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解—文化に固有な舞踊運動の体感を通して」という研究課題で、平成 21 年度から 23 年度科学研究費補助金を受けて研究を進めている。

この研究の中核を成す日韓の舞踊研究者・舞踊専攻生が一堂に会しての実験調査を、昨年 12 月に韓国芸術総合学校（国立）で実施した。このような文化の異なる舞踊専攻生が一堂に会して共に踊るという実験は先駆的な試みであり、得られたデータの詳細な分析に先立って、まず実験の実施自体の概要について公表することがあろう。

そこで、本報告では、今回の実験データである被験者の自由記述とビデオ映像のうち、同じ場に身を置き、共に踊ることから得られた体感の自由記述を紹介しながら、異国人と踊る体験を被験者がどのように捉えているのか、若干の考察を交えて報告する。なお、ここでは、その前段階にあたる日韓の舞踊専攻生を対象とした舞踊運動のみえと体感に関する実験調査についても報告する。

1) .はじめに 韓国語版

1) . 서

시바는 「창조적 신체표현활동에 의한 태도변용과 이문화이해-문화를 통해 볼 수 있는 고유한 무용동작의 체감을 통해서」라고 하는 연구 과제로 2009 년도부터 2011 년도까지 과학연구비보조금을 받아 연구를 진행시키고 있다.

이 연구의 중핵을 이루는 일본과 한국의 무용연구자 및 무용전공생일동이 함께한 한자리에서 실험 조사를 작년 12월 한국예술종합학교(국립)에서 실시했다. 이러한 다른 문화를 가진 무용 전공생이 한자리에 모여서 함께 춤추는 실험은 선구적인 시도이다.

얻어진 데이터의 상세한 분석에 앞서 우선 실험의 실시개요에 대해서 공표하는 것이 필요하다고 생각한다.

¹表現文化研究 第10卷第2号 2010年度 神戸大学表現文化研究会 pp. 235-245. 2011. 3. 一部改変

그래서 이 보고에서는 이번 실험의 데이터인 피험자의 자유기술과 비디오 영상 가운데, 같은 장소에 자리하며 함께 춤추는 것으로부터 얻을 수 있었던 체감의 자유기술을 소개하면서, 이국인과 함께 춤추는 체감을 피험자가 어떻게 받아들였는지, 약간의 고찰을 부여하여 보고한다. 그리고 그 전단계에 실시한 일본과 한국의 무용전공생을 대상으로 한 무용운동의 보여짐과 체감에 관한 실험 조사에 대해서도 보고한다.

2) 研究の背景

異文化における舞踊の研究においては、これまで民族舞踊や舞踊作品そのものを対象とした現象面や形態面からのアプローチが主であり、自国と他国の舞踊運動を共に踊ることによりもたらされる踊り手や観察者の内面に着目した異文化理解の観点からの学術的研究は見当たらない。

また、舞踊運動の内的経験に伴う体感による感情価に関する心理学的・舞踊教育学的研究は、国内外において筆者らの研究グループを中心に進められているのみである(参考文献^{1,5)}。

その理由として、体感が人間の共通感覚の核であり⁴、舞踊の重要な要素であるにもかかわらず、これまでの舞踊学は、踊り手の審美的側面等を含む「外なる舞踊」の研究が主であったことに加え、踊り手の舞踊運動及びその観察者の体感の認知・態度変容に係る客観的分析手法が確立されていなかったため、研究課題にすることが困難であったためと推察される。

このように、本研究に関連する先行研究はきわめて少ないが、柴が中国とノルウェーで行った体感評価実験²から、国際化の時代に、同じ場に身体をおいての創造的身体表現の活動が、身体を通しての異文化理解の一翼を担うという仮説が導出されている。本仮説の実証は、現代のグローバル化・情報化の著しい進展において、自己理解・受容や他者理解の困難性など、人間が本来的に自然に持つ感情や他者への共感性からの疎外が指摘される中で、舞踊運動がもたらす原初的な感性コミュニケーションと体感の関係性を心理学的・人間工学的に明らかにすることへの貢献が期待されるとともに、言語以外の異文化コミュニケーションの在り方を探求する上で、意義のある先駆的な試みであると言えよう。

柴は、舞踊運動を行う者自身の中にどのような感情が生起し、感受するのかという側面、すなわち「体感」という視点から身体運動と感情の関係に関する研究を継続している。

これまでの研究では、日本人舞踊家と学生を対象にした実験を通して、舞踊運動を踊る際の体感とは、舞踊運動そのものが有する基本感情のみならず、踊り手自身のその時々身体の状態や感情、気分への気づきをもたらすこと、また、二人で踊る場合、相手が変わると同じ舞踊運動を踊っても体感が異なることなどを心理的な印象評価分析や物理的な3次元動作分析から学際的に明らかにしてきた。

また、現代社会の国際化を念頭に、中国とノルウェーにおいて異なる文化圏に属する人々を対象に、日本人が作成した舞踊運動の「みえ」による印象評価実験と、実際に踊っての体感評価実験を実施し、その結果、感情の種類(楽しい、悲しい、やさしい、怒り、厳かな等)によって、文化圏の異なりに関係なく同じ印象・体感を得るものと、文化圏の異なりにより印象・体感が異なるもの

があることを明らかにした²。

これらの研究に基づき、異なる文化や性による体感の比較から原初的な感性コミュニケーションの成立に必須である身体表現に係る認知構造の特性を導出することの可能性が示唆された。

文化圏により言語は異なり、その言語理解はバーバル（理性的）・コミュニケーションのために必須であることは自明である。一方、ノンバーバル（感性的）の側面では、同じ舞踊運動（身体表現）を見る、あるいは、踊る行為において、その印象や体感が異文化圏で認知的に異なることを実証した研究は一部で行われているが、そこから文化圏の異なる人々との間において、どのような身体表現活動を行うことがより豊かなコミュニケーションに繋がるのかという問題については未だ、学術的・客観的な説明が行われていない。

このような背景をもとに、本研究課題の目的は、日本及び韓国という東アジア文化圏に位置づけられ、共通性は高いものの、異なる点も含む文化圏を対象に、各文化の担い手である舞踊家（舞踊研究者）が作成した舞踊運動を、両国の学生等が単独で、あるいは、同じ国の人と、また、異国の人と共に踊る際の体感の評価を通じて、同じ場に身体を置いての創造的身体表現活動が個々人の態度変容に及ぼす影響と異文化間の相互理解に果たす役割について考察することである。

本報告では、この研究課題のうち、日韓の舞踊専攻生を被験者に、日本と韓国で実施した①舞踊運動のみえと体感に関する実験調査と②同国人と踊る場合と異国人と踊る場合の体感比較に関する実験調査について報告する。

3). 舞踊運動のみえと体感による感情価の異文化間比較

先行研究において舞踊運動の体感の異文化間比較²を行った際に実験材料とした舞踊運動は、柴ら日本人が作成したものであった。その結果、舞踊表現には、それぞれの文化に固有の動きが反映されるのではないかということ推測され、異文化間の体感比較のためには、異なる文化に属する創り手によって作成された舞踊運動を実験材料とすることが必要であると考えた。

そこで、今回の研究課題を推進するにあたって、まず、日韓の舞踊研究者が、舞踊における6つの基本感情⁵を表す6つの舞踊運動を作成することとした。

そして、日韓の舞踊専攻生を被験者に、このようにして作成された舞踊運動のみえと体感による感情価を実験的に調査し、舞踊運動の作成者と被験者が同じ文化に属する場合とそうでない場合で得られる感情価に、異文化の影響がみられるか否かを検討した。

3) 1. 舞踊運動の作成

先行研究で導出された舞踊における6つの基本感情（楽しい・悲しい・怒り・やさしい・穏やかな・厳かな）、それぞれについて、その感情を表現する最小単位の長さで舞踊運動を作成した。

日本側は猪崎、韓国側は南が作成を担当し、それぞれの舞踊専攻生が踊り、DVDに収録した。なお、最小単位の長さとは感情により異なるが、数秒から30秒程度の長さを予定していたが南作成の舞踊運動は15秒から1分50秒と各舞踊運動の長さが長かったため、南の同意を得て、区切り

のよいところで動きをカットし、実験材料とした。

3) 2. 実験調査の方法

3) 2.1. 被験者

【日本人被験者】

- ・日時：2010年1月7日・2月12日
- ・場所：お茶の水女子大学ダンス室
- ・被験者：お茶の水女子大学舞踊教育学コース学生 25名（1月7日13名・2月12日12名）

【韓国人被験者】

- ・日時：2010年2月15日
- ・場所：お茶の水女子大学ダンス室
- ・被験者：韓国芸術総合学校（Korea National University of Arts）舞踊院創作科出身者5名

3) 2.2. 実験調査の手順

実験は、日本人作成の6つの舞踊運動 J1～J6 のみえと体感による感情価を調査する実験（A）と、韓国人作成の6つの舞踊運動 K1～K6 の感情価を調査する実験（B）から成る。実験（A）（B）の実験調査の手順は以下に示すとおりである。なお、実験（A）（B）は、続けて実施した。

①みえによる感情価…全員で舞踊運動 J1～J6（K1～K6）を一つずつ順番にビデオでみ、それぞれの舞踊運動の感じをチェックリストにある感情語から5語以内を選択する。韓国語のチェックリストは日本語のチェックリストを韓国語に翻訳したものをを用いた。

②体感による感情価

全員で舞踊運動 J1（K1）をビデオでみて覚えるまで練習する。覚えたら、実験者の合図で全員が一斉に舞踊運動 J1 を踊り、すぐにその体感をチェックリストにある感情語から3つ選択し、それぞれの語について体感の強さを4段階でこたえる。J2～J6（K2～K6）の舞踊運動についても同様に行う。

③被験者の踊りの収録

ひとりずつ順番に舞踊運動 J1（K1）をビデオに収録。J2～J6（K2～K6）の舞踊運動についても同様に、収録。

表1 感情語の Check List

1、楽しい	2、苦しい	3、静謐な（静かな）
4、やさしい	5、寂しい	6、冷たい
7、穏やかな	8、神聖な	9、怖い
10、怒り	11、嬉しい	12、優美な
13、悲しい	14、あたたかい	15、幸せな
16、厳かな	17、のびやかな	18、喜び

注：上記の18語は、意味が類似する3語が1つの感情語群を成す

（語群）・1.11.18. ・13.5.6. ・16.8.3. ・7.17.12. ・10.2.9. ・4.14.15.

3) 3. 結果と考察

今回の実験調査は、日本での実施に伴い、韓国人被験者は5名、日本人被験者は25名と、被験者数が大きく異なった。そこで、韓国人5名のうち3名以上が、また日本人では25名の15名以上の被験者（60%以上の被験者）が選択した語を、各国の被験者のみえ（体感）による感情価とすることとし、その結果を表2と表3に示した。なお、韓国人作成の舞踊運動については、創り手と被験者の感情価に一致がみられないものが多いが、これは前述のように、南作成の舞踊運動は長さをカットして実験材料にした影響も考えられる。しかし、そのことはみえと体感に関する日韓両国の被験者の感情価を比較する上ではさほど問題とはならないであろう。

表2 みえによる感情価

韓国人作成 舞踊運動	一致	感情価	一致	日本人作成 舞踊運動	一致	感情価	一致
	①	上段-韓国人 下段-日本人	②		①	上段-韓国人 下段-日本人	②
K1. 楽しい	○	<u>楽しい・嬉しい・幸せな</u>	○	J1. 楽しい	○	<u>楽しい・幸せな</u>	○
	○	<u>楽しい・喜び</u>			○	<u>楽しい・嬉しい・幸せな・喜び</u>	
K2. 悲しい	≠	<u>やさしい</u>	≠	J2. 悲しい	○	<u>悲しい・寂しい・</u>	○
	○	<u>悲しい・寂しい・</u>			○	<u>寂しい・悲しい・静謐な</u>	
K3. 厳かな	≠	<u>のびやかな・やさしい</u>	≠	J3. 厳かな	○	<u>厳かな・静謐な</u>	○
	≠	60%以上なし <u>静謐な・苦しい</u> (各 44%)			○	<u>厳かな・神聖な・静謐な</u>	
K4. 穏やかな	≠	<u>苦しい・怒り</u>	○	J4. 穏やかな	≠	<u>静謐な</u>	≠
	≠	<u>怒り・苦しい</u>			≠	<u>やさしい</u>	
K5. 怒り	≠	<u>厳かな・静謐な</u>	○	J5. 怒り	○	<u>怒り・苦しい</u>	○
	≠	<u>厳かな・神聖な・静謐な</u>			○	<u>怒り・苦しい</u>	
K6. 優しい	○	<u>あたたかい</u>	○	J6. 優しい	≠	<u>穏やかな・静謐な</u>	○
	○	<u>やさしい・あたたかい</u>			○	<u>やさしい・あたたかい・穏やかな</u>	

注：一致①は舞踊運動の作成者の意図した感情価と被験者のみえによる感情価との一致・不一致について示した。

一致②は、日韓被験者のみえによる感情価の一致・不一致について示した。

イタリックは、実験材料の舞踊運動のもつ感情価と同じ語群にある語を表す。

表3 体感による感情価

韓国人作成 舞踊運動	一 致 ①	感情価		日本人作成 舞踊運動	一 致 ①	感情価		一 致 ②
		上段-韓国人 下段-日本人				上段-韓国人 下段-日本人		
K1. 楽しい	○	楽しい	○	J1. 楽しい	○	楽しい・嬉しい	○	
	○	楽しい・喜び			○	楽しい・喜び・嬉しい		
K2. 悲しい	≠	静謐な・悲しい・寂しい・	○	J2. 悲しい	○	悲しい・寂しい・	○	
	○	寂しい・静謐な			○	寂しい・静謐な・悲しい		
K3. 厳かな	≠	60%以上無し・厳かな・悲しい ・伸びやかな・やさしい(40%)	○	J3. 厳かな	○	神聖な・厳かな	○	
	≠	60%以上無・伸びやかな(52%) 神聖な・静謐な(各28%)			○	厳かな・神聖な・静謐な		
K4. 穏やかな	≠	怒り	○	J4. 穏やかな	≠	厳かな	≠	
	≠	怒り・苦しい			≠	60%以上無し・やさしい(56%)		
K5. 怒り	≠	静謐な	○	J5. 怒り	○	怒り・苦しい	○	
	≠	静謐な・神聖な・厳かな			○	怒り		
K6. やさしい	○	あたたかい・やさしい・ 厳かな	○	J6. やさしい	○	やさしい・穏やかな・優美な	○	
	○	やさしい・あたたかい			○	やさしい・あたたかい		

注：一致①は舞踊運動の作成者の意図した感情価と被験者の体感による感情価との一致・不一致について示した。

一致②は、日韓被験者の体感による感情価の一致・不一致について示した。

イタリックは、実験材料の舞踊運動のもつ感情価と同じ語群にある語を表す。

結果を箇条書きにすると以下の通りである。

- ・舞踊運動の作成者と被験者が同国人である場合とそうでない場合とで、作成者の意図した感情と被験者のみえによる感情価の一致度、及び、体感による一致度に相違はみられなかった。
- ・日韓被験者の舞踊運動のみえによる感情価の比較では、K2、K3、J4の3つの舞踊運動の感情価に差異がみられ、9つの舞踊運動に対する感情価は共通性がみられた。
- ・日韓被験者の舞踊運動の体感による感情価の比較では、12のうち11の舞踊運動に対する感情価は共通であり、J4の舞踊運動の感情価のみに差異がみられた。

以上のように、今回、日韓の舞踊研究者が作成した舞踊の基本感情を表す舞踊運動を実験材料としたみえと体感による感情価に関する実験調査から、舞踊運動の作成者と被験者が同じ文化に属する場合とそうでない場合で得られる感情価に、異文化の影響はほとんどみられなかった。

しかし、みえと体感による感情価を比較すると、みえによる感情価では日韓で相違がみられた舞踊運動を実際に踊ると、踊ることにより得た感情価（体感による感情価）は、日韓で類似した感情価が得られ、このことから受動的に舞踊運動をみる（視覚）よりも実際に踊ること（体性感覚⁴⁾によってその舞踊運動のもつ特性を共有できるということが推察され、これは興味深い今後の課題である。

4) 舞踊活動時の日韓の体感比較に関する実験調査

この実験調査では、3. で得られた体感による感情価が日韓で一致した舞踊運動で、なお且つ実験時間を勘案し長さの短い舞踊運動を実験課題とした。課題とした動きは、南作成の舞踊運動 K1（以下、舞踊運動 1 と記す）と K5（以下、舞踊運動 3 と記す）、及び猪崎作成の J5（以下、舞踊運動 2 と記す）である。これらの課題の舞踊運動をそのまま、また各自がそれを発展させて、二人で感じあってといった条件の下で、同国人、或いは、異国人と二人で踊り、そのプロセスで相手から何を感じ取り、また自分自身についてどのように感じているか、即ち、同国人と踊る場合と異国人と踊る場合の体感比較のための実験調査である。

4) 1. 実験調査の方法

4) 1.1. 被験者

- ・日時：2010 年 12 月 19 日(日)
- ・場所：韓国芸術総合学校 (Korea National University of Arts) ダンス室
- ・被験者：お茶の水女子大学舞踊教育学コース大学院生及び学生 5 名
韓国芸術総合学校舞踊院創作科学生 5 名

4) 1.2. 実験調査の手順

実験手順は表 4 に示した。被験者に求められた活動は、①課題の動きを二人で踊る、②各自、課題の動きを発展させて一まとまりの動きを創る、③二人組になり各自が創った動きを教えあい、二人で踊る④二人での即興（テーマ『対話』）であった。被験者はこれらの活動を予め決められた同国人同士と、異国人との二人組で行い、各活動中に体感したことの自由記述を求められた。

表 4、実験手順

☆課題 実験番号 (時間)	内 容	備 考
(30 分)	実験の準備 実験の説明	ビデオカメラ・モニターの準備 記録用紙と鉛筆を配布
☆舞踊運動 1 1-1 (25 分)	①全員で『舞踊運動 1 (41 秒)』をビデオでみて覚える。 ②同国人同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を 3 回繰り返して踊る。二人の位置関係は自由。 ③異国同士ペアになり、二人で『K-楽しい』を 3 回繰り返して踊る。二人の位置関係は自由。 踊り終わっての体感を 自由記述 。	『舞踊運動 1』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。 ・各ペア毎にビデオ収録 ・各ペア毎にビデオ収録 ⇒体感を自由記述
☆舞踊運動 2 2-1 (30 分)	【動きの発展～ソロ～】 10 人 ①全員で『舞踊運動 2 (7 秒)』をビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて 20~30 秒程度の動きにまとめる。 ②一人ずつ順番に ビデオに収録 。 踊った人は踊り終わっての体感（イメージや感じ）を 自由記述 。	『舞踊運動 2』を全員が覚えられ るまでビデオをみせる。 ・一人ずつビデオに収録 ・本人⇒体感を自由記述

<p>2-2</p> <p>(50分)</p> <p>12:30 昼食 13:30</p>	<p>【デュエット】 同国人によるデュエット J1-J2, J3-J4, K1-K2, K3-K4 ①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。 ②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 舞踊運動2を発展させた動きを手がかりに二人で『対話』とい うテーマで即興（およそ1分程度）。</p> <p>踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての体感を 自由に記述</p>	<p>*教えあうところからビデオに 収録 ⇒お互いの動きに対する体感を 自由に記述</p> <p>⇒二人で感じあいながら踊って の体感を自由に記述</p>
<p>2-3</p> <p>(70分)</p>	<p>異国の人とのデュエット J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5 ①二人組でお互いの動きを教えあう。 ビデオに収録 覚えたら、相手の動きを一度、踊ってその体感を自由記述。 ②二人の動きを感じあいながら踊る。即興『対話』 舞踊運動2を発展させた動きを手がかりに二人で『対話』とい うテーマで即興（およそ1分程度）。</p> <p>踊り終わったら、二人で感じあいながら踊っての体感を 自由に記述</p>	<p>*教えあうところからビデオに 収録 ⇒お互いの動きに対する体感を 自由に記述</p> <p>⇒二人で感じあいながら踊って の体感を自由に記述</p>
<p>休憩</p>		
<p>☆舞踊運動3 3-1 3-2 3-3 (150分)</p>	<p>舞踊運動2に同じ手順で、『舞踊運動3 (18秒)』を実施。 【動きの発展～ソロ～】 3-1 ⇒【デュエット】異国の人との デュエット 3-2 ⇒同国人によるデュエット 3-3 ⇒ビデ オに収録⇒自由記述</p>	
<p>休憩</p>		
<p>舞踊運動1</p> <p>30分</p> <p>1-2</p>	<p>まとめ ①同国人同士ペアになり、二人で『舞踊運動1』を3回繰り返して踊る。二人の位置関係は自由。 ②異国人同士ペアになり、二人で『舞踊運動1』を3回繰り返して踊る。二人の位置関係は自由。 踊り終わっての体感を自由記述。 実験調査全体を通しての感想を自由記述。</p>	<p>・各ペア毎にビデオ収録 ・各ペア毎にビデオ収録</p> <p>⇒二人で感じあいながら踊って の感想を自由に記述。 ⇒まとめの感想を自由に記述。</p>

注：J1～J5は日本人被験者を、K1～K5は韓国人被験者を表す。

4) 2. 結果と考察

韓国人被験者の自由記述を日本語に翻訳し、活動毎に同国人と踊る場合と異国人と踊る場合の体感について、被験者の記述を引用しながらその特徴をみた。なお、引用する文章が短い場合は文中に入れ、長い場合は文の後に引用文として示した。引用文の後の（ ）内のアルファベットと数字は被験者を表す。例えば（J1）は日本人被験者1番の、（K5）は韓国人被験者5番の記述である。

4) 2.1. 課題の動きを二人で踊る

舞踊運動1を同国人同士で、また異国人と二人で踊っての体感について、日本人、韓国人ともに4名が、同国人と踊る場合と異国人と踊る場合ではその体感に相違があるとしている。

同国人と踊る時には安心感があるのに対し、異国人と踊る時には、顔立ちや雰囲気の違い、初対面、言葉が通じないこと、即ち、異文化がもたらす緊張感の高まり、また、動きのタイミングや呼吸がつかめないということがあり、「異国人とは探り探りでやっていて、踊るのは難しかったが、

空気を感じようと感覚を鋭敏にした」(J3)「相手に合わせるために相手をずっと注目するよう努力した。初めて出会った異国人だが踊りで一緒に呼吸するという感じがよかった」(K4)というように、相手の存在、動き、呼吸を感じるべく意識して踊っていることがわかる。そして、同国人の方が安心できたとしながらも「異国人の方が楽しかった。素直に感情が出せた」(J4)「異国人との踊りでは楽しくて活気に満ちた感じで、私のからだが新しいものを受け入れる新鮮さを与えた。」(K5)というように異国人と踊ることにプラスの体験という側面があると受け止められている。

また、同国人同士と異国人と踊る場合で体感に相違がないとした2名は「どちらも楽しく踊れた。ただ、異国の人と踊るときは新鮮で、わくわく感があった」(J2)「共に笑って呼吸を合わせると初めて会った異国人でもぎこちなくなかったし、かえって親近感があるように感じられた。感情が重なると動きもよりよく同調するようだった」(K1)というように、相違は無かったとしながら、異国人と踊ることに新鮮さ、高揚感、親近感等を感じている。

これらのことから、異国人との初めてのデュエットは、異文化がもたらす緊張に対して、呼吸を合わせるべく体感を研ぎ澄まして踊り、そうすることによって、同国人と踊るのとは異なる新鮮さや高揚感がもたらされる体験となる可能性を持っていると言えよう

4) 2.2. 創った動きを教えあい、二人で踊る

今回は、舞踊運動2と舞踊運動3を元に「各自が発展して創った動きを同国人のペアで、また、異国人とのペアで、教えあい二人で踊ること」を被験者に求めた。このように、被験者は元にする舞踊運動を変えて、同国人とのペアで、また異国人とのペアで、同じ内容の活動をそれぞれ2回ずつ実施した。ここでは、2回の活動に対する体感をあわせてみ、活動の積み重ねに対する体感については後にみることにする。

日本人は自分の創った動きを同国人に教える時、オノマトペと言葉を用いて教え、相手の動きに共通のイメージや動きの質を感じ、安心感をもって踊っている。これに対し、異国人に動きを教える時には、「声(オノマトペ)の高低と出し方で動き方、ニュアンスを伝えようとした」(J1)というようにオノマトペを如何に発するか、アイコンタクトを多用、カウントをとる、呼吸で教える、繰り返し踊る等、様々な工夫をして教え、「力強さ、鋭さ、加速度、原動力、螺旋」(J1)「動きに細かいアクセントがあってユニーク。すっきりさわやかな感じ」(J2)「私のはうちこもるような感じの動き、相手のはひろがるように感じた」(J3)「私は動きの質感や強弱、空間の使い方などをきっかけに発展させたが、相手は『圧縮されていく』というイメージを持って振りをつくっていた」(J5)など、相手の動きの特徴を捉え、また動きの感じ、そして創り方に自分との異なりをみている。

韓国人が同国人にどのように教えたかについての記述は「『腹いせ』という感じを踏む動作、叩く動き等で説明」(K1)のみであるが、踊る時にはリズムや呼吸がよくあっていると感じている。異国人には、カウントをとる、繰り返し踊る、呼吸を合わせる事等によって自分の動きを教え、共に踊っては「国籍が違ってコミュニケーションが取れなくても、単純な動きに呼吸とリズムだけ

でも合わせていくことができるのをわかった」(K1)「相手の動きは床を叩いたり、呼吸など大きくて力強い感じを受けた。直線的で上下に延びる感じ」(K2)「呼吸を一度あわせてみると、ますます気が合うように感じた。何回か繰り返すことによって、相手の動きのスタイルを知っていくようになった」(K3)「動きを進行しながら、互いに感じるものが合っていく感じだった。パートナーの特徴もみえるし、雰囲気調整できた。」(K5)というように相手の動きや動きの感じを捉え、そして共に踊ることによって呼吸やリズムが合い、呼吸があうことによって相手の動きのスタイル、雰囲気などを感じ取っている。

以上のことから、日本人はオノマトペを多用し、特に異国人へ教える際にはその発声に工夫を凝らしているのが特徴的である。異文化にあっても、動きを教える際には、カウントをとる、呼吸を合わせる、繰り返し踊る、などが効果的であり、そのような教えのプロセスを通して、同じ呼吸で一体感を感じつつ踊ることが可能になると考察される。

4) 2.3. 二人での即興(テーマ『対話』)

同国人二人での2回の即興についてみると、日本人同士での即興に対しては以下のような記述がある。これらの記述から日本人同士では呼吸、動きのタイミング、感情、相手の動きの模倣、相手との距離、感情などを、相手と受けあう、仕掛ける一うかがう、駆け引きするといったことによって『対話』が行われている。ところで、被験者の記述にみられる「仕掛ける一うかがう」、「駆け引きする」といった言い方は一般的には、対人関係において心を許していないような場合に使われるが、ダンスにおいては、お互いの動きで動きを引き出す状態にあるときに使われる言い方であることが体験的に知られる。この身体の動きで相手の動きを引き出す状態は、コミュニケーションの原初的な形態である「引き込み(引き込むー引き込まれる)」という現象であり、日本人同士での即興に、身体的引き込み現象⁷が生じていると推察される。

【引用】

- ・こちらから仕掛けよう、今はうかがってみようという余裕・距離感がある(J1)
- ・相手の動きを真似したり、体勢に合わせてこちらも体勢や相手との距離を変えたりした。相手によって動きや空気がゆるやかになったり緊張したりと変化があって面白かった。駆け引きをしている感じ(J2)
- ・タイミングや息が合いやすかった(J2)
- ・途中、二人で直接触れ合える動きになればと思ったところで、相手から触ってくれたので意思が通じた気がした(J3)
- ・お互いが発展させた動きに囚われずお互いの感情を受け合って動きにすることができた(J5)
- ・相手の動きの予想ができ、それに即座に反応して動くことができた(J5)

韓国人同士での即興時には以下のような記述があり、これらの記述から、アイコンタクト、空間・

時間のダイナミクス、見えない相手（視界に相手がいない）の動きを感じ取るなどによって、動きを多様に変化させながら『対話』を行っていることがわかる。そして、二人で「相手の動きを受け入れて発展させ」、「軽いいたずらをして受け入れることができ」というように、ここでも身体的引き込み現象が生起していると推察される記述がある。

【引用】

- ・互いに目をあわせたり、動作を受けて発展させたり、お互いに対してずっと注目して動きを観察しているうちに、私の動きをそのまま二人で踊った時より、さらに多様でおもしろい動きができあがって、本当に対話するように即興的に踊れた（K1）
- ・お互いをよく知るようになると、動きながら軽いいたずらをして受け入れることができ、もう少し幅広い動きが作られながら、思ってたかった新鮮なイメージが浮かんでおもしろく踊った（K2）
- ・お互いの動きを自由に変形させながら予想できない動きになった瞬間、ぴりっとするというのを感じたし、直接的にみえないが感じて相手の動きを読んで、模倣したり時間差を置いて変形する時楽しかった（K3）
- ・同国人でありながら、呼吸も何度も合わせて見たら、互いにその中で楽しさを感じていた。空間・時間のダイナミクスを作りながら内容が充実している構成を作っていた（K3）

次に異国人と二人での即興についてみると、異国人との1回目の即興は以下の記述から、お互いに気を使い、消極的であったり、無駄にたたみかけて動いてしまうという面がみられるが、逆に同国人との即興では相手と関わりすぎむしろ異国人の方が双方向からの関わりができてケースが認められる。また、韓国人被験者の記述 K3 から、教えられた相手の動き（既成の動き）を踊るより、即興で踊る方がコミュニケーションできていると推察される。このことは、即興で踊る二人が互いに触発しあい、各自の持ち味がリアルタイムで創出されることによるものと考察される。

【引用】

- ・相手のことをよく知らないので無駄にたたみかけて動いてしまった。最初探り探りだったが、徐々に相手のペースやテンポをつかんで踊りを展開することができた。同国の時よりはスピーディーで、間の取り方が違っていた気がする（J2）
- ・同国人のときは相手と関わろうとしすぎていた気がするが、今回は相手に合わせつつも、自分で引っ張るところもあって、駆け引きできていたように感じた。互いが相手を探ろうと押しついたりひいたりしていた感じ（J3）
- ・お互いに反応する過程で初めてだと配慮しすぎ、反って消極的な動きになったのが少し惜しかった（K1）
- ・意外に互いに呼吸を合わせようとしたし、異国人でも大きい困難はなかった。かえって、

互いにまねるよりは、体を使った『対話』を通じてもっと親しくなる感じを受けた。また、私とは国が違う異国人はどのように動くかを考えながら同時に動くから、完全に集中することはできなかった (K3)

そして異国人との即興の2回目では、以下のように、相手の動き、気配を感じ取り、お互いの動きになじんで反応しながら踊ることによって快感情がもたらされ、そのプロセスで相手を理解していけると感じていることがわかる。このことは、2回目の異国人との即興において間主観的な世界が成立していると考察される。

【引用】

- お互いのテンポを崩さず、たまに相手の動きに反応しながら踊ることができた。心地よい瞬間が1~2回あって、何だか嬉しくなった (J2)
- 相手の気配をすごく感じながら踊っていた。慣れてきてコミュニケーションが少しずつとれるようになってきたので、動きにも還元されている気がする (J3)
- 最初と最後だけは振り付けを決めておいて、中間は即興相手と意気投合できてお互いのやりたいことができたと思う。息も合い、純粋に楽しめた (J4)
- 即興をしながら、お互いの動きになじむように、いつのまにか似た動作をしている時が最も興味深かった。お互いに意識しないで踊ってたら、さらに多様な姿が出てくる気がした (K1)
- 外部から来るエネルギーを受けて反応する動作らが興味深かった。お互いの動きを理解して行くようになった (K3)
- 即興自体がお互いを信じて動くために、お互いの動きをまねる時より確実に心が開かれる気がした。すればするほどさらにおもしろくなり、お互いを知っていくようだし、お互いの動きを尊重する気持ちだった (K4)

4) 2.4. 実験調査を通しての気づき

実験終了直後に被験者に、実験全体の感想を自由に記述することを求めた。

以下のような日韓両被験者の記述から、異国人とのデュエットでは、初めは文化が異なり言葉も通じない相手にとまどい、相手の様子をうかがい、動きを合わせることに終始しているが、実験が進むにつれて、相手の呼吸を感じ、呼吸を合わせることができるようになり、敢えて目を合わせなくても安心感があり、信頼感、一体感、意思疎通ができるようになっていくことがわかる。このように同じ異国人との活動を積み重ねることにより、そこには身体的引き込み現象が生じ、間主観的な世界が成立していると考察される。

そして同国人とのデュエットでは、初回のデュエットにそのような世界が成立していると推察されたが、異国人とのデュエットを経験したことで、同国人と踊る時には言葉で伝えられるということ

がかえって身体で感じる閾値を低くしていることに気づき、その気づきによって、最後の同国人との即興では感覚がより鋭敏になって踊れるようになっていくことわかる。言葉の通じない異国人とのデュエットを通して、ノンバーバルコミュニケーションである舞踊の特質をあらためて認識し、同国人同士の身体的コミュニケーションにも深まりがもたらされたと言えよう。

【引用】

- ・初めは、いつ動き始めるのかどのようにするのか互いに相手の状況をうかがっていたが、最後に踊った時には相手の動きの呼吸をただでいつ動けばいいかわかるようになった。全く違う文化と言葉も通じない人達と一緒に合わせられるか心配が先だったが、時間がたつにつれて動きをすぐ把握して互いに呼吸を合わせることができた。とても新鮮でおもしろい時間だった (K1)
- ・最も珍しかったことは、動き一つで日本でも韓国でも同じ感情を感じて伝達することがわかった。ボディランゲージを全身で感じることができた (K1)
- ・長年共にした友人とするように緊張なく自然に呼吸を合わせた。全体的に時間が過ぎて何度も呼吸を合わせるほど互いに近づくということを感じて、他の国の人でも、文化と環境は違うがからだを通じて何か共有したようで良い経験だった (K3)。
- ・(異国人の人に) 思ったよりはスムーズに伝わったが、同国人同士でやる時よりはすごく慎重に丁寧になっていたと思うし、改めて初心に帰れた気がする。同国同士だと、言葉やニュアンスだけで伝わってしまう(といっても、どこまで伝わっているかは不明だが)というのが比較することでよりわかった (J2)
- ・(異国人との) 即興もスリリングで楽しく、言葉はほとんど通じなくても体を通じて互いの気持ちがリンクする瞬間があった。回数を重ねることでだんだん慣れてきて、相手のことも少しずつわかってきたのでもう少し続ければもっと面白いダンスができたと思う。時間があつという間だった (J2)
- ・同国人との即興も最初にやったのと最後にやったのでは多少変化があった気がする。異国、同国と交互にやっていくうちに私も相手の J1 も自分の中で何かが変わったのか、最後の同国人同士の即興では、感覚がより敏感になって最初とは違う緊張感の即興ができたと思う (J2)
- ・回数を重ねると、相手の雰囲気や特性などが少しずつ見えてきて、同国人のときとは違うほどよい距離感で踊れるようになった (J3)
- ・今回、言葉のコミュニケーションがあまりできない状況を体験して、舞踊という身体を使うコミュニケーションの重要性を身をもって感じた。頭ではわかっているけど、いつも言葉が通じてしまう環境にいたため、ついつい言葉に頼ってしまっていた気がする。もちろん言葉のコミュニケーションも重要だが、こんな短時間で、相手との関係をつくっていくのに大きく影響していたのは、明らかに表情や動き、雰囲気というようなその人となりというか、その人自身からにじみ出る何かだった。普段会話をしたりしていて、間が持たないということ

体験することがあるが、動きは黙っていても通じる何かがあると感じた。存在し、また相手を感じようとするだけで、お互いの関係は縮まっていくように感じた。とてもいい経験ができた (J3)

5) .おわりに

日韓の被験者の記述には、度々「呼吸」という言葉がみられた。コミュニケーションにおける引き込み現象を生理的側面から捉え、その成果をヒューマンインターフェース開発に応用している渡辺⁷は、身体的コミュニケーションにおける呼吸の引き込みが果たす役割の重要性を指摘している。被験者の記述にある「相手の呼吸を感じ」「呼吸を合わせ」「呼吸があって」いる状態とは、引き込み現象が生じている状態であり、また、お互いの動きを呼吸で教えあうことはその動きに特有の呼吸の引き込みができればその動きを覚え踊ることができることを意味し、これらのことから、舞踊における引き込みの基盤は呼吸の引き込みにあると考察される。そしてこの呼吸の引き込みによって踊れている時、そこには間主観的世界が成立し、円滑な身体によるコミュニケーションが行われていると言えよう。

今回の実験調査から、既知の同国人と踊る場合には最初からコミュニケーションが成立しているのに対し、未知の異国人と踊る場合には回を重ねることによってコミュニケーションが成立するようになるという違いがみられた。そして、被験者は言葉の通じない異国人に呼吸で動きを教え、呼吸で共に踊ることによって、これまで同国人と踊る中で捉えていた舞踊のコミュニケーション的機能の基盤をあらためて体感している。

わずか一日の舞踊活動で、文化の異なる者同士の距離が縮まり、呼吸をはじめ様々な体感を共有し、初めにあった同国人で踊ることに対する体感と異国人と踊ることに対する体感の相違は、実験が進むにつれ次第になくなっていく。

初めに感じた相違は、相手が未知の異国人であったからなのか、そうではなくて同国人であっても初対面の相手であれば、未知の異国人を相手とする場合と同じような体感の相違として現れるのかを今後検討する必要がある。

5) .おわりに 韓国語版

5) .결

일본과 한국의 피험자의 기술에는 「호흡」 이라고 하는 단어가 자주 보였다. 커뮤니케이션에 있어서의 동조(끌어들임) 현상을 생리적 측면에서 주목하여, 그 성과를 휴먼 인터페이스 개발에 응용하고 있는 와타나베(渡邊)는, 신체적 커뮤니케이션에 있어서의 호흡의 동조가 이루는 역할의 중요성을 지적하고 있다. 피험자의 기술에 있는 「상대의 호흡을 느끼고」 「호흡을 합치고」 「호흡이 맞고」 있는 상태라는 것은, 동조현상이 일어나고 있는 상태이며, 그리고 서로의 움직임을 호흡으로 가르치는 것은 그 움직임에서 특유한 호흡의 동조가 이루어지면 그 움직임을 기억해서 추출 수 있는 것을 의미한다.

이러한 것으로부터, 무용에 있어서의 동조의 기반은 호흡의 동조에 있다고 고찰된다. 그리고 이 호흡의 동조에 의해 춤출 때, 거기에는 간주관적(間主觀的) 세계가 성립하고, 원활한 신체에 의한 커뮤니케이션이 행하여지고 있다고 말할 수 있겠다.

이번의 실험 조사에서, 이미 알고 있는 동국인과 춤추는 경우에는 처음부터 커뮤니케이션이 성립하고 있는 것에 반해, 모르는 이국인과 춤추는 경우에는 헛수를 거듭하면서 커뮤니케이션이 성립되어 진다라는 차이가 보였다. 그리고, 피험자는 언어가 원활히 소통되지 않는 이국인에게 호흡으로 움직임의 가르치고, 호흡으로 함께 춤추는 것으로, 지금까지 동국인과 춤추는 가운데에서 이루어지고 있던 무용의 커뮤니케이션적인 기능의 기반을 체감 하고 있다.

불과 하루 남짓의 무용활동으로, 문화가 다른 사람들끼리의 거리가 좁아지고, 호흡을 비롯해 여러가지 체감을 공유하여, 동국인과 함께 춤추는 체감과 이국인과 함께 춤추는 체감의 차이는, 실험이 진전됨에 따라 점차로 없어졌다.

처음에 느낀 차이는 상대가 모르는 이국인이어서인지 아니면 동국인이어도 첫대면의 상대라면 모르는 이국인을 상대로 하는 경우와 같은 체감의 차이로 나타나는 지를 이후 검토 할 필요가 있겠다.

●参考文献

- 1 原田純子・柴眞理子・猪崎弥生・塚本順子：踊る技術の向上と体感獲得の過程—舞踊経験の浅い学生の感情価に基づいて— 体育科教育学研究 21(2) pp.31-44. 2005.
- 2 Kiyoshi Maiya, Mariko Shiba “Bodily Sensation in Dance ;its Formation and Cultural Difference” Proceedings of The First International Workshop on Kansei, pp.110-113. 2006.
- 3 鯨岡峻 『原初的コミュニケーションの諸相』 ミネルヴァ書房. 1997.
- 4 中村雄二郎 『共通感覚論』 岩波現代文庫. 2000
- 5 柴眞理子:舞踊運動の体感の変化のプロセスとその意味、バイオメカニズム学会誌 vol. 29 No. 3 pp. 124-128. 2005.
- 6 柴眞理子・坪倉紀代子・猪崎弥生・原田順子・塚本順子：体感からとらえた舞踊運動の基本感情とその用語、神戸大学発達科学部研究紀要 第12巻第2号、 pp.113-126. 2005.
- 7 渡辺富夫：コミュニケーションにおける引き込み現象の生理的側面からの分析評価、情報処理学会論文誌 vol. 39 No. 5 pp. 1225-1231. 1998.

■執筆者について

柴眞理子(しば・まりこ)

お茶の水女子大学大学院教授。神戸大学名誉教授。博士(学術)。舞踊学・舞踊教育学。最近の論文に「NIRS計測からみた舞踊行動と脳活動の関係～舞踊の見方を中心に～」『表現文化研究』第9巻第1号、神戸大学表現文化研究会、2009年(渡辺英寿らと共著)、「舞踊一人間の自己理解の呈示」『地球人』第6巻第1号、ピング・ネット・プレス、2008年等。舞踊学会及び人体科学会理事。

E-mail: shiba.mariko@ocha.ac.jp

南貞鎬（なむ じょんほ）

韓国芸術総合学校舞踊院教授。即興ダンス開発集団‘モムロ’芸術監督。梨花女子大学舞踊学科卒業、同大学院修了。フランス Rennes II 大学 DEA 取得。UCLA、パリ及びリヨンコンサバトリー、ハワイ大学等の客員教授等を歴任。国内外で舞踊作品の発表を続け、第4回キム・スグン文化芸術賞（1993）、1999年最優秀芸術家賞（芸術評論家協議会）等を受賞。著書には『素足のテプシコレ』、『現代舞踊鑑賞法』等がある。

猪崎弥生（いざき・やよい）

お茶の水女子大学文教育学部教育学科表現体育学専攻卒業。お茶の水女子大学大学院人文科学研究科舞踊教育学専攻修了。平成18年神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 舞踊・表現行動学コース教授。

E-mail : izaki.yayoi@ocha.ac.jp

李世珍（り・せじん）お茶の水女子大学大学院

小堀結香（こほり・ゆか） 同上

高田装子（たかだ・しょうこ） 同上

中川由香子（なかがわ・ゆかこ） 同上

■Notes on the Contributor

Mariko Shiba (Ph. D.) is a professor of Ochanomizu University and a professor emerita of Kobe University. Her major research has been done in the fields of body expression, dance and dance education. She recently published a paper “Brain function during seeing, performing and imagining the dance measured by NIRS., *Journal of Cultural Studies in Body, Design, Media, Music and Text*, Vol.9, No.1, 2009 (Shiba & Watanabe et.all) and “Dance- Presentation of self-understanding of a human being-”, *Journal of Chikyu-Jin*, Vol.6, No.1, ,2008. She is on the board of trustees of Society for Dance Research and Society for Mind-Body Science (Japan).

NAM Jeongho is a professor of Choreography Department of School of Dance at Korea National University of Arts while continuing to perform and choreograph new works.

After graduating from Ewha Woman’s University in Seoul, she went to France and earned D.E.A from Universitaire de Rennes2 in France.

She was invited as a guest choreographer from in and outside South Korea. She was also a Visiting Scholar of U.C.L.A and guest professor at Hawaii University, temporary instructor of Conservatoire de Lyon and Conservatoire de Paris. She received many prizes. For example, Kim Sugun Culture and Arts Award (1993), Best Artist of the Year Award from Korea Art Critic Society (1999).

Yayoi Izaki had received M.A. degree from Ochanomizu University. She completed the doctoral program of Graduate School of Cultural Studies and Human Science, Kobe University in 2006 (Ph.D. Kobe University). Currently, she is a professor of Department of Dance, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University.



図1 異国人と教えあう



図2 異国人との即興



図3 同国人との即興



図4 実験に関わった人々

2. 日韓の舞踊専攻生によるデュエット時の動きと体感の変容²

柴真理子(お茶の水女子大学)

坪倉紀代子(十文字学園女子大学)

* 研究協力

南 貞鎬(韓国芸術総合学校)

猪崎弥生(お茶の水女子大学)

【緒言】

筆者らは、舞踊運動の体感に関する研究を継続し、中国とノルウェーで行った体感評価実験から、国際化の時代に、「同じ場に身体をおいての創造的身体表現の活動が、身体を通しての異文化理解の一翼を担う」という仮説を導出した。

本仮説の実証は、現代のグローバル化・情報化の著しい進展において、自己理解・受容や他者理解の困難性など、人間が本来的に自然に持つ感情や他者への共感性からの疎外が指摘される中で、舞踊運動(身体表現)がもたらす原初的な感性コミュニケーションの意義を明らかにすることが期待されるとともに、言語以外の異文化コミュニケーションの在り方、すなわち、文化圏の異なる人々との間において、どのような身体表現活動を行うことがより豊かなコミュニケーションに繋がるのかという問題についての探求に繋がるであろう。

このような背景をもとに、日韓の大学が協力し、同じ東アジア文化圏に位置づけられる日本及び韓国の舞踊専攻学生を対象に、同じ場で共に創り、踊るという実験を実施した。

本研究では同じ場に身をおいて、同じ国の人と、また、異国の人と、共に創り踊る際の動きと体感の変容をみ、そこから創造的身体表現活動が個々人の態度変容に及ぼす影響と異文化間の相互理解の様相を考察することが目的である。

【方法】

- ・日時:2010年12月19日(日)
- ・場所:韓国芸術総合学校(Korea National University of Arts)ダンス室
- ・被験者:お茶の水女子大学舞踊教育学コース大学院生及び学生 5名
韓国芸術総合学校舞踊院創作科学生 5名
- ・実験材料:課題とした舞踊運動はこの実験に先立って両大学の教授である南と猪崎が作成し、それらの舞踊運動のみえと体感による感情価については報告済み。
- ・実験手順:被験者に求められた活動は、①課題1を二人で踊る、②各自、課題2を発展させて一まとまりの動きを創る、③二人組になり各自が創った動きを教えあい、二人で踊る④デュエット(感じあって踊る:テーマ『対話』)、次いで、課題3について②から④を、そして最後に①を実施。被験者はこれらの活動を予め決められた同国人同士と、異国人との二人組で行い、各活動中に体感したことの自由記

² 第63回舞踊学会大会研究発表

述を求められた。これらの活動を VTR に収録した。

実験手順



- ① **A** (課題1) 舞踊運動 1 を二人で踊る
- ② **B** (課題2) 各自、舞踊運動 2 (3) を発展させて一纏りの動きを創る
- ③ **C** (課題3) 二人組で各自が創った動きを教えあう
- ④ **D** (課題4) デュエット

(感じあって踊る：テーマ『対話』)

- * 各課題について、予め決められた同国人同士の二人組と、異国人との二人組で実施。
- * 活動中の体感について自由記述を求め、これらの活動を VTR に収録。

考察の対象

- 課題 1 舞踊運動 1 を二人で踊る
- 課題 4 デュエット (感じあって踊る：テーマ『対話』)

被験者の体感に関する自由記述と、VTR に収録された動きを考察対象

【結果】

本研究では、上記の手順で実施した実験の中から①と④を取り上げ、被験者の体感に関する自由記述と、VTR に収録された動きを考察対象とする。

1) 課題 1 を二人で踊る(実験の最初と最後)

課題1を、同実験の最初に、同国人同士、及び異国人と踊り、実験の最後に異国人と踊った。当初の予定では実験の最後にも同じ組み合わせで踊ることになっていたが、時間の都合上、異国人と踊ることのみを実施した。そこで、異国人の組み合わせを対象に最初と最後で、二人の動きと体感がどのように変容したかをみた。

最初：異国人と踊る時には、顔立ちや雰囲気の違い、初対面、言葉が通じないこと、即ち、異文化がもたらす緊張感の高まり、また、動きのタイミングや呼吸がつかめないということがあり、相手の存在、動き、呼吸を感じるべく意識して踊っている。また、異国人と踊ることに新鮮さ、高揚感、親近感等を感じている。

最後：最初に踊った時よりも信頼関係のようなものができ、安心感・一体感が生まれ、意志疎通しながら楽しんで踊れていることがわかる。お互いの呼吸を合わせることができるようになっている。

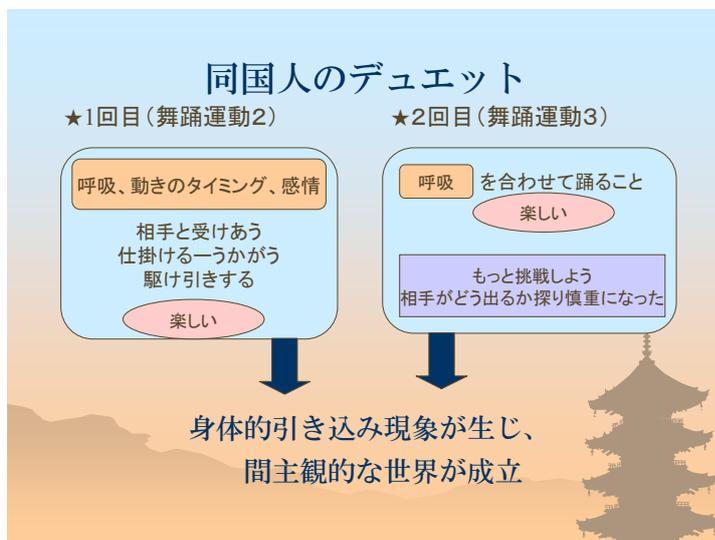
これらのことから、異国人との初めてのデュエットは、異文化がもたらす緊張に対して、呼吸を合わせるべく体感を研ぎ澄まして踊り、そうすることによって、同国人と踊るのとは異なる新鮮さや高揚感がもたらされる体験となっている。

以上のことから、異国人と創る、教える、踊るという体験は、その体験を何度か共有していく中で、お互いの呼吸が合い、意志疎通をもたらしていると言えよう。

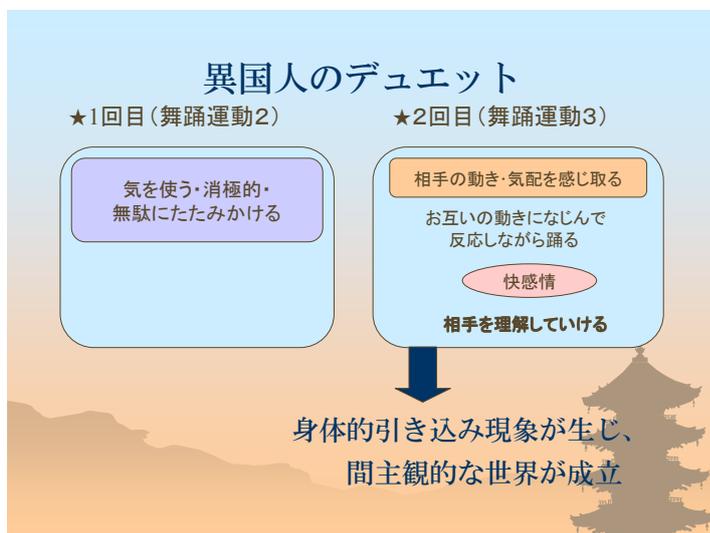
2) 二人で感じあって踊る

まず、被験者各自が1回目は舞踊運動2(2回目は舞踊運動3)の発展(20~30秒)を作成、次に二人組で動きの発展を教えあう、更に、二人の動きの発展を手がかりに二人で感じあいながら踊るという手順を進めた。テーマは『対話』で、長さは1分程度とした。1回目は同国人との二人組の後に異国人との二人組での活

動とし、2回目は逆に、異国人との二人組の後に同国人との二人組での活動とした。



同国人二人での「感じあって踊る」について、1 回目で、呼吸、動きのタイミング、感情、などを、相手と受けあう、仕掛ける—うかがう、駆け引きするといったことによって、『対話』が行われ、それを楽しんでおり、2 回目においては、1 回目同様に呼吸を合わせて踊ることを楽しむと同時に、もっと挑戦しようとしてうまく表現できなかった、相手がどう出るか探り慎重になったという面もあることがわかる。いずれにしても同国人同士の2 回の即興では、コミュニケーションの原初的な形態である身体的引き込み現象⁷が生じ、間主観的な世界が成立していると推察される。



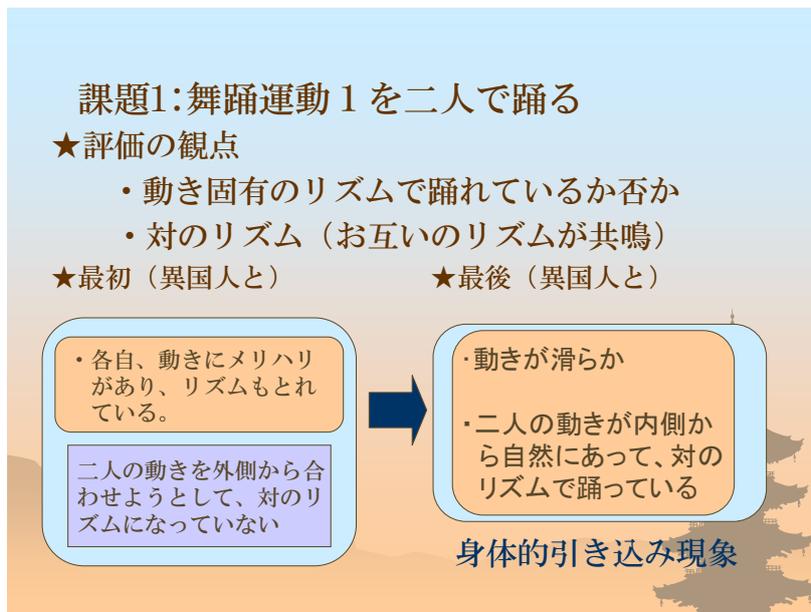
次に、異国人と二人での即興について。1回目の即興では、お互いに気を使い、消極的であったり、無駄にたたみかけて動いてしまうという面がみられる。しかし、この異国人との即興に先立つ同国人との即興との比較から、同国人との即興では相手と関わりすぎむしろ異国人の方が双方向からの関わりができていくとするケースも認められる。2回目においては、相手の動き、気配を感じ取り、お互いの動きになじんで反応しながら踊ることによって快感情がもたらされ、そのプロセスで相手を理解していけると感じていることがわかる。

このことは、2回目の異国人との即興においては身体的引き込み現象が生じ、間主観的な世界が成立していると考察される。

3) 動きの変容

動きの変容については、筆者らがまず個別に動きの変容について自由に記述し、その後、その変容についてDVDをみながら協議した。

(1) 課題1:舞踊運動1を二人で踊る



課題1の二人での踊りに対する評価の観点として次の2つを定めた。

- ・個人について…課題の動きがもつリズムで踊れているか否か
- ・二人の関係について…対のリズムで踊れているか否か

対のリズムとは、一緒に踊る人同士が、二人の動きを外側から合わせようとするのではなく、二人の動きが自然にあって共鳴のリズムを指す。

この観点にのっとっての評価の結果、実験の最初と最後に異国人と踊った課題1の動きについて、4組とも最初は各自、動きにメリハリがありリズムはとれているが、二人の動きを外側から合わせようとして、お互いのリズムが共鳴して動く対のリズムになっていない。これに対し、最後には、動きが滑らかになり、二人の動きが内側から自然にあって、対のリズムで踊ることができている。

(2) 課題4:二人で感じあって踊る

課題4の「二人で感じあって踊る」については、それぞれのデュエットで当然動きが異なるため、動き自身の変容をみることは難しい。

そこで、筆者らは、まず、対象となる8つのデュエットをDVDで繰り返しみながら、デュエットの変容をみることにした。

課題4：二人で感じあって踊る

★デュエットの変容

1回目

- 動きの間が悪い
- 「受けて一返して」のタイミングが悪い
➡ とりとめがなく冗長

2回目

- 「受けて一返して」がいいタイミングで行われる（間に変化）
➡ 1回目より短く感じられる

その結果、同国人同士、異国人との即興、いずれにおいても、1回目は動きの間が悪く、相互に『受けて一返して』がいいタイミングできていないために、とりとめがなく冗長である傾向が認められた。これに対し2回目はその間に変化が現れ、同じ1分間の即興であるが、1回目より短く感じられる。そしてそこには『受け答え』を認めることができる。

課題4：二人で感じあって踊る

★評価の観点

二人の動きがタイミングのよい能動—受動関係にあるか、即ち、二人の動きの間が合わさって一つの間（全体の流れ）となっているか

同国人と	異国人と
1回目>2回目 3組	1回目>2回目 1組
1回目=2回目共に○ 1組	1回目<2回目 2組
	1回目=2回目共に× 1組

同国人と：1回目>2回目 異国人と：1回目<2回目

二人の間が合わさった一つの間が共創される傾向

課題4の「二人で感じあっての踊り」については、同国人同士の1回目と2回目のデュエット、異国人との1回目と2回目のデュエットそれぞれを比較し、1回目と2回のデュエットのいずれがよく感じ合っていて踊れているかを評価した。

その評価の観点は、二人の動きがタイミングのよい能動—受動関係にあるか、即ち、各人の動きの間が合わさって一つの間(全体の流れ)となっているかである。

その結果、4組の同国人同士のデュエットでは、3組が1回目の評価が高い。1組は1, 2回目ともによく踊れており、この2回のデュエットの評価は共に高い。

4組の異国人とのデュエットでは、2組が2回目の評価が、1組が1回目の評価が高く、1組は1, 2回目ともに

評価は低い。

このように、同国人同士のデュエットでは1回目が、異国とのデュエットでは2回目が、二人の動きがタイミングのよい能動—受動関係にある、即ち、二人の間が合わさった一つの間が共創される傾向がうかがえる。

4) 体感と動きの評価の関係

外側からの評価である動きの評価と、被験者の体感とがどのような関係にあるかをみるために、評価と被験者の各デュエット毎の体感記述を照合した。

まず、各デュエット毎の二人の体感記述から、二人の体感の関係は、①+の体感が一致②両者の+-の体感にズレがある③不足を感じる-の体感が一致、という3つのパターンに分類された。

(1)「課題1を異国人と踊る」について、体感記述と動きの評価を照合から、対のリズムとなっていない最初の踊りでは、二人の体感が+で一致、或いはズレが有るのに対し、対のリズムで踊っている最後の踊りでは踊り手二人の体感記述が+で一致している。

動きと体感の関係（課題1）

		動き	記述
J1-K1	初め		≠
	終り	○	○
J2-K2	初め		○
	終り	○	○
J3-K3	初め		●
	終り	○	○
J5-K5	初め		≠
	終り	○	○

注：動きの○...対のリズムで踊っている。
記述の○...二人の体感記述が+で一致
●...二人の体感記述が-で一致
≠...二人の記述が+、-でズレ

(2)「二人で感じあって踊る」の3つの記述パターンには、以下のようなものがある。

①+の体感が一致

- ・「相手の動きを読んで模倣したり時間差をおいて変形し楽しかった」
- ・「相手を感じられたし、何をいうのかも感じる事ができた。お互いがお互いを信じ合っているような気がした」

②両者の+-の体感にズレがある

- ・「よく表現できなくて物足りなさが残る」
- ・「新鮮なイメージが浮かんで面白く踊った」

③不足を感じる-の体感が一致

- ・「相手のことを知らないので無駄にたたみかけて動いてしまった。うまくかみあわなっていない部分もあったと思う」

「顔でコンタクトすることによりお互いを感じようと努めた。薄い板を挟んで何の話をするのか聞く感じがした」。

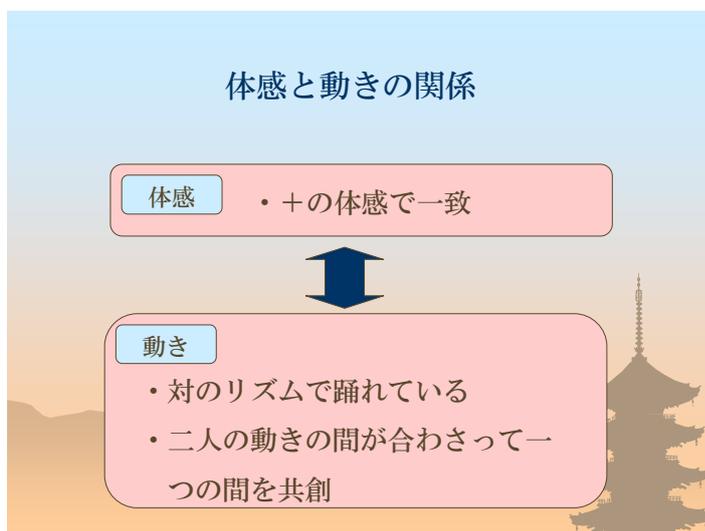
動きと体感の関係 (課題2・3)

		動き	記述			動き	記述
J1-J2	①M2	○	○	J1-K1	①M2		≠
	②M3		●		②M3	◎	○
K1-K2	①M2	○	○	J2-K2	①M2	○	●
	②M3		≠		②M3		≠
J3-J4	①M2	○	○	J3-K3	①M2		≠
	②M3		≠		②M3		○
K3-K4	①M2	○	○	J4-K4	①M2		○
	②M3	○	?		②M3	◎	○

注：動きの○は1回目と2回目の比較
◎は二人の動きの間が合わさってより流れのある一つの間になっている

この3つのパターンと動きの評価の照合から、次のことが明らかになった。

- ① +の体感が一致していれば、外側からも「二人の動きがタイミングのよい能動—受動関係にある」と認められる。
- ② 二人の体感にズレがある(一人は+の体感、一人は-の体感)場合、及び、-の体感が一致している場合には、外側から「二人の動きがタイミングのよい能動—受動関係にある」と認められない。



即ち、体感と動きの関係について、二人で既製の動きを踊る、或いは相手を感じながら即興的に踊る場合、二人の体感が+で一致している場合、二人の動きのリズムは共鳴し、対のリズムで踊れている、また、二人の動きの間が合わさって一つの間(全体の流れ)が共創されているという関係にあると考察された。

【結語】



今回の実験調査から、既知の同国人との踊りでは最初から身体的引き込み現象が起こり、間主観的な世界が成立しているのに対し、未知の異国人と踊りでは初めは文化が異なり言葉も通じない相手にとまどい、相手の様子をうかがい、動きを合わせることに終始しているが、実験が進むにつれて、相手の呼吸を感じ、安心感、信頼感、一体感が生まれ、意思疎通ができるようになる、即ち、同じ異国人との活動を積み重ねることにより、次第に身体的引き込み現象が生じ、間主観的な世界が成立してくる。

そして、被験者は異国人に呼吸で動きを教え、呼吸で共に踊ることによって、ノンバーバル・コミュニケーションである舞踊の特質を再認識し、そのことが同国人同士のデュエットにも新鮮さをもたらしている。

わずか一日の舞踊活動で、文化の異なる者同士の距離が縮まり、呼吸をはじめ様々な体感を共有し、初めにあった同国人で踊ることに対する体感と異国人と踊ることに対する体感の相違は、実験が進むにつれ次第になくなっていく。

ここに、創造的表現活動による異文化間の相互理解の一つの様相をみることができよう。

日韓の舞踊専攻生によるデュエット時の動きと体感の変容 韓国語版

한일 무용전공생에 의한 듀엣의 움직임과 체감의 변용

시바 마리코 (柴 眞理子, 오차노미즈여자대학)

즈보쿠라 기요코 (坪倉 紀代子, 주몬지학원여자대학)

*연구협력

남 정호 (南 貞鎬, 한국예술종합학교)

이자키 야요이 (猪崎 弥生, 오차노미즈여자대학)

【서언】

필자들은 무용운동의 체감에 관한 연구를 계속하는 가운데, 중국과 노르웨이에서 실시한 체감평가 실험을 통해서 국제화의 시대에 「같은 장소에 신체를 둔 창조적 신체표현의 활동이 신체를 통한 이문화이해의 일익을 담당한다」 라는 가설을 세웠다.

본 가설의 실증을 통하여 글로벌화·정보화의 현저한 발전을 이루는 현대에 있어서, 자기이해·수용 및 타인에 대한 이해의 곤란성등, 인간이 본래 자연스럽게 가지는 감정이나 타인과의 공감성으로부터의 소외가 지적되는 가운데, 무용운동(신체표현)이 초래하는 원초적인 감성적 커뮤니케이션의 의의를 밝히는 점이 기대되고 있다. 그러함과 동시에, 언어이외의 이문화 커뮤니케이션의 자세 즉, 문화권이 다른 사람들과의 사이에 있어서, 어떤 신체표현활동을 하는 것이 보다 풍부한 커뮤니케이션으로 이어질 것인가라는 문제에 관한 탐구이기도 하다.

이러한 배경을 바탕으로 한일의 양대학이 협력하여 같은 동아시아 문화권에 위치하는 한국 및 일본의 무용전공생을 대상으로 같은 장소에서 같이 만들고 춤추는 실험을 실시했다.

본 연구는 같은 장소에 신체를 두고, 같은 나라 사람과 또는, 다른 나라 사람과 같이 만들고 춤출 때의 움직임과 체감의 변용을 보고 거기에서 창조적 신체표현 활동이 각개개인의 태도변용에 미치는 영향과 이문화간의 상호이해의 양상을 고찰하는 것이 목적이다.

【방법】

·일시: 2010년 12월 19일(일)

·장소: 한국예술종합학교 (Korea National University of Arts) 무용실

·피험자: 오차노미즈여자대학 무용교육학코스 대학원생 및 학생 5명

한국예술종합학교 무용원 창작과 학생 5명

·실험재료: 과제로 작성한 무용운동은 이 실험에 앞서 양대학의 교수인 남정호와 이자키(猪崎)가 작성한 무용운동의 시각적 인지(어떻게 보여지는가)와 체감에 의한 감정가에 대해서는 보고완료되었다.

·실험 순서: 피험자에게 요구된 활동은, ①과제 1을 둘이서 춤춘다. ②각자, 과제 2를 발전시켜서 하나의 통합된 움직임을 만든다. ③2인조가 되어 각자가 만든 움직임을 서로에게 가르치고 둘이서 춤춘다. ④듀엣 (서로 느끼면서 춤춘다 :테마 『대화』)에 이어서, 과제 3에서는 ②에서 ④까지를, 그리고 마지막으로 ①을 실시한다. 피험자는 이 활동들을 미리 정해진 동국인페어 2인조와,

이국인과의페어 2 인조로 실시하여 각 활동을 통해서 체감한 것을 자유기술하도록 했다. 이 활동을 VTR 에 수록했다.

실험순서



- a** (과제 1) 무용운동 1 을 들어서 춤춘다.
- b** (과제 2) 각자, 과제 2(3) 을 발전시켜 하나의 움직임을 만든다.
- c** (과제 3) 2 인조가 되어 각자가 만든 움직임을 서로에게 가르친다.
- d** (과제 4) 듀엣
(서로 느끼면서 춤춘다 :테마 『대화』)

*각과제는 미리 정해진 동국인페어 2 인조와, 이국인과의페어 2 인조로 실시했다.

*활동중의 체감에 대해서 자유기술을 하도록 하여, 이 활동을 VTR 에 수록했다.

고찰의 대상

- 과제 1 무용운동 1 을 들어서 춤춘다
- 과제 4 듀엣(서로 느끼면서 춤춘다 :테마 『대화』)

고찰대상은 피험자의 체감에 관한 자유기술과

VTR 에 수록된 움직임

【결과】

본 연구는 상기순서로 실시한 실험 중에서 ①과 ④를 택하여 피험자의 체감에 관한 자유기술과 VTR 에 수록된 움직임을 고찰 대상으로 했다.

1) 과제 1 을 들어서 춤춘다 (실험의 첫부분과 마지막부분)

과제 1 을 실험을 시작하는 첫부분때 동국인끼리 그리고 이국인과 춤추고, 실험 마지막때에 이국인과 춤쳤다. 당시의 예정상으로는 실험 마지막부분에서도 같은 조합으로 춤출 예정이었지만, 시간상 문제로 이국인과 춤추는 것만을 실시했다. 거기서, 이국인과의 조합을 대상으로 실험 시작부분과 마지막부분에서 두사람의 움직임과 체감이 어떻게 변화했는지를 보았다.

시작부분: 이국인과 춤출 때에는 얼굴 생김새나 분위기의 차이, 첫대면, 말이 통하지 않는 점, 다시 말해, 이문화가 초래하는 긴장감의 고조, 그리고 움직임의 타이밍이나 호흡을 파악할 수 없다는 점이 있어서, 상대의 존재, 움직임, 호흡을 느끼기 위해 의식하면서 춤추었다. 또한, 이국인과 춤추는 것에

대한 신선함, 고양감, 친근감등을 느끼고도 있다.

마지막부분: 시작때보다 신뢰 관계가 생기고, 안심감·일체감이 생겨나 의사소통을 하며 즐기면서 춤추게 된 것을 알 수 있다. 서로의 호흡을 맞출수 있게 되었다.

이러한 것들로부터 이국인과의 처음하는 듀엣은 이문화가 초래하는 긴장에 대해 호흡을 맞추기 위해 체감을 충분히 집중하여 춤추고, 그렇게함으로써, 동국인과 춤추는 것과는 다른 신선함과 고양감을 불러 일으키는 체험이 된다.

따라서, 이국인과 함께 만들고, 가르치고, 춤추는 체험은 그 체험을 몇 번정도 공유해 가는 가운데 서로의 호흡을 맞출 수 있게 되고, 의사소통이 이루어지게 된다고 할 수 있겠다.

2) 두사람이 서로 느끼면서 춤춘다.

우선, 각피험자가 1 회째는 무용운동 2 (두번째는 무용운동 3)의 발전(20~30 초)을 작성, 다음으로 2 인조가 되어 움직임의 발전을 서로에게 가르친다. 그리고, 두사람의 움직임의 발전을 계기로 하여 둘이서 서로 느끼면서 춤추는 순서로 진행시켰다. 테마는 『대화』이며, 시간제한은 1 분정도로 했다. 첫번째는 동국인과의 2 인조를 실시한 다음에 이국인과의 2 인조 활동으로 하고, 두번째는 반대로 이국인과의 2 인조를 실시한 다음에 동국인과의 2 인조 활동으로 실시했다.

동국인과의 듀엣

★1 회째 (무용운동 2)

★2 회째 (무용운동 3)

호흡, 움직임의 타이밍, 감정

호흡을 맞추면서 춤춘다

상대방과 서로 주고받음

즐겁다

리더한다 - 따른다

타협한다

더욱 더 도전하려 한다

상대방이 어떻게 나올지 살피며 신중해진다

즐겁다

신체적동조현상이 생기고,

간주관적인세계가 성립

동국인 2 인조의 「서로 느끼면서 춤춘다」는 1 회째 실험에서 호흡, 움직임의 타이밍, 감정등을 상대와 주고 받고, 리더하고 — 따르고, 타협하는 것으로 『대화』가 행해지고, 그것을 즐긴다. 2 회째는 ① 1 회째와 동일하게 호흡을 맞춰서 춤추는 것을 즐겁과 동시에, 더욱 더 도전하려 했지만 잘 표현할 수 없었다, 상대가 어떻게 나올지를 살피며 신중해졌다는 면도 알 수 있다. 어쨌든간에 동국인끼리의

2 회에 걸친 즉흥에서는 커뮤니케이션의 원초적인 형태인 신체적동조(끌어들임) 현상이 생기고, 간주관적인 세계가 성립되었다고 추측된다.

이국인과의 듀엣

★1 회째 (무용운동 2)

조심스럽다, 소극적

필요이상으로 움직임을 제시한다.

★2 회째 (무용운동 3)

상대방의 움직임, 에너지를 느낀다

서로의 움직임에 익숙해지면서

반응하며 춤춘다

쾌감

상대방을 이해해 간다

신체적동조현상이 생기고 간주관적인세계가 성립

다음은 이국인과의 2 인조 즉흥에 대해서이다. 1 회째의 즉흥에서는 서로에 대하여 조심스럽고, 소극적이거나, 필요이상으로 움직임을 제시하는 면을 볼 수 있다. 그러나, 이국인과의 즉흥에 앞서 행한 동국인끼리의 즉흥을 비교해 봤을 때, 동국인과의 즉흥에서는 상대방과 지나치게 익숙한 탓에 오히려 이국인과의 2 인조쪽이 쌍방으로부터의 상호관계가 성립된다는 경우도 인정할 수 있겠다. 2 회째의 즉흥에서는 상대의 움직임, 에너지를 느끼고, 서로의 움직임에 친숙해져서 반응하며 춤추는 것에 쾌감을 느끼고 그 과정에서 상대를 이해할 수 있다고 느끼는 것을 알 수 있다. 이 러한 것은 2 회째의 이국인과의 즉흥에 있어서는 신체적동조현상이 생기고, 간주관적인 세계가 성립하였다고 고찰된다.

3) 움직임의 변용

움직임의 변용에 대해서는 필자들이 우선 개별로 움직임의 변용에 대해서 자유롭게 기술하고 그 후, 그 변화에 대해서 DVD 를 보면서 협의했다.

(1) 과제 1: 무용운동 1 을 들어서 춤춘다

과제 1: 무용운동 1 을 들어서 춤춘다

★평가의 관점

*움직임의 고유 리듬으로 춤추고 있는지 아닌지를 본다.

*호흡이 맞음(상호의 리듬이 공유)

★처음(이국인과의)

★마지막(이국인과의)

각자, 움직임에 강약이있고, 리듬을 맞추고 있다.

움직임이 매끄럽게 흐른다.

두사람의 움직임을 겉모양에서부터

두사람의 움직임이 내면에서부터

맞추려 하여, 호흡이 안 맞는다.

자연스럽게 맞춰지면서 호흡이 맞는다.

신체적 동조 현상

과제 1의 이인조의 춤에 대한 평가의 관점으로 이하의 2항목을 정했다.

·개인에 대해서 ...과제의 움직임이 가진 리듬으로 춤추고 있는지 아닌지

·두사람의 관계에 대해서 ... 호흡이 맞는지 아닌지

호흡이 맞는 것이란, 함께 춤추는 사람끼리 두사람의 움직임을 겉모양으로 맞추는 것이 아닌, 두사람의 움직임이 자연스럽게 어우러진 공유의 리듬을 가리킨다.

이러한 관점에서의 평가결과, 실험의 첫부분과 마지막부분에서 이국인과 춤춘 과제 1의 움직임에 대해서 말하자면, 네 페어 모두가 처음에는 각자, 움직임에 강약이 있고 리듬을 맞추고 있지만, 두사람의 움직임을 겉모양으로 맞추려 해서 서로의 리듬이 공유되는 상태의 호흡은 맞지 않았다. 그에 반해 마지막부분에서는 움직임이 매끄러워지고 두사람의 움직임이 내면에서부터 자연스럽게 호흡을 맞추어 춤출 수 있게 되었다.

(2) 과제 4: 둘이서 서로 느끼면서 춤춘다

과제 4의 「둘이서 서로 느끼면서 춤춘다」는 각자의 움직임의 듀엣이므로 당연히 움직임이 다르기 때문에 움직임 자체의 변용을 보는 것은 어렵다.

그래서 필자들은 우선 대상이 되는 8개의 듀엣을 DVD로 반복하여 보면서, 듀엣의 변용을 살펴 보았다.

과제 4: 둘이서 서로 느끼면서 춤춘다

★듀엣의 변용

1 회째

*움직임의 연결이 어색하다.

*주고 받는 타이밍이 매끄럽지 않다

⇒끊고 맺음이 명확하지 않고 장황하다.

2 회째

*주고 받는 타이밍이 매끄럽게 이어진다. (타이밍에 변화)

⇒첫번째보다 짧게 느껴진다.

그 결과, 동국인끼리의 즉흥, 이국인과의 즉흥, 양쪽모두 1 회째는 움직임의 연결이 어색하고, 서로 『주고 받음』 타이밍이 매끄럽지 않아서, 끊고 맺음이 분명치 않고 장황한 경향이 보였다. 이에 반해 2 회째때는 변화가 보였는데, 같은 1 분간의 즉흥이더라도 1 회째보다 짧게 느껴졌다. 그리고 거기에는 『주고 받음』을 볼 수 있었다.

과제 4:둘이서 느끼면서 춤춘다

★평가의 관점

두사람의 움직임이 타이밍이 잘 맞아 떨어지는 능동-수동관계에 있는가, 즉 두사람의 움직임이 자연스럽게 어우러져 하나의 호흡(전체적 흐름)을 이루고 있는가

동국인과

이국인과

1 회째>2 회째 3 페어

1 회째>2 회째 1 페어

1 회째=2 회째 모두○ 1 페어

1 회째<2 회째 2 페어

1 회째=2 회째 모두× 1 페어

동국인과:1 회째>2 회째

외국인과:1 회째<2 회째

두사람의 호흡이 어우러져 하나의 호흡이 창출되는 경향

과제 4 의 「둘이서 서로 느끼면서 춤춘다」는 동국인끼리의 1 회째와 2 회째의 듀엣, 이국인과의 1 회째와 2 회째의 듀엣을 각각 비교하여 1 회째와 2 회째의 듀엣중 어느 쪽이 서로를 느끼면서 춤출 수 있었는지를 평가했다.

평가의 관점은 두사람의 움직임이 타이밍이 잘 맞아 떨어지는 능동-수동관계에 있는지, 즉 각자의 움직임의 연결이 자연스럽게 어우러져 호흡이(전체적 흐름)맞아 떨어지는지에 있다.

그 결과, 4 페어의 동국인끼리의 듀엣에서는, 3 페어가 1 회째의 평가가 높다. 1 페어는 1, 2 회째 모두 호흡을 잘 맞추어, 두 번에 걸친 듀엣의 평가는 모두 높다.

4 페어의 이국인과의 듀엣에서는 2 페어는 2 회째의 평가가, 1 페어는 1 회째의 평가가 높고, 1 페어는 1, 2 회째 모두 평가가 낮다.

이처럼 동국인끼리의 듀엣에서는 1 회째가, 이국인과의 듀엣에서는 2 회째가, 두사람의 움직임이 좋은 타이밍의 능동-수동관계에 있었다. 다시 말해, 두사람 호흡이 잘 어우러져 하나의 호흡이 창출되는 경향을 볼 수 있었다.

4) 체감과 움직임의 평가의 관계

제 3 자가 보는 평가인 움직임의 평가와 피험자의 체감이 어떤 관계인지를 보기 위해서 평가와 피험자의 각 듀엣의 체감기술을 대조했다.

우선, 각 듀엣의 두사람이 한 체감기술로부터, 두사람의 체감의 관계는, ①+의 체감이 일치②양자의 +-의 체감에 엇갈림이 있다 ③부족함을 느끼는 -의 체감이 일치, 라는 3 개의 패턴으로 분류할 수 있었다.

(1) 「과제 1 을 이국인과 춤춘다」에 대해서, 체감기술과 움직임의 평가대조로부터, 하나의 호흡이 이루어 지지 않은 첫시작부분의 춤에서는 두사람의 체감이 -에서 일치, 혹은 엇갈림이 있는 것에 반해, 하나의 호흡으로 춤추는 마지막부분의 춤에서는 무용수 두사람의 체감기술이 +에서 일치하고 있다.

움직임과 체감의 관계(과제 1)

		움직임	기술
J1-K1	처음		≠
	마지막	○	○
J2-K2	처음		○
	마지막	○	○
J3-K3	처음		●
	마지막	○	○
J5-K5	처음		≠
	마지막	○	○

주:움직임의○... 하나의 호흡으로 춤추고 있다

기술의○... 두사람의 체감기술이 +로 일치

●... 두사람의 체감기술이-로일치

≠... 두사람의 기술이 +,-로 엇갈림

(2) 「둘이서 서로 느끼면서 춤춘다」의 3 개의 기술 패턴은 이하와 같다.

①+의 체감이 일치

- 「상대의 움직임을 읽고 모방하거나 시간차이를 두고 변형하여 즐거웠다」
- 「상대를 느낄 수 있었고, 무엇을 말하는 지도 느낄 수 있었다. 서로가 서로를 신뢰하고 있는 것 같은 생각이 들었다」

②양자의 +-의 체감에 엇갈림이 있다

- 「충분히 표현하지 못해서 어딘가 부족함이 남는다」
- 「신선한 이미지가 떠올라서 재미있게 춤출 수 있었다」

③부족함을 느끼는 -의 체감이 일치

- 「상대를 모르기때문에 필요이상으로 움직임을 제시했다. 잘 맞아 떨어지지 않는 부분도 있었다고 생각한다」
- 「얼굴로 컨택하는 것으로 서로를 느끼려고 노력했다. 얇은 판을 사이에 두고 무슨 이야기를 하는지 듣는 느낌이 들었다」

움직임과 체감이 관계

(과제 2.3)

		움직임	기술			움직임	기술
J1-K1	① M2	○	○	J1-K1	① M2		≠
	② M3		●		② M3	◎	○
J2-K2	① M2	○	○	J2-K2	① M2	○	記号
	② M3		≠		② M3		≠
J3-K3	① M2	○	○	J3-K3	① M2		≠
	② M3		≠		② M3		○
J5-K5	① M2	○	○	J5-K5	① M2		○
	② M3	○	?		② M2	◎	○

주:움직임의○는 1 회째와 2 회째의 비교

◎는 두사람의 움직임의 호흡이 어우러져 흐름이 있는 하나의 호흡을 이루고 있다.

이 3 개의 패턴과 움직임 평가의 대조로부터 이하의 항목이 밝혀졌다.

1.+의 체감이 일치되어 있으면, 제 삼자의 시각에서도 「두사람의 움직임이 타이밍이 좋은 능동-수동관계에 있다」라고 인정된다.

2.2 명의 체감에 엇갈림이 있다 (한사람은 +의 체감, 한사람은 -의 체감)경우, 혹은 -의 체감이 일치하고 있는 경우에는 제 삼자의 시각에서도 「두사람의 움직임이 타이밍이 좋은 능동-수동관계에 있다」라고 인정되지 않는다.

체감과 움직임의 관계

체감 · + 체감으로 일치

움직임

·하나의 호흡으로 춤추고 있다.

·두사람의 움직임의 호흡이 어우러져 하나의 호흡으로 창출

다시 말해 체감과 움직임의 관계에 대해서는, 둘이서 기존의 움직임을 춤추거나, 혹은 상대를 느끼면서 즉흥적으로 춤출 때에 두사람의 체감이 +로 일치할 경우, 두사람의 움직임의 리듬은 공유되어 하나의 호흡으로 춤추게 된다. 그리고 두사람이 가진 움직임의 호흡이 어우러져 하나의 호흡(전체적 흐름)이 함께 창출되는 관계가 성립된다고 고찰할 수 있다.

【결어】

결 론

*무용에서 볼 수 있는 동조

[상대방의 호흡을 느낌] [호흡을 맞춤]

[호흡이 맞춤]

[하나의 리듬]

[하나의 호흡을 창출]

간신체성

간주관적세계의 성립

결 론

동국인

*신체적동조현상

*간주관적인 세계가 성립

이국인

반복하여 같이 춤춘다 ⇒ 안심감, 신뢰감, 의사소통 ⇒ 상대방의 호흡을 느낌

*신체적동조

*간주관적인 세계

이번 실험 조사에서 밝혀진 바는 다음과 같다. 이미 알고 있는 동국인과의 춤에서는 처음부터 신체적 동조 현상이 일어나고, 간주관적인 세계가 성립되어 있는 데에 반해, 미지의 이국인과의 춤에서는 처음에는 문화가 달라 말도 통하지 않는 상대에게 망설이고, 상대의 눈치를 살피고, 시종일관 움직임을 맞추는 것에 급급해 하지만, 실험이 진전됨에 따라 상대방의 호흡을 느끼고, 안심감, 신뢰감, 일체감이 생겨나 의사소통을 할 수 있게 된다. 즉 같은 이국인과의 활동을 거듭반복하는 것으로 인해 점차적으로 신체적동조현상이 생기고, 간주관적인 세계가 성립하게 된다.

그리고 피험자는 이국인에게 호흡으로 움직임을 가르치고, 호흡으로 함께 춤을 춤으로써, 논버벌(nonverbal)·커뮤니케이션인 무용의 특질을 재인식하고, 바로 그것이 동국인끼리의 듀엣에도 신선함을 불러일으키고 있다.

불과 단 하루의 무용활동으로 문화가 다른 사람끼리의 거리가 좁혀지고, 호흡을 비롯해 여러 체감을 공유하였으며, 처음시작부분에서 실시했던 동국인과 함께 춤추는 것에 대한 체감과 이국인과 함께 춤추는 것에 대한 체감의 차이는 실험이 진전됨에 따라 점차적으로 없어져 갔다.

바로 여기서 창조적 표현 활동에 의한 이문화간의 상호이해의 하나의 양상을 볼 수 있겠다.

IV. 資料

1. 創造的身体表現の体感と異文化理解(2010年)に関する資料

1) 舞踊運動1 (韓国人作成の『楽しい』)

- ・ビデオでみて覚えた後、①同国人のペアで『楽しい』を3回踊る(位置関係は自由)
J1-J2, J3-J4, J5-J3, K1-K2, K3-K4, K5-K3,
- ②異国人のペアで『楽しい』を3回踊る(位置関係は自由)
J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5

●二人で感じあって踊っての感想

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・上下動が一致するとき、楽しいと感じた。 ・お祭りのような、一緒に動くことによるわくわく感 ・上のような感じに違いはなかったが、同国人の時は(お互いに知り合いなので)自分のタイミングで動けてしまうのに対し、異国人との時は(相手の呼吸がわからないので)隣で踊っている人をより感じようとしながら踊った。 ・同国人とも異国人とも、踊りながら向かい合う瞬間があったが、異国人の方がよく目を合わせた。 	<p>動作自体が明るくて軽快な動作で構成されて、同国人とする時と異国人とする時の感情差を感じることができなかった。共に笑って呼吸を合わせると初めて見た異国人でもぎこちなくなかったし、かえって親近感あるように感じられた。感情が重なると動きもよりよく同調するようだった。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・同国でも異国でも大して違いは感じられなかった。どちらも楽しく踊れた。ただ、異国人の人と踊るときは新鮮で、わくわく感があつた。与えられた振りを繰り返して踊るだけなので合わせるのもそんなに苦労はなかった。 ・異国人の人と踊る時は、K2の方が提案をしてきたので、こちらもそれに応えて少し提案をし、踊る向きを毎回変えてやってみた。全てbody languageだったが、お互いすぐに理解できた。 	<p>同国人どうして踊った時は周囲がすべてみえた。横にいる人も見えてあらゆる物が見えた。長くて大きい絵をひと目で見る感じ、ところが平面的な感じ、異国人と踊った時は位置上見ることができないまま始めたが、自分の感で始めた。背中で暖かい感じ、まるでソロで踊る(一人で踊る)感じがした。同国人どうしてでした時よりも立体感をさらに感じた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングの取り方が、異国人の方が難しく感じた。 ・同国人は、やはり(知っている人ということもあるが)言葉がすぐ通じてしまうし、なんとなく空気を読める。 ・異国人とは探り探りでやっていて、踊るのは難しかったが、空気を感じようと感覚を敏感にした。 ・異国人ペアとは、少し打ち合わせがうまくいかずに、しっかりと踊れなかった。 ・同国人の方が安心感があつた。 ・振りステップが難しかった。 	<p>顔立ちと雰囲気の違いのために異国人とする時は緊張がさらに高まったし、お互いの体と動きを理解するのに時間がかかった。同じ動作をするのにも互いの行き違いを感じたが、同国人とする時はなぜか分からない安らかさと安定感を感じることができた。同国人と呼吸を合わせる時はお互いの表情と目つきで呼吸を合わせるが、異国人とは、その人の表情と目つきが理解できなくて、呼吸を合わせるのに難しかった。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・同国人とは動きがスムーズにできた。音がない分、呼吸が必要だったが、異国人よりも同国人の方が合わせ易かった。言語による打ち合わせが可能だったため、安心できた。 ・異国人との打ち合わせでは、言語は伝わらないが、身振り手振りで相手のやりたいこと 	<p>同国人と踊った時の感情は緊張はしたが、安らかな気持ちだったし、感覚もまた安らかだった。イメージはこれだという考えが思い浮かばなかった。異国人と踊った時は、まずその人をずっと注目することになって、私よりはその人に合わせるために、もっと努力したという感じがします。感</p>

	が理解できた。2回目だったというのかもしれないが、どちらかというとも異国人の方が楽しかった。素直に感情が出せた。	情は思ったより安らかだったし楽しかったです。初めて出会ったことだし異国人だが、踊りで一緒に呼吸するという感じが良かった。感覚はいつかみましたが、イメージはこれだという考えが思い浮かばなかった。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・同国人も異国人も大きな違いは感じなかった。 ・位置を決めるのに多少会話をしたが、踊ること自体においては短く簡単な振りであったし、呼吸や空気を感じて踊ったので、国の違いというよりは個人の違いであると思った。 ・しかし緊張感(初対面という緊張感と言葉の通じない緊張感)によって異国人と踊ったときはとても体感を意識した。 	同国人の場合、手足の動きやタイミングなどが、とても見慣れていると思った。息から安定感を感じたし、動作の交流感も近く感じられた。異国人との踊りでは楽しくて活気に満ちた感じで、私のからだに新しいものを受け入れる新鮮さを与えた。共に呼吸を合わせる可能性が感じられたが、慣れる時間が必要であった。同国人と向かい合って踊る時は、お互いの身体が垂直に並んでいるように見えたが、異国人との時は、相手の身体が私の方に向かって弓形に曲がったように感じた。

2) 舞踊運動2 (日本人作成の『怒り』7秒)

2).1. ビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて20秒から30秒の動きにまとめる。ひとりずつビデオに収録。ソロ

●「自分の動きの発展」を踊っての感じ

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・内向的、閉鎖的、 ・自分で自分に怒っている感じ ・自己批判 ・不満がたまっている感じ ・どこにぶついたらいいかわからないいららを抱えている感じ 	ビデオ上で見た動きで受けた感情は怒りであった。直線的で力があつたし、ずっと視線は下をみながら、足を踏みをしていることなどから怒っている人のイメージが見えた。それで発展させる時、何より、直線的な動きと怒りを表現することに集中した。
2	抑圧された怒りのイメージ、冷静なイメージ、おそれ	指先が暖くなる感じ。透明なビニール袋の中にいる感じ。苦しくはないが、若干の落ち着かなさを感じる。
3	力強い雰囲気での踊りだったので、自分でゆっくりの箇所を入れてみた。教えようとして簡素な振りにしてしまったが、その分「モヤモヤした感じ」「沸々する感じ」をイメージできた気がする。 発散と我慢をどちらも入れたような感じ	10秒の動きを見て強く影響を与えた動作を土台に、自ら解釈して動きを構成してみた。繋がっていた糸が切れて地面に落ちた時の衝撃音を身体で表わそうとした。短い動きにインスピレーションを受けて、私の中に内在していた経験と会いながら、まったく違うテキストが出てきたようだ。
4	怒りの感情をよくあらわせた。 最初だったこともあり、いつものように発展させるのが難しかった	イメージとしてはコミュニケーションが浮かんだ。足の音や力強い動きをみて、抑圧されている私自身の内面を表現したいという気持ちになった。ダンスで「コミュニケーションしたい！」気持ちになったと思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオの動きに自分なりの流れやイメージを加えて作った ・強さを強調したが、発散する強さではなく、内にこもった強さがだんだん激しくなっていくのをイメージした 	ビデオ上の動きを覚えるよりは、強いポイントを利用して、流れだけを表現してみたかった。足を床に止める動作は強力なパワーを感じるようになったので、その動作で他の動作らがつながっているようにみられた。強い動きの波長のような感じ、波長の流れを自分なりに解釈してみた。

2).2. 同国人によるデュエット(「相手の動きの発展」を踊る) J1-J2, J3-J4, K1-K2, K3-K4,

●「相手の動きの発展」を踊って感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・“怒り”というイメージを知っているために、記述についても多少とらわれている気がします ・あまり元の振りをいじっていない ・上から下に降って来て煮えている感じ ・蓄積していく感じ ・抑えようと努力している感じ [自分の振りを教えるとき工夫したこと] <ul style="list-style-type: none"> ・オノマトペ多用(主に動きのタイミング・緩急を伝えるため) 	相手に私の動きを教える時、動き一つ一つが仮想の相手に鬱憤晴らしをしているような感じがした。それで私の動きを上げる時も、踏む動作、叩く動作などで説明をしていると自らも動きに確信ができた。相手の動きを習う時も、怒りという同じ感情を持って動くと、一つなって共に呼吸をしているという感じを受けた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・おびえ、迷い、内にももった感じ ・自分のイメージと似たような感じだったが、自分の方がより静的で相手の方がより動的だった [自分の振りを教えるとき工夫したこと] <ul style="list-style-type: none"> ・擬音語、擬態語を用いて伝えた部分が多かった。一通り踊って教えた後は、段取りだけで、70%くらいしか動いていなかったと思う。 	リズム感が似ていると感じた。私が相手を教えるとき、相手のイメージに合わせ、新しい動きを作り出した。踊る時は、お互い相手を信頼するからか、うまく意志疎通ができない感じがした。しっかり踊っているかどうかわからなく、段々元気がなくなった。ピアノの一つの音が調律できてない感じがした。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・力強い感じと、ゆっくりためる感じが入っていて、私が考えたものと似た箇所があった。「落ち込む」「絶望」「なげやり」みたいなイメージがした ・互いに共通のイメージがあったように感じた ・安心感があった [自分の振りを教えるとき工夫したこと] 動きに言葉をつけて行った。「ピョン、タタタ」のように。「最初は」「次は」「こうやって」・・・のように細かく指示した	初めは相手の動きを模倣しながら、自分と違う動きを吸収させて、お互いの動きに慣れてくると、その中でバリエーションを加える等、進展にスピードがついた。私の動きを発展させる時は相手の特性を考慮して、やわらかい動きを若干固く変えたりした。お互いの動きが完全に慣れた後には、その中で変形をもあたえて発展速度が速い作業だった。コミュニケーションを取る時、呼吸もよく合ったようだ。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・振付が分かりやすく、長すぎず短すぎずで踊りやすかった ・相手の発展した動きの中に、相手の考え、意図を感じ取ることができた ・言葉も通じるかつ普段から一緒に踊っている人なので、とても安心感があった。 [自分の振りを教えるとき工夫したこと] <ul style="list-style-type: none"> ・教える際工夫したこととして、踊りながら口頭で説明を付けくわえた ・自分の動きは間の取り方が難しいと思ったので、言葉で伝えることでうまく合わせられたと思う 	映像で見た感じは強いイメージだったが、一緒に踊ってみると相手の動きはやわらかい感じだった。やわらかくて映像で見た動作を多様に変形を与えたのが良かったし、同じ映像を見ても全く違う捕え方をしていることに気がついた。最後の動作を違うように表現してみたが、相手の背中が見えるとなぜか私を冷遇するという感じ、少し寂しく見える感じもして、私は方向は違う所を見ているが、座って見守るという感じを与えなかった。

2).3. 同国人によるデュエット(二人で感じあいながら踊る) J1-J2, J3-J4, K1-K2, K3-K4,

●二人で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・できた。できたが、舞踊運動2の動きをあまり用いず、発展というよりはただの即興になった。 ・攻撃的、ひきこもり ・内側から壁をたたいて歩く人 ・出会ったものはひとまず否定する人 ・目の前から目をそらす人 ・とても相手の出方を伺うか、無視するか、極端になってしまったと思う 	<p>基本の動きは怒り表出と関連した動きをしたが、対話という主題が入ると、単純なうっぶん晴らしでない、相手方の怒り表出動きに対して、私が返事をしているという感じを受けた。互いに目をあわせたり、動作を受けて発展させたり、お互いに対してずっと注目して動きを観察しているうちに、私が個人的に踊った時より、さらに多様でおもしろい動きらができあがって、本当に対話するように即興に踊られた。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の動きを真似したり、体勢に合わせてこちらも体勢や相手との距離を変えたりした。相手によって動きや空気がゆるやかになったり緊張したりと変化があっっておもしろかった。駆け引きをしている感じ 	<p>調整されていない楽器で新しい音を出す声、初めて聞く音のような感じ、幻想的に呼吸は合わなかったが、音は不協和音ではあるが、全体的には微妙に調和されている感じがした。対話をしているうち、お互いに受け入れている感じ、お互いの動きも知ってお互いの動きを習いながら、相手が何をしたいのか踊りながら読み取れた。からだ全体に広がるエネルギーを感じた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・①で感じた力強さとゆっくりためる感じを意識しながら踊った ・途中、二人で直接触れ合える動きになればと思ったところで、相手から触ってくれたので、意思が通じた気がした。 ・動きの質は意識したが、感情はあまりなかった(相手を意識する方に重点をおいてしまった) ・終わりの方は少し迷ってしまっと思うように動けなかった 	<p>互いに持っている二つのパターンで、自由に変形させながら予想できない動きと瞬間を作る時、ぴりっとするというのを感じたし、直接的に眺めないけれど、感じて相手の動きを読んで、模倣したり時間差を置いて変形する時楽しかった。平行理論のように相手が私の複製人間のような気がした。即興だが私が望む場面を作る時、良かった。お互いの感情状態よりは踊りながら解決していることに気がついた。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いが発展させた動きにとらわれず、お互いの感情を受け合っって動きにすることができた ・相手の動きの予想ができ、それに即座に反応して動くことができた ・イメージしたことは、お互いのぶつかり合い、人間同士のすれちがいなどによる激しい感情だった 	<p>既にお互いの動きを知っていて習ったので、互いに感じなくても他の人が見たとすれば、互いに感じるように見えている気がする。前で話したように、お互いの動作を習ったので、相手方を感じられたし、何をいうのかも感じることもできたようだ。一緒に踊る時、相手を意識しようと努力したし、そうしたら相手も私をずっと意識していることに気がついた。そして、お互いがお互いを信じあっているような気がした。</p>

2).4. 異国人によるデュエット(「相手の動きの発展」を踊る) J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5

●「相手の動きの発展」を踊って感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
--	-----	-----

1	<ul style="list-style-type: none"> ・力強さ、鋭さ ・反力、螺旋、加速度、原動力 ・増幅されていく感じ、変化していく感じ <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オノマトペとボディランゲージとアイコンタクト多用 ・声のかんじと、立ち位置を身振り以示すことに気を付けたが、あとは特に同国人と変わらない 	<p>動き的に互いに違うと感じた点はない。動作を教える時コミュニケーションが大変でリズムで互いに教えてくれた。お互いの呼吸とリズムに互いに動作を教え合った。国籍が違ってコミュニケーションが取れなくても、単純な動きに呼吸とリズムだけでも合わせていくことができるのを分かった。一つ惜しい点は、感情を土台にした動きであったのに、腹いせという動きが出てこなくて、単純動作で終わったようで惜しかった。</p>
2	<p>上への志向が多く、わりと穏やかな感じ。動きに細かいアクセントがあってユニーク。すっきり、さわやかな感じ</p> <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <p>呼吸や擬音語を使って教えた。動作の回数なども指示しながら slowly や fast など、速さの言葉も用いた。何回も繰返し踊って伝えた。</p>	<p>異国の動きをまねた時は相手の感じをまねようとした。私が異国人に動きを教えた時、もっと明確に動こうとした。最大限すっきりと、なかったカウントを入れて教えてあげた。一緒に動いた時、私は相手の陰になった感じ、また相手は私の陰になったイメージがした。</p>
3	<p>私が作ったもののような力強さのようなものがあまりなく、流れるような動きで、感情はあまりないように思った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同国人と共通であったのは、「ダンダン」という足を踏み鳴らすところで、ここは印象に残る部分なのだろうと思った ・動き自体は覚えやすく、踊りやすかった ・カウントや擬音・擬態語を使って教えてくれた。 ・全体的に流れるような動きだったので、今思うと寂しい感じだった気がする。 <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <p>ワン、トゥー、スリーとカウントをつけて動きをおって教えた。細かい説明はせずに、何回も流れでやった</p>	<p>言語疎通が円滑でなくて、お互いの動きを覚えるのに時間が掛かりましたが、体をいっぱい使って動きの順序を覚えたり、呼吸を合わせたりするうちに、お互いの動きを本能的に受け入れるようになった。だが、それ以上発展はさせられなかったようだが、使う呼吸、動きが違うものもあるだろうが、私とは違った文化であった人という偏見が、根本的に内在したためか、少しは断絶した感じを受けた。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・元の動きにとらわれることなく発展させることができていると感じた ・個人的であるが、相手(K4)の振付がとても好きだった <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫したことは、slow, fast, long, short など程度を表す簡単な言葉だけを使い、あとは身振り手振りで伝えた。 ・相手が工夫してくれたこととして、カウントを取ってくれた。 ・言葉がない分、身体で表現し、隅々まで見て感じて踊らなければならないので、同国人よりも速く覚えられた 	<p>動きで感じた時、相手の方もビデオを見てきて私と同じ感じを受けているという気がした。声があたる強い印象のためなのか動きもまた強さが表現された。そして互いに教えあう時、簡単な単語だけでもお互いが理解するということが印象的だった。</p>
5	<p>相手の振りを覚える。同じビデオを見ていながら、全くちがう動きに発展していたことにとっても驚かされた。どこが印象に残るか、どこをポイントに発展させるかの違いがあるのだろうと推測した</p> <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p>	<p>私の動きを異国人に教える時は、同じ目線と音の響き、重要ポイントとなる手の位置を主に教えた。本来舞踊経験者なので基本的な動作はすぐに覚えてくれた少しずつ違った目線の方向を教えるだけでした。私が異国人の動きを習う時は、床をたたいたり、呼吸など、大きくて力強い感じを受けた。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・主にカウントとリズムのみを声に出し、目で見ること、動きを見せることを中心に教えあった。 ・重要なところや間違っているところは言葉(英語)で指摘した部分もあったが、印象としてお互いを「見」合っていたと感じた 	直線的であり、上下に伸びる感じを受ける。
--	----------------------

2).5. 異国人によるデュエット(二人で感じあいながら踊る) J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5

●二人で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・できたと思う。 ・(後ろから前へ直線で進むということは決めておいた) ・クレッシェンド ・分散→集中 ・2歩下がって(助走)3歩進む ・お互いが気付くきっかけになっている 	全く違う人と会って初めて話し合うのは、いつも新しく新鮮なように、動きで出会った時、互いに約束と話はしなくても、各自の動きに目を開いて反応する過程で感じる新鮮な感情は、同国人でも異国人でも区分がないようだ。お互いに反応する過程で、初めてだと配慮しすぎ、かえって、消極的な動きになったのが少し惜しかった。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・最初探り探りだったが、徐々に相手のペースやテンポをつかんで踊りを展開することができた ・同国の時よりはスピーディーで、間の取り方が違っていた気がする ・相手のことをよく知らないので無駄にたたみかけて動いてしまった。うまくかみあっていない部分もあったと思う ・互いに言いたいことを言っていて、まとまるような、まとまらないようなという感じ 	同国人の間では、体全体、表面的にエネルギーが感じられたとすれば、異国人とは顔で多くのコンタクトをしたと思う。それでさらにお互いを感じようと努めたし、視線から離れないように気を使った。薄い板を挟んで、板の向こう側の話をこっそり聴こうと板に耳をくっ付け聴いているような感じがした。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・いい距離感でできた気がする ・同国人のときは相手と関わろうとしすぎていた気がするが、今回は相手に合わせつつも、自分で引っ張るところもあって、駆け引きできていたように感じた。互いが相手を探ろうと押したりひいたりしていた感じ。 ・二人で踊るときは、感情よりも相手を感じることに集中してしまう(特に異国の人は)。 ・踊っているときはなぜか海の中にいるような気分がした 	お互い感じることはできたが、充分ではなかったと思う。だが、意外に互いに呼吸を合わせようとしたし、異国人でも大きい困難はなかった。かえって、互いにまねるよりは、体を使った会話を通じてもっと親しくなる感じを受けた。また、私とは違う異国人はどのように動くかを考えながら同時に動くから、完全に集中することはできなかったようだ。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影前に1分間練習する間は、どこまで打ち合わせをするべきかわからず、さらに言語も曖昧だったので余計不安になってしまったが、いざ即興を始めると、お互い、ただ身体で会話することに夢中になり不安も吹き飛んだ。 ・異国人でも同国人でも身体は同じだと感じた ・1分間がとても短かった。 ・撮影前の練習は不要だと思った。 	始める前にお互いのエネルギーを感じようと話を交わした。ゆっくり動き始めたし、お互いを見て小さい動きにも反応することになったし、そうしたら共に呼吸が合う感じがした。私がこのように反応すればこのひとも反応をしようかと思って動いた部分がよく成し遂げられたようで共に即興する時間が楽しかった。踊る時だけは言語から自由になると一層気楽になる気持ちだった。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度イメージを固めてしまっていた 	始める前に、動きが交差するタイミングや窓から

<p>め身体をどう動かすか考えてしまったりわからなくなったりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の動きを予想できないので、何も決めないほうが相手の動きのみに集中できて、いい即興ができたのかもしれないと思った 	<p>出てくるタイミングを打ち合わせしたが、実際やってみると相手と視線を合わせることができなかった。お互いを認識しようと、努力したけど、短い時間だったので、もの足りなさを感じた。とても興味深かったが、相手から習った動きを忘れてたりして、私自身の動きだけになった気がして残念だった。</p>
---	--

2).6. 同じ国の人と踊ると、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがあったか。

違いがあった (J1・J2・J3) 違いはなかった (J4)

* J5, K5 は同国人を実施しなかったので比較は無し。

J1: 異国人の方がより相手に引き出された気がする。

J2: 異国とのデュエットの方がなんとなく緊張していた

J3: もととの距離感が違うためか、踊っているときの距離感に違いがあるように思う。

同国人とのときはよくばってあれこれ考えてしまっていたが、異国人のときは冷静にできた。

3) 舞踊運動3 (韓国人作成の『怒り』7秒)

3).1. ビデオでみながら、各被験者は何回か繰り返して踊り、その動きを発展させて20秒から30秒の動きにまとめる。ひとりずつビデオに収録。ソロ

●「自分の動きの発展」を踊っての感じ

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> 放射状、外志向 自分の周りを的が囲んでいて、一つ一つに異議申し立てをしている感じ 	<p>ビデオを見て受けた感情は苦しさだった。動きを見ると頭を抱えて揺さぶったり、胸を叩いたり、首を横に振ったりという姿を見て苦しさという単語が浮び上がった。それで今回発展させる時には、感情が中心ではなく動きの苦しさを中心に作ってみた。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ストレス発散 ・酔っぱらい ・くらくら ふらふら・落ち着きがない感じ 	<p>動作から感じるイメージのため、踊る時も若干感情(怒り、憂鬱)がこもる。小さい穴に入って、光に当たりたくない人の感じを受けた。隠れたいという感じを受けた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 「悔しい」という感じで作った 流れる動きというよりも、単発の動きをつなげたものようになってしまった。 発散はせずに、うちにこもった感情を表現した感じ 	<p>外部からの圧迫に耐えていたが、耐え切れず、ついには倒れてしまうようなイメージの動きを構成した。そういう過程を動かすことで表現したし、単純な動作に肉付けして、さらに強くメッセージを伝達しようとした</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテイストがよくあらわれているなど自分自身で感じた イメージとしては「自暴自棄」 舞踊運動2よりは、もとの動きにとらわれずに発展させることができた 	<p>今回のビデオ上では胸を手で叩いたり、顔を背けたりとする動作のために感情的なイメージが浮び上がったが、感情よりは特定の動きを繰り返して発展させてみた。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見て全体的に強く激しい印象があった。 落下の部分が印象的だったので自分で発展させたときにはこの2点を意識した。 じたばたしているところからの諦めといっ 	<p>ビデオ上の動きがだいぶ感情的に見えた。一つの動作ごとにテキストをイメージし、そのテキストをさらに自分のものにしてみた。</p>

たイメージで踊り、空気の流れる速度の差をはっきりつけた。	
------------------------------	--

3).2. 異国人によるデュエット(「相手の動きの発展」を踊る) J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5

●「相手の動きの発展」を踊って感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・奥→表面へ、ふつふつ→外在化 ・もがいている感じ(井の中の蛙みたいな) ・上に(頭上に)世界が広がっている感じ ・直射日光が強くて、地面も熱くて、為す術がない感じ <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声(オノマトペ)の高低と出し方で動き方・ニュアンスを伝えようとした。 ・反復運動は数えながら ・踊るときも呼吸と背中に気を付けた。 	<p>初めてとは違って動く時、互いに呼吸が合っていることを感じる事ができた。感情の伝達が互いにまともに表現をしているのか、時間が経つほど心配になった。ただ、からだだけでお互いに動きを伝達して、正確にタイミングを合わせて踊ることが珍しかったりもする。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりと漂っている感じ。 ・夢の中において、たまにパッと目覚める感じ。 ・お互いのテンポが違ったのか、私が振りを抜かしてしまったのか、完全に合わせて踊れなかった。 <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・擬音語も少し用いながら、繰り返し踊って伝えた。 ・ 	<p>一人で動いた時には憂鬱な感情でしたが、私の動きを相手に教えながら、本来持っていた感情らがなくなった。自分の動きをしたときは、相手のことを気遣うことでいっぱい、もとのイメージはなくなり、平面的に動いた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・私の方ほううちにこもるような感じの動きのつもりで作っていたが、相手のは広がるように感じた。 ・動きの質は違うけれど、感情としては私と似たような部分(「悔しさ」と、逆に前向きな感じや「再生」みたいな感じがした。 <p>[自分の振りを教えるとき工夫したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのカウント ・擬音・擬態語 ・一流れで何度も 	<p>呼吸を一度合わせてみるとますます気が合う気がした。コミュニケーションだけさらに円滑ならば、さらに呼吸を合わせることができた。何回か繰り返すことによって、相手の動きスタイルを知っていくようになった。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・異国人とペアになる相手はほぼ決まっているので、お互い少しずつ慣れていくのがわかった。 ・相手は「猿みたいに」や「おじいさんのように」と動きの具体例を出してくれて、非常に分かりやすかった。 ・自分は、動きの質的に具体例を出すのが難しかった。 ・伝えるのが少し難しかった。 	<p>時間が経つにつれ、お互い相手を信じ、頼ることもできたと思う。</p> <p>自分が創った動きなのにミスをするときもあったが、その時は相手が声を出してくれた。時間が過ぎるほどお互いを少しずつ信じて行って、呼吸が合っていく感じがした。そしてその人が好きな動作を少しずつ知っていくようになった。</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしは動きの質感や強弱、空間の使い方などをきっかけに発展させたが、相手は「圧縮されていく」というイメージを持って振りをつくっていた。 【自分の振りを教えるとき工夫したこと】 ・相手はそのイメージについて英語や擬音で説明してくれた。 ・自分もときどき英語で、主に擬音やリズムを用いて説明した。 	<p>このような動きを進行しながら、互いに感じるものが合っていく感じだった。パートナーの特徴も見えるし、感情の伝達までは分からないが、速度（スピード）を利用すれば外観的に雰囲気調整できた。</p>
---	--	--

3).3. 異国人によるデュエット(二人で感じあいながら踊る) J1-K1, J2-K2, J3-K3, J4-K4, J5-K5

●二人で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・できたと思う・(予め、立って動く人/床で動く人、というのは決めておいた) ・そろそろ、相手の感じがつかめてきた、でもどう来るかはまだ未知数 ・しのぎを削る感じ、抜いたり抜かれたり、競い合い ・一つの物事の表裏関係、補完関係 ・流れていく、進んでいく、展開していく感じ ・考える暇もなく、全身で相手に集中、あまり冷静でない ・気付いたら動いている、やりながら「あ、こう動いてしまったらしい」 	<p>即興をしながら、お互いの動きになじむように、いつのまにか似た動作をしている時が最も興味深かった。お互いに意識しないで踊ってたら、さらに多様な姿が出てくるきがした。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりと会話している感じ。 ・お互いのテンポを崩さず、たまに相手の動きに反応しながら踊ることができたと思う。 ・ここちよい瞬間が1~2回あって、何だか嬉しくなった。 	<p>お互いの温度と重さを感じる事ができた。時間が過ぎるほど穏やかになる感じを受けた。お互いの思いやりで、あれこれ試みを沢山することができなかつたし、まだお互いの身体が近いのがこちなくて踊る時もそのような影響を受けられた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・動く・止まるという法則でできた。 ・相手の気配をすごく感じながら踊っていた。 ・慣れてきて、コミュニケーションが少しずつとれるようになってきたので、動きにも還元されている気がする。 	<p>外部から来るエネルギーを受けて反応する動作らが興味深かった。お互いの動きを理解して行くようになった。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・最初と最後だけは振付を決めておいて、中間は即興した。 ・相手と意気投合できて、お互いのやりたいことができたと思う。 ・息も合い、純粋に楽しめた。 	<p>即興という自体がお互いを信じて動くというために、お互いの動きをまねる時より確実に心が開かれる気がした。すればするほどさらにおもしろくなり、お互いを知っていくようだし、お互いの動きを尊重する気持ちだった。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・目を合わせて踊る、という条件を1つ決めて即興した。相手の動きや表情などを読み取って動いていたような気がする。 ・舞踊運動3の動きや自分たちの発展させた動きとのつながりがなかったような気もしたが、動きという要素ではなく、イメージの部分から即興に舞踊運動3を展開させていくことができた。 	<p>目を合わせてお互いの視線を逃さないようにという提案だけをして試みた即興だった。大きい動きはしなかったが、お互いの緊張状態の交流は確実だった。けれども、(はっきりした緊張状態が)観客(即興を見ている人)に見えたかもしれない。目を合わせた状態だったので、大きい動きをすることはできなかった。</p>

3).4. 同国人によるデュエット(「相手の動きの発展」を踊る)

J1- J2, J3- J4, J3- J5, K1-K2, K3-K4, K4?-K5

●「相手の動きの発展」を踊って感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・迷走、失感、孤独 ・控えめ(動きというか表現というかが) ・見えない圧力に動かされている感じ 	<p>相手に私の動きを与える時、異国人よりは早く与えることができる安らかさを感じることができた。私もまた動きを受ける時とても相手の動きをよく知っているから受け入れやすかった</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・踊りやすかった。・軽やかな感じ、ふわふわした感じ。・試行錯誤している感じ。 [自分の振りを教えるとき工夫したこと] ・前回の同国デュエットと同じく、擬音語、擬態語などの言葉を多用した。 ・言葉と簡単な身振りだけで伝わってしまう。 	<p>同じ呼吸に動いているということが感じられた。異国人と一緒にした時より息をしながら一緒に動いているという感じを受けた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり同国人の方が動きの質が似ている気がした(異国人は違っていたように感じた)。 ・「悔しい」という感じがした。(J4と) ・互いの発展させた動きが似ていた。 ・イメージがおそらく近かった(「怒り」「悔しさ」「力強さ」)。 ・踊りやすかった。(J5と) [自分の振りを教えるとき工夫したこと] ・擬音・擬態語 ・日本語での詳しい説明 	<p>やはり同じ言語コミュニケーションになると進行速度が速くて相手の呼吸を読むのに気楽だった。これもまた同国人でも何回か合わせるうちに呼吸がよく合うようになった。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の説明がわかりやすかった。 ・順番が異国→異国→同国と異国が続いていたため、同国人への振りうつしの簡単さを感じた。 	<p>言葉で意思疎通を図れるので異国人とする時の緊張感がなくなって、気が楽になった。〈負担感が減る〉しかし、緊張感があつた時がもう少し良かったような気がした。5番との動き発展には互いに似た部分が多くてまねし易かったような気がした。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない部分や見えない部分も、異国人との時にはもう1度やってもらって目で見ていたが、同国人との時は言葉で質問し、解決していた。 ・スムーズで正確ではあつたが、全体の雰囲気や動き方は異国人の方が身についた気もする。 [自分の振りを教えるとき工夫したこと] ・異国人とのデュエットのときよりも言葉によるコミュニケーションが多く、動きつつも主に言葉での教えあいとなった。 	<p>他の同国人より彼女の動きが変わったものを持っていて、簡単に覚えられたし、呼吸法も似ていて認識がはやかった。</p>

3).5 同国人によるデュエット(二人で感じあいながら踊る)

J1- J2, J3- J4, J3- J5, K1-K2, K3-K4, K4-K5

●二人で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

	日本人	韓国人
1	<ul style="list-style-type: none"> ・できた (あらかじめ始めの立ち位置のみ決めておいた) ・物足りなさを凝縮させた感じ ・空白部分を引き伸ばして再生している感じ 	<p>即興をする時、もう少し変わったことに挑戦しようとして見たら、初めてビデオを受けて感じた感情をよく表現できなくて物足りなさが残る。異国人とする時がかえってお互いをさらに意識してい</p>

	<ul style="list-style-type: none"> これは怒っていいのか、悲しんでいいのかわからない感じ こちらから仕掛けよう、今はうかがってみよう、という余裕・距離感がある 	た。
2	<ul style="list-style-type: none"> タイミングや息が合いやすかった。 互いに説得している感じ。 一回目のときより緊張感が強かった。 相手のことをかなり探って、自分がアクションを起こしてどう相手が出るか慎重になっていた気がする。 ・おもしろかった。 	お互いをよく知ることになると、動きながら軽いいたずらをして受け入れることができ、もう少し幅広い動きが作られながら、私たちが願わなかった新鮮なイメージが浮かんでおもしろく踊った。
3	<ul style="list-style-type: none"> やりやすかった。・最初だけ決めていたが、動きが途中でもかみ合っていた(J4と)。 教えるときも日本語で細かいところまで伝えられているためか、共通した動きやイメージが持っているのかなと感じた(J4と) 互いの発展させた動きが似ていたために、動きも動きやすく、引き出され、終わりもちょうどよかった(J5と)。 	同じ同国人でありながら、呼吸も何度も合わせて見たら、互いにその中で楽しさを感じていた。空間・時間のダイナミックを作りながら内容が充実している構成を作っていた。
4	<ul style="list-style-type: none"> こちら最初と最後だけ決めておいて、中間を即興にした。 緊張せずに踊れたが、振り返ってみると自分で好き勝手に動き、相手をしっかり感じることができなかったような気がした。 	不思議にも初めには同国人と共に即興をする時が気楽だったが、異国人と少し共にした感じのためなのか、最初とは感じが違った。同国人と異国人の差よりどれくらい一緒にしたという時間に従って変わった。そして2回目に5番と一緒に即興をしたが、既存の授業時間に共にした時間のために、特別に話をしなくても呼吸がよく合っている気がした。私が願うものを相手がよく答えてくれた。
5	<ul style="list-style-type: none"> 安心感や互いを少しでも知っているという面からも呼吸が合わせ易かったと感じた。 呼吸を感じつつも、客観視、呼吸や相手のみにとらわれず、自分の動きにも集中することができた。 	目を合わせながら行為を伝達するという感じを受けたし、確実な行為を見せて影響を受けた。確かに動きがやさしかったり彼女の行為を見やすかった。

3).6. 同じ国の人と踊ると、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがあったか。

違いがあった (J1・J3・J4・J5・K2)

違いはなかった (J2・K1, K3, K4, K5)

- 互いに気が合う部分が多くてはつきりと感じ取ると踊りの質感はさらに強くなることを感じた。お互いの疎通がうまくいくほど体感の差が上ると感じた (K2)
- 同国人とでは意識的にコントロールして動いている気がするが、異国人とではその瞬間瞬間により反応した気がする (J1)
- 同国人との場合はやや内向き志向、異国人との場合はやや外向き志向を感じた (J1)
- 踊ったときの全体的な感覚はあまり違わなかった。(J2)
- どちらともここちよい緊張感だった。(J2)
- 最初ほど大きな違いは感じなくなってきた。(J3)
- 同じ文化の人のほうが同じ空気をより感じる気がする。(J3)
- 言葉が通じなくて身体しか頼りがなくなってしまうとき、素直に感情を受け合える気がした。(J4)
- 大きな差はやはり言語であると思うが、言葉が通じるか通じないかというより、言葉でコミュニケーションするかしないかの違いだと今回の実験で思った。(J5)
- 言葉で踊りを伝えてしまうと、身体を見たり動かしたりするよりも全体の雰囲気は伝わりにくいように感じた。(動きの回数や位置、やり方などは正確に伝わるだろうが。)(J5)
- 相手の雰囲気や踊りを知っているかも息を合わせるということに関して大きく影響しているようにも思えた。(J5)

4) 実験全体の感想

- A. 舞踊運動1を最初と最後に踊りました。最初と最後では体感は変わりましたか。変わったらどのように変わったか書いてください。
- B. 実験全体の感想を自由に書いてください。

	日本人	韓国人
1	<p>A.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめにペアでやったときよりも楽しんで踊ることができた ・信頼関係のようなものができていたと感じた ・敢えて目を合わせなくても安心感があつた <p>B.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人組はどちらかというとうかがうタイプ、動きは部分的・アクセント少なめ・一方向志向・二次元的？動きが多いと感じた。 ・韓国人組はどちらかという仕掛けるタイプ、動きは全身運動・でもアクセント多・ななめ、ねじれなど多方向志向が多いと感じた。 ・異国人ペアのときは、言葉で流暢に説明できないぶん、身体で身振りで示すしかない。 ・異国人ペアのときは、立ち位置を提案するときなど、両手を使って二人の位置関係を示せるが、身体の向きなどは実際相手にもやってみてもらおうしかない。 ・異国人ペアのときは、踊る前から「この人は何を言おうとしているんだろう？」と相手に寄っていく姿勢、「細かいことは言えないけど、(自分が出す)雰囲気であわせてもらいたい」と自分から何か出そうとする姿勢ができる→踊っているときも？ ・(これはあとから書きました) 同国人ペアのときは相手はいつものホームメンバーであつて、お互いに多少の粗相も許される仲であり、またこうして一緒に踊る機会もあるかもしれないという気がして、自分たちの場所と時間だった。異国人ペアのときは、関係を築き始めたばかりでもあり、一期一会かもしれない、どちらかという捨て身の気分で、まだ「自分たち」と思えるか思えないかの1対1が新しいなにかになりそうな瞬間だったと思う。 	<p>初めは動きをする時、いつ始めるのかどのようにするのかお互い顔色をうかがうことに忙しかったが、最後の動きを合わせる時にはJ1の呼吸をするだけでいつ動けばいいかわかるようになった。全く違う文化と言葉も通じない人達と一緒に合わせられるか心配が先だったのに、時間がたつによって動きをすぐ把握して互いに呼吸を合わせることができた。あまりにも新鮮でおもしろい時間だった。そして最も珍しかったことは、動き一つで日本でも韓国でも同じ感情を感じて伝達するのをわかつた。ボディランゲージという話がなぜ出てきたのか全身で感じることもできた。</p>
2	<p>A.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はとてもエネルギッシュに、だんだんゆっくり、小さくなって踊ってみた。 ・元気だったのが疲れていくようなイメージ。 ・実験のはじめにやったときよりも一体感があつて、意思疎通しながら踊れたと思う。 <p>B.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異国の人に自分の振りを伝えたり、相手の振りを教わったりして一緒に踊るといことはめつたになく、とてもいい経験になつた。思った 	<p>異人と一緒にした時には、一番初めからコミュニケーションが取れなくてももう少し細密に詳しく学び教えてくれた。ところがからだの質感はたくさん省略された。同人と一緒にした時は、いつも見てよく分る人とするようになったのか細密に指してくれなく流れを習つた。それでも異人と一緒にした時よりは、からだの質感をはっきりと表現することができたし、その流れで即興する時も流れていもう少しやさしい感じを受けた。初めに</p>

	<p>よりはスムーズに伝わったが、同国同士でやる時よりはすごく慎重に丁寧になっていたと思うし、改めて初心にかえれた気がする。同国同士だと、言葉やニュアンスだけで伝わってしまう(といっても、どこまで伝わっているかは不明だが)というのが比較することでよりわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即興もスリリングで楽しく、言葉はほとんど通じなくても体を通じて互いの気持ちがリンクする瞬間があった。回数を重ねることでだんだん慣れてきて、相手のことも少しずつわかってきたのもう少し続ければもっと面白いダンスができたと思う。時間があっという間だった。 ・また、同国の即興も最初にやったのと最後にやったのでは多少変化があった気がする。異国、同国と交互にやっていくうちに私も相手の J1 も自分の中で何かが変わったのか、最後の同国同士の即興では、感覚がより敏感になって、最初とは違う緊張感の即興ができたと思う。 	<p>はぎこちなくて見慣れなくてお互いの呼吸を分からなくてその人に完全に没頭できなかった。1,2時間程度は半信半疑である感じで同じ空間にあった。時間が過ぎてからは、お互いの呼吸を知って把握し楽しく作業することができた。</p>
3	<p>A.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい」というイメージ。 ・振りのイメージというよりは、一緒に踊っていて楽しいと感じた。 ・最初は言葉も通じず、合わせるのが精一杯で、それでも合わず、感情どころではない気持ちだったが、最後のデュエットは、言葉はそれほど通じないけれど、互いを意識して踊ることができた。 <p>B.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異国人とのデュエットは、始めはかなり戸惑ってしまい、同国人と行う方にかかなりの安心感があった。しかし、回数を重ねると、相手の雰囲気や特性などが少しずつ見えてきて、同国人のときは違うほどよい距離感で踊れるようになった。 ・踊ってみて感じたのは、同国人が作った動きの質は似ており、異国人の動きは意外なものが多かった気がする。 ・今回、言葉のコミュニケーションがあまりできない状況を体験して、舞踊という身体を使うコミュニケーションの重要性を身をもって感じた。頭ではわかっているけど、いつも言葉が通じってしまう環境にいたため、ついつい言葉に頼ってしまっていた気がする。もちろん言葉のコミュニケーションも重要だが、こんな短時間で、相手との関係をつくっていくのに大きく影響していたのは、明らかに表情や動き、雰囲気というようなその人となりというか、その人自身からにじみ出る何かだった。 ・普段会話をしたりして、間が持たないとい 	<p>長年共にした友人とするように緊張なく自然に呼吸を合わせた。確かに初めてと違うように互いに順序も知って即興しながら楽しむように実らせたエネルギーと動作らをその中で自由に構成した。全体的に時間が過ぎて何度も呼吸を合わせるほど互いに近づくということを感じて他の国の人でも、文化と環境は違うがからだを通じて何か共有したようで良い経験だった。</p>

	<p>うことを体験することがあるが、動きは黙っていても通じる何かがあると感じた。存在し、また相手を感じようとするだけで、お互いの関係は縮まっていくように感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいい経験ができた。 	
4	<p>A.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに行った方と、最後の方の違いがかなり大きかった。 ・初めは、余計なことを考えてしまったり、相手を探ろうとしすぎたりしてウォーミング・アップが終わっても身体はあまり温まらなかった ・最後は、打ち合わせをしたにもかかわらず撮影時にお互い同じミスをしてしまった。それでも、笑いながら踊ることができ、お互いに通じ合うものがあったと身を持って感じた。 <p>B.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計、2種類の舞踊運動を相手を変えて4回行った。舞踊運動2は、異国人よりも同国人の方が安心できたし、即興時間も短く感じられた。 ・舞踊運動3では異国、同国とも同じ相手デュエットを行ったが、慣れてきたせいかわる言葉の通じない異国人とのデュエットの方が、純粋に身体で感情を伝えあうことができるような気がした。 ・自ら発展させた動きを相手に伝える作業は、言葉の助けがある同国人の方がはるかに伝えやすく、これは舞踊運動3においても変化はなかった。 ・しかし即興においては、打ち合わせの有無で変わってくると思うが、踊っている間は、相手の身体から何かを読み取ろうと必死になるし、自分も伝えようと必死になった。その結果、とてもよい動きが出てくる気がした。 	<p>初めに1番動作をした時は動作も不便だったし、互いに呼吸を合わせるのに大変だったが、2、3番動作を発展させて即興をしたからなのか動作の重要性よりはお互いが楽しく焦点を合わせながら動いているうちは楽しかった。</p> <p>初めに同国人と異国人で分けて動作をした時は、言語のためなのか少し違いが生じるようだったが、時間が過ぎながらかえって同国人より異国人とする時がさらに気楽で考えと違った動きにおもしろかった。お互いがお互いの動作を尊重してお互いの動きを理解する時、心がたくさん開かれた。特に即興をする時そのような気持ちをたくさん感じた。時間が過ぎながら目を合わせる瞬間が長くなって笑いが自然に出てくるようになった。本当に良い経験をした。</p>
5	<p>A.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張感はほとんどなく、楽しんで踊ることができた。 ・相手の踊りの特質や雰囲気や潜在的に理解していたようにも考えられると思う。 ・ただ最後のほうがやはり言葉(声)でのコミュニケーションが増えたので感じながらというより頭で踊ってしまった部分も多かった。 <p>B.</p> <p>同国/異国の大きな違いはやはり言葉であると思うが、動きを教えあったり、感じあったりする中では言葉というよりもむしろ表情や雰囲気を感じたり、音声としてもリズムや擬音語でコミュニケーションすることが多かったため、同国人/異国人に激しい差を感じるわけではなかった。ただ、同国人の組のときは、困ったら言葉が使えてしまうため、身体で感じようとする閾値が低くなっているような感じがした。困ったときはすぐ</p>	<p>舞踊運動1のW-upを活用して、共にまたデュエットを試みたが外国人という感じより安定的にパートナーとの呼吸を合わせることができたし、彼女とのスキンシップがより滑らかに感じられた。また、自然に視線を合わせるようになり、言葉より身体でお互いを信頼することができてよかった。全体的に活気に満ちるようになったし、デュエットでの自信がつくようになった。総実験を終えながら感じられたことは呼吸の感じが少し違うが、全体的にお互いが現代舞踊と同じ動きだけを取り入れて大きい差はないように見えた。脊椎の動きと呼吸が違うという感じを受けたが、異国人の場合、猫背が目立ち、呼吸も浅い感じがした。素早い動きに慣れているように見えた。たくさん動いてみるほど外国人と内国人の差はないように見えた。その理由はお互いの動きに熱が発生して距離がなくなった</p>

<p>に言葉で対応してしまう。しかし、私は同国人／異国人の差というよりはむしろ、個々の差であると感じた。同国人同士でも言葉をまったく使わずに身体的にコミュニケーションすることもあるし、異国人同士で言葉はもちろん身体的なコミュニケーションもとれな場合もある。また、相手をどれほど知っているかによっても相違が生じると思われる。「互いを感じる」ということと「動きを思考する」ということのバランスが重要だと思った。互いを感じることに集中しすぎても、2人の見え方や自分の動きを頭で思考することに集中しすぎても即興やコミュニケーションはうまくゆかないような気がした。</p>	<p>ようだ。</p>
---	-------------

2. 創造的身体表現の体感と異文化理解Ⅱ (2011年) に関する資料

<実験課題>

○10月29日

課題1. 実験材料（日本人作成の『楽しい』）の動きを覚えて二人で踊る

課題2. ピアノ曲演奏での二人での即興

課題3. テーマ「分かち合う喜び」での二人での即興

課題4. 実験材料（日本人作成の『楽しい』）の動きを覚えて二人で踊る

★ 実験全体の感想

○10月30日

課題. ピアノ曲での即興から作品へ

○10月31日

課題. グループでの即興

○10月28日

課題. お茶の水女子大学舞踊教育学コースの卒業公演に出演しての感想

<実験結果>

★10月29日実験分

課題1

実験は、まず、一人で踊ります。その後、同じ国の人と二人で踊ることと、他の国の人と二人で踊ることをします。そして、同じ国の人と踊るのと、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違いがあるかないかを調査するものです。

1). 同じ国の人と踊るのと、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違い

違いがあった J1・ J2

違いはなかった K1・ K2

2). 3). 二人で感じあって踊っての感想 (自由記述)

- ・ 同国・・・動かないかんじ 自分勝手になりそうになる (向きや距離) (J1)
- ・ 異国・・・動いていく (変化していく) かんじ 相手のことが気になる (J1)
- ・ 同国同士だと、何となく視線もあって次にどう位置関係をとるかもわかりました。また、楽しい雰囲気が出たと思います。(J2)
- ・ 他の国の人だと、始める合図から勝手が違い、伺いながらになってしまいました。でも、K2との

方が2人とも初めてなのでその緊張感を共有でき、にこやかに踊れました。K1との踊りは「ついていく」感じでした。そして、両方とも目線があうタイミングがなくて少し寂しかったです。(J2)

*自由記述なし (K1・K2)

- ・「今日はよろしくお祈いします」というごあいさつのつもりで (J1)
- ・3回踊るうちに「踊る」ことに慣れてくるので振りのこと自体はあまり考えない (J1)
- ・同国：安心
- ・異国：踊りながら相手を知る。
- ・相手の動きまたはその方向(動線)、呼吸に集中することについては、同国人又は異国人であることとで感じる体感の差はあまりなかった。最初は多分(体感は)違うだろうと思って、距離を置きながら相手に合わせようとしたが、時間が経つにつれ、考えることより、心とともに身体が動いた。
- ・同国人・異国人という区分より、ダンサーとしてパートナーの動きや身体感覚を感じ取ろうとした。

課題2 ピアノ演奏での即興

1). ピアノ演奏を聴いての曲のイメージ、曲からイメージしたこと

- J1**・眠りに就く前のまどろみ時間 ・手紙を書いている ・水源から湧いてくる水
 - ・透明な水にインクを垂らすとだんだん染まっていく ・片足が舟になってバランスをとりながら川から海へ流れていく人 ・霧雨が降っていて白い、大粒になって草が揺れている、また小雨になって、虹が出る
- J2**・AAB A ・冬、雪 ・雪の結晶をながめながら木のうえでまどろむ小動物 ・吹雪になって、風が吹き込んで来て、それも束の間でまた冬眠に入っていく ・全体的に、「安心」「我が家」なイメージ
- K1**・最初の導入部分は爽やかで、繊細な感じがした ・中間の速く演奏する部分は最初の柔らかい感じと対照的だったが、二回目、三回目と聞けば聞くほど、中間部分もテンポが速くなっただけで、最初のところで感じた柔らかく繊細なイメージを感じる事ができた
- K2**・演奏曲を聴いて野原の花が風で動くようなイメージが浮かんだ ・演奏曲は、最初は緩やかで、中間は高低があり、また緩やかな感じで(A→B→A)構成されている ・野原でゆっくり休みながら風に動かされ踊るお花を見て楽しんでいるところを、他人に休息を妨害され心理的な葛藤を感じたが、再び平和を取り戻したようなストーリーをイメージした

2). 二人で即興で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

●同国人のペア自由記述

【ペアJ1&J2】

- J1**・緊張しました。2年ぶりに一緒に踊るので初対面であるかのようなかんじ。
 - ・相手(J2)に触発されて踊っていたのか音楽によって踊っていたのか
 - ・2人の関係がずっとよくわからなかったが、はじめの主題に戻ったラストあたりで少し掴めた気がする。”改めてお会いした”というかんじで、どう距離をとっていいの か、戸惑った。
 - ・何か降って来るものを受け止めて渡そうとしていた
 - ・相手(J2)が”自分の抑圧された部分”であるかも知れないと思った(踊りながら”影”
- J2**・即興が苦手なので、途中でイメージを見失ってしまいました。それでも「先輩が動いてくれているから動かない」など、いつもインプロしている時のような感覚で動きました。
 - ・目が合わない気が合わなくて緊張しました。初めて踊る人といきなり即興は、自分と相手、私達と客席両方に気をつかうので大変です。
 - ・意外にピアノが変わらなくて、ピアノとの関係もわからなくなっていました。

【ペアK1&K2】

- K 1**・音楽から感じた柔らかく繊細な感じを失わないように音楽に集中した。そして、同国人のパートナーとは空間を共有しようとした。同国人とは最初から同じ方向性を感じたので、全体的に心地よく踊ることができた。
- K 2**・踊る前は、演奏曲からイメージしたものを動きとして表わそうとしたが、実際動き出したら、パートナーとの共感に重点を置いて動いたので、音楽の解釈からというよりは、お互いの動きの呼吸に従って動いたと思う。スタートの時に感じたパートナーとの微妙な感情を、スタートと最後に表わすことができたと思う。お互いをよく知っている同国人同士なので、各自それぞれの意志を即興へスムーズにつなげたと思う。

3). 4). 二人で即興で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

●異国人のペア自由記述

【ペア J 1 & K 1】

- J 1**・少し離れてみた（気になるので） ・どきどきした ・シンクロすると嬉しい
 - ・気になるので目で追ってしまう（気になるとぶつかっていくのではなく様子を伺うタイプであることを自覚した）
 - ・会えないけれど会いたかった人に思いかけず会えてしまったという感じがした。
- K 1**・最初、同国人と踊るときは音楽と空間に集中したが、異国人と踊るときは相手に集中した。
 - ・相手の呼吸、動きの感じ、動線、動きの高低など、相手に合わせながらしようと意識した。
 - ・相手の異国人も私の動きに合わせようとする感じがした。何となく同じような感じで流れる気がしたので、一つになっている感じもあった。

【ペア J 2 & K 2】

- J 2**・即興に慣れたのか、相手が合わせてくれたからか、とても自然に踊れました。多分、2人とも人なつっこい性格なのかなと感じました。
 - ・触れ合っている時間が多かったのですが、安心できました。昨日の作品を見ているからか「この人は大丈夫」と思えました。
 - ・終わった後、相手が今の踊りをどう思っているかはわからなかったけれど笑顔になりました。
- K 2**・動きを覚えて異国人と踊るときは、お互いをよくわからなかった。即興ではお互いをよくわからないので、探りながら意志疎通を図った。お互いの探り合いは楽しかった。また、即興をして、共に動きを試みるほど、異国人でも意志疎通はスムーズにできた。

【ペア J 1 & K 2】

- J 1**・少し恥ずかしくなってしまった（やはりコンタクトに苦手意識があるというか敬遠しがちであると自覚） ・だんだん近くなるイメージ ・とても気を遣ってもらった気がする
 - ・3つ目の部分（音楽は全部で4つの部分から成っていると思っている）で、1つ目、2つ目で壊せなかった距離感を変えられた気がする
- K 2**・異国人とペアを組むと、最初のスタートを近づいてするか、離れてするかによって、お互いを知っていく速度が異なる感じがした。
 - ・身体を近づけ、目を合わせることで、意志疎通ができたと思う

【ペア K 1 & J 2】

- J 2**・K 2よりも取っつきにくい感じがしたのですが、身体を任せるとかなり安心で、ひっぱっていてももらえました。
 - ・軸というか、相性が合っていないと辛いのでほぼ初対面の方なのですみませんと思っていました？
 - ・個で踊って面白いのはもっと相手の考えが読めるようになってからで、初めは触れ合っていた方がいいと感じました。
- K 1**・J 1とはお互いの感情、動きに注視したのに対し、J 2とは身体の接触を試みた。相手に合わせるのは若干難しかったと思う。相手の考えは読み取れない感じはあったが、身体は何となく読み取れるような感じがした。

課題3 テーマ『分かち合う喜び』での即興

1). テーマ『分かち合う喜び』からイメージしたこと

J 1 ・何かやり遂げた・一緒に乗り切った

- ・誰かが嬉しいことが嬉しい→相手を知っているからできる
- ・命に関わること・人生に関わること
- ・花が咲いた・氷が張ったとか・日差しが温かいとか→相手を知らなくてもできる？
- ・走り寄っていくかんじ・一緒にとぶかんじ・じんわりわかっているかんじ

J 2 ・出産 ・(クララ) ・2人だけの秘密 ・ローソクの火のような小さなあかり

- ・パッと広がるのではなく、じんわりと自分達だけに伝わる感情

K 1 ・共にする、分かち合うということはときめきと不安(恐れ)が共存していると思う。

- ・はじめての出会いのときめきと、はじめてぶつかりあった時の不安が一つになったときの快感、それぞれの言葉の感じは相反するものであるが、分かち合えた時に感じられる喜びだと思う。

K 2 ・‘分かち合う喜び’はお互い話し合うイメージである。

- ・互いの共通の部分を探し、身体で対話し知り合っていく過程の中で共にする喜びを感じると思う。
- ・相手の動きを真似したり、相手の動きをきっかけに動き出したり、コンタクトまたは各自の動きなど、お互いの共感を楽しく分かち合えばそれが喜びではないかと思う。

2). 3). 二人で即興で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

●異国人のペア自由記述

【ペアJ 1 & K 1】

J 1 ・1人で嬉しいことを持て余していたら一緒に喜んでくれる人がいることに気付いて持ち寄ったら2倍+αのよろこび、という流れになったと感じた。

- ・背中合わせからの距離の離れたスタートだったが、背中で感じるものがあった。
- ・背中にくっついた時は少し遅すぎたかなとも思ったが、やっぱりそう来てくれたと思い嬉しかった

K 1 ・自分のイメージでは、‘出会い’についてイメージしながら踊った。出会う前のときめきと緊張感を意識した。出会ってからはお互いの身体を読みながら踊り、その過程で新鮮さを感じることができた。

【ペアJ 2 & K 2】

J 2 ・午前でコンタクトになったので今回は「すり抜けていたものの出会い」のようなイメージで踊ろうとしたのですが、出会うのが早すぎたようです。コンタクトに入ると相手に集中してしまって(というかコンタクトは2人の関係性を見るのが楽しいと思うので)表現の方には行きませんでした。

K 2 ・相手と近づくことで安定を感じると思う。

- ・共に即興をすればするほど、相手に心の落ち着きと信頼を感じる事ができた。
- ・お互いの足りないところを補おうとする感じがした。

【ペアJ 1 & K 2】

J 1 ・コンタクトにならないように、と気にしてしまった

- ・何に喜んでいいのか考えた(くっ付くと、もうそれだけで嬉しいかんじがして生きてる生きてるという喜びを感じたため何の喜びなのか意識しなかったらしい)
- ・どういふかんじでも一緒に喜んでいふつもりであると信じてお互いに動いている感じがして、その点では通じ合っている気がした
- ・一緒に踊っているだけでやっぱり嬉しかったので、テーマとの関係性を考えると微妙。

K 2 ・J 1 とは感性的な部分より、動きを通して通じ合おうとしたと思う。

- ・J 1 とペアを組んだときとJ 2 とペアを組んだ時の感じは異なる。J 2 と即興をするときとは違ってJ 1 と即興するときはお互い緊張すると思う (注) J2 と K2 は実験に初めて参加

【ペアJ 2 & K 1】

- J 2 ・ 初め、「同じ向きを向いて立とう」とだけ決めたら、後はひたすらすれ違うだけでした。
- ・最後に「喜び」を持ってくるために少しずつ伏線のような、ニアミスの瞬間を作りたいかったのですが、意外に難しく、最後の触れ合いに大きい転機を持ってこれたかはわかりません。
 - ・コンタクトをなくしたおかげでテーマに集中できた気がします。
- K 1 ・ 動きの方向と視線から感じられるエネルギーが新鮮だった。
- ・お互いに合わせるのではなく、位置や空間だけで共に交じり合っていく感じがした。

4). 二人で即興で踊りながら感じたこと、イメージしたこと

●同国人のペア自由記述

【ペアJ 1 & J 2】

- J 1 ・ 難しかった. 相手との譲り合いだった ・ 恐らく喜びは分かち合えていなかった気がする
- ・ただ、ピアノに執着していたことが何かしら分かち合っていたことになるかも知れない
 - ・一緒に踊っている感じがしなかった. 一緒にふざけ合っている感じがした
- J 2 ・ 「ピアノの周り」で始めましたが、最後までいたのでしつこすぎたと思います。
- ・イメージは見たまま追いかけてこですが、「どっちが動くか」ためらうのではなくそれを緊迫感に繋げられればよかったと感じました。
 - ・午前のぎこちなさはまだありましたが、イメージがわかりやすかったせいもあり何とか意思疎通できたのではないかと・・・。

【ペアK 1 & K 2】

- K 1 ・ タイミングと動きのエネルギーに関しては、より果敢に挑むことができた。
- ・お互いに対して敏感に反応する感じがよかった。
- K 2 ・ お互い相手をどれほど知っていて、信頼するかによって即興も全然違う。
- ・はじめて一緒に即興したJ 1、J 2とはまた異なる心の落ち着きと交感を感じた。
 - ・果敢な試みができた。

課題4 最初に2人で踊った動きを踊る

1). 同じ国の人と踊るのと、他の国の人と踊るのでは、踊っている時の体感に違い

違いがあった J2

違いはなかった J 1 ・ K1 ・ K2

2). 3). 二人で感じあって踊っての感想 (自由記述)

- J 1 ・ 同じだった、自分が出て行っても相手は相手なりに受けとめてくれるとわかっているので、安心して踊れた。 また、相手もこちらに合わせてくれたり一人で飛び出して行ったりするので、その点ですでに通じ合っている何かがあることを踊りながら確認できた。
- ・「楽しいからまた会えたらいいね」の気持ち。
- J 2 ・ 違いがあった。
- ・異国人とは一番最初の踊りよりも遠慮なく、何か仕掛けられるようになりました。「私は次あっちに行く、近づくと」いったサインも何となくわかった気がします。
 - ・同国人同士は初めとあまり変わらず、読み合うというより自由に動くだけだったので、どっちかという異国人との踊りの方がコミュニケーションが取れたと思います。
- K 1 ・ 最初に比べて動線を自由に変化することができた。最初より、相手を信じることができたし、不安感を感じなかったからだと思う。
- ・相手を覗う(気にする)というよりは、相手を読み取ることができ、動線的には果敢に動くことができた。
- K 2 ・ ‘楽しい’ という動きを覚えて踊ることに対しては、最初と同じく同国人と異国人の差は感じなかった。しかし、決まった動きではなく、思いを共有したり、テーマがない即興をするときは違いがあった。違いを感じた理由は、お互い勉強したのも違い、生活している環境も違うので、特定のテーマ(動き等)のようなものがないと違いを感じるようだ。

★実験全体の感想

- J 1** ・とても楽しかった。(韓国の人と踊ること/生演奏で踊ること) →両方
- ・自分の動のくせ、動きに表れる自分のくせを再確認できた
 - ・同国—異国にかかわらず個々人での違いがあることや、同国—異国にかかわらず同じようなイメージを(言葉はつたなくても、つくること or 踊りに向かう姿勢や感じ方として)共有できることを実感した
 - ・ピアノ(の選曲も含め)の使い方や1日目の即興テーマなどを変えてまたやりたい。
- J 2** ・私は、即興は動きの面白さや瞬間ごとの緊張感を重視すると思っていて、特に打ち合わせなしに即興で何かを表現するのは難しいと思いました。
- K 1** ・一緒に動き、踊ることには、同国人または異国人という区分による違いはあまり感じなかった。最初はぎごちなく、相手の様子をうかがったり、気を遣い、相手を配慮しながら動いたが、少しづつ時間が経つに連れ、動きの幅が広がり、もっと大胆になっていくことを感じた。感じることやイメージが他の被験者と似ている感じがして心地よさを感じた。このような心地よさがあったから一緒に踊ってスムーズに即興が進んだ。そして、お互い言葉が通じなくても、フォーカスが合って確信があれば、十分に良い作品が作れると思う。
- K 2** ・お互い違う文化をもつ人同士が居ること自体が私には興味深かった。
- ・動きをみて覚えて踊ることよりは、相手の考え・思いを共有し、分かち合って、お互いを補いながら共に作品を作ったことが楽しかった。
 - ・同国人・異国人という区分は関係なく、動きはどこでも通じ合うことを感じた。

★10月30日実験分

即興から作品へ 二人での創作過程の感想とそれを踊っての体感を、自由に書いてください

● 異国人とのペア

【ペアJ 1 & K 1】

J 1

全体：楽しかった

創作：・2人共慣れない英語を使って、曲からのイメージを話し合っている時や、ピアノの弾き方(3人で)、動き方、関係の変化のしかたについて意見を出し合う時が一番楽しかった

- ・こんなにも「相手の言ってること」、「言葉には出て来ないけれど思っているはずのこと」、「相手の反応(表情の変化など)」に気を付けて、相手を感じようとするのは、こうして何か1つのものをつくらうとしている時だからこそなのではないかと思った。
- ・K1と、イメージしているものが似通っていたということがわかり、互いに嬉しかった。曲を聴きながら、他のペアの練習を見ながら、思い付いたことを提案し合っでどんどん取り入れていくことができた。(ピアノの音の始まりや途中の無音など)

踊って：・もう少し音楽を聴いてから踊ればよかったと思った。(全体の長さなどの予測)

- ・自分としては、あまり普段でてこない動きができたと思っている
- ・相手の呼吸や気配を感じて踊る楽しさは、同国も異国も関係ないと思った。

K 1

- ・J 1とは先ず、音楽をどう感じたかを話したが、音楽から感じたことが似ていた。
- ・それをベースにストーリーを展開させた。言葉での意志疎通は難しかったが、全体的な雰囲気話しながら合わせるには、お互いに思うのが似ていて大変さは感じなかった。
- ・踊るときは、昨日のように相手を探索する時間がなく、すぐ合わせるには若干難しかったが、これは国籍が違いから感じる問題ではないと思う。速いテンポのところでは、お互いが相手に緊張をしすぎたのではないかと少し残念に思った。

【J 2 & K 2】

J 2 ・本当に、創作を言葉に頼っているのだと実感しました。特に私は擬音語/擬態語でニュアンスを表すことが多いので、今回はそれができずシンプルな作品になってしまいました。

- K2の方は言葉でイメージを出してくれて、意見が違う所や細かい表情／ニュアンスを2人で決めていきました。
 - 音楽と合わせて（相談して）踊るのも初めてだったのでどう言えば伝わるかわからなかったですが、「左手と右手をかぶせて」とか「楽譜ではこうだけどこ弾いて」という指示でも意外に伝わって踊りと合わせることができました。
- K2**・テーマとストーリーを決めて構成した作品を踊ったので、作品の中で何を表現し、どんな感情を持つべきか、しっかり認知できたため、楽しく作って踊ることができた。
- お互い思うことが似ていて楽しかった。
 - 即興ではなく、ストーリーを決めた状態の方がJ2と共感し、お互いを理解し、果敢な試みも合わせられる感じがした。

【J1&K2】

J1

全体・楽しかったが難しかった。同じ曲を使って次々に“作品”をつくることの難しさ
相手も同じだったかも知れない。どんなテーマでつくるか悩んでしまった

創作・なかなかまとまらずにいたが、「眠っていて夢をみている」ということになった。演奏者に静かに弾いてほしいと伝えに行ったとき、曲名が子守唄であると聞いて2人ではよこんだ

踊って・目を閉じて踊ることで、より相手を感じ、より曲をきき、踊ることができた。

自身はとても面白い体験であり、これらを相手も感じていることが信じられた
但し、見ている人に動きとして見えているものが面白いかどうかは疑問。

この疑問はK2とも共有できていて、2人で苦い顔でうなづき合った。

- K2**・J1とは色々なテーマを取り上げてみた。最後に、‘夢’‘スリープ（寝る）’をテーマにしてみたが、あとで音楽の曲名も‘夢’だと聞いてとても驚いた。

‘夢’‘スリープ’に関する様々な表現を十分に試すことができなかつたので、残念だった。自分なりに集中はできたが、観客側から見ると単調に見えたかもしれないので、私たちが表わそうとしたものが見えたのかな？と気になった。

- 目をつむってお互いの身体を読むことに興味を感じた。繊細な共同作業だったと思う

【J2&K1】

- J2**・今回は「私の事どう思う？」という問いから始めて、2人とも初めての人に対してためらいがないという共通点から作品を創っていきました。

- テーマ性がとてもはっきりしていたので表現しやすかったです。

- 思うことをぼっと伝えてしまったのですれ違ったら言葉も伝わりにくいのでどうしようと思っていたのですが、大枠だけ決めれば細かい所に対するセンスは大体同じで楽でした。大枠も、私の考え方、あなたの考え方というように、日本人と創っている時と同じやり取りで創れました。

- K1**・踊っている時も、目指している所が同じなので、振りなど完全に細かく決めなくても相手が何をやっているか不安になりませんでした。

- J2とは最初お互いをどんな人として見たのかを話あった。そして、全体的な雰囲気と主題を絞った。

- J1に対しても感じたことだが、全体的なイメージまたは感じを話せば、後の細かいところは自然に合わさっていくことがとても不思議で面白かった。

- 一つの主題を決めれば、不安を感じることなく、お互いを感じながら自分の動きに集中することができた。

- 異国人との創作はお互いの意志疎通で多少難しさはあったが、回数を重ねると慣れるみたいで少しづつスムーズに素早く進むことができた。

★10月31日実験分

グループでの即興

1). グループで、即興で踊っての体感を自由に書いてください。

(グループで踊っている時と、一人ずつ順番に踊っている時の両方について。)

- 【K1】・1：1 即興とグループ即興では、その感じはとても異なる。1：1では、相手だけに集中するので、即興をしながら自分の集中に閉じこもってしまう感じがするが、グループでは、客観的な立場で他の人の動きをみながら、自分の動きにも集中でき、また他人にリードされることもあった。大人数だと動きも多様に試みることができたと思う。そして、1：1より、1：3の方が最初の時、ぎこちなさをあまり感じなかった。
- 【K2】・1：1 即興よりグループ即興の方が緊張感があった。初めて一緒に踊る異国人が多かったためか、果敢に動くことはできなかったが、集中はうまくできたと思う。グループの中でお互いが気を遣いながら配慮していることが即興をしながらも感じた。
- ・J1・J2とはお互いを知り合う時間があったので難しくなかったが、グループ即興では事前にお互いを知る時間が少しでもあったら、もっと良い即興になったと思う。

2). 他グループの即興の感想

- 【K1】両方のグループとも若干の緊張感をもって、お互いを観察しながら動きを合わせた。一番印象的なことは、同じグループでも一回目と二回目の感じが異なった。一回目は、新鮮な感じで、緊張感を持ちながら、全く新しい動きのような感じがしたが、二回目は、前回のことを思い出しながらやったので、新鮮な感じはあまりなかった。
- 【K2】最初のグループと即興をしたときは、お互いをよくわからないので果敢に挑むことができなかったし、初めての環境なので慣れるのに精いっぱいだったと思う。二つ目のグループとは最初よりは少しやりやすかったと思う。身体も慣れてきて楽しむ余裕も出てきたと思う。

3). 他のグループの踊りを見ての感想

- 【K1】・異国人と即興をするときと比べて日本人同士で即興をする時がやはり緊張感が少なく見えた。日本人同士だと、お互いに慣れている様子と、動きやタイミングに対して果敢に挑んでいる様子が見えた。その反面、異国人と組んだ時は気を遣いながら踊るのが見えることと、そのため深みを感じた。
- 【K2】・異国人と組んだグループの即興とは違って、同国人同士のグループの即興は果敢で心地よく見えた。グループの中に異国人がいると気を遣い、お互いの身体感覚が緊張しているように感じ、もっと繊細的に見えた。

10月28日課題 **卒業公演に出演しての感想**

1). 自分の大学の公演で踊っている時と、日本人の大学生の公演で踊っている時の体感の違い

- 【K1】韓国と日本で踊ることに関してはその体感の違いはあまり感じなかった。なぜなら、国とは関係なく、人が見て感じることは通じるものであると考えるからだ。私の作品を通して作品内容を理解してもらうことより、観客と感情を共有したいと思った。
- 【K2】韓国での公演と日本での公演での体感の違いは感じなかった。その理由は、観客に作品の意図を如何に伝えるか、は考えるけど、他国で公演することはあまり意識しないからだ。

2). リハーサル、ゲネプロ、本番と、あなたが踊っている時の体感

- 【K1】・リハーサルの時は空間に慣れるため、動きよりは空間を感知することに集中した。
- ・ゲネプロでは、リハーサルの時に認知した空間感覚をベースに感情的な面に集中した。本番よりは落ち着いて集中することができた。
 - ・本番では他のことは気にせず、感情的な面に集中できたので、その時の身体の変化と動きを感じることもできた。

- 【K 2】**・リハーサルでは身体が緊張していたので、チェックするつもりで身体の緊張を解しながら動いた。
- ・ゲネプロでは本番だと思って踊ったが、準備したことを十分に出すことはできなかった。呼吸の調整が難しかった)。緊張がほぐれなかった。
 - ・リハーサルとゲネプロがあったので、本番では、パートナーとの共感と動きの自由を感じることができた。広い視野をもって公演に挑んだ。

3). その他、お茶大の卒業公演に参加しての感想

- 【K 1】**・今まで韓国スタイルの踊りまたは公演を見てきたが、違う国の公演を見ることができて勉強になった。まだ、私の作品について多くの人々と話すことはできなかったが、国籍とは関係なく、ダンサーと観客が‘悲しみ、空しさ’などの感情を分かち合うことができたのか、気になる。そして韓国とは異なる他国の公演のリハーサルの様子も見れたので、これから創作を続けようとする私にとっては人とのコミュニケーション、音楽や照明、またそれを説明する仕方などについてもう一度見直し、考える時間であった。何より、他人を配慮する心を見習うことができた)。
- 【K 2】**・今回の公演を通して思ったのは、韓国と日本、両国のダンススタイル(動きや振付方式など...)の良いところを統合できればいいな...と思った。日本の学生の作品は空間的構成がとても素晴らしかった。様々な構図と動きの方向が自由で、見ていて勉強になった。今後、自分の創作活動にも活かしてみたい。